



令和6年度(2024)
和歌山県地域医療支援センター

夏季実習 報告書

和歌山県
地域医療支援センター
CMSC
COMMUNITY MEDICAL SUPPORT CENTER

www.cmsc.jp/

令和6年度(2024)
和歌山県地域医療支援センター

夏季実習 報告書





Contents



- ご挨拶 2
- 実施項目 3
- 病院・診療所実習 4
- 保健所実習 109
- 実習報告会・交流会 128
- おわりに 131

ご挨拶

和歌山県立医科大学地域医療支援センター センター長・教授
和歌山県地域医療支援センター センター長

上野 雅巳

この夏季実習につきましては、平成23年度に本学地域枠学生を対象として始まり、平成25年度に和歌山県出身の自治医科大学医学部学生、平成27年度に近畿大学医学部和歌山県地域枠学生の希望者、令和5年度に本学県民医療枠B、C学生を加え、少しずつ形を変えながら実施しています。

今年度は参加学生の数71名とこれまでで一番多くなりましたが、地域枠医師をはじめとする多くの関係者の皆様のご協力のもと予定どおり実習を行うことができ、ここにご報告できますことを、大変嬉しく思います。ご協力いただきました県内各病院・診療所、保健所、大学の先生方及びスタッフの方々には、お忙しい中多大なるお力添えをいただき、厚く御礼申し上げます。

この実習の目的として、学生が卒業後勤務する予定の県内各病院・診療所や保健所での実習を通して、地域医療への理解を深めること、様々な手技を体験すること、また先輩医師との交流の場を設けることなどが挙げられます。

本学地域医療枠2～5年生・県民医療枠B、C 1～2年生及び自治医科大学1～5年生は、県内公的病院・診療所で2日間の実習を行い、地域医療の実際の現場に触れることができました。本学地域医療枠1年生につきましては保健所で1日間の実習を行い、地域における保健所の役割や仕組みを学びました。近畿大学学生は、本院において1日間の病院見学を行い、卒業後の研修プログラムなどについても知ってもらう機会となりました。

実習終了後には本学医学部地域枠学生・医師を対象とした実習報告会及び交流会を実施し、他学年や先輩医師と意見交換を行う場を設けました。学生は、報告会での発表や、先輩医師からの貴重なアドバイスをいただくことにより、医師としての将来像がより鮮明になったかと思えます。

このような実習や交流会を通して、学生たちが互いに刺激し合い、共に高め合い、本県の医療を担う能力の高い医師へと成長してくれることを心より願っています。

私たち地域医療支援センター教職員一同、今後も学生たちが安心して卒業後の勤務に臨めるよう、サポート体制などの環境作りに取り組んで参りたいと思えます。

実施項目

○実習の目的

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠学生・県民医療枠B、C学生・県民医療枠A学生（黒潮アクティブラーニング（地域総合診療コース）参加者）、自治医科大学医学部学生及び近畿大学医学部和歌山県地域枠学生が、県内へき地医療拠点病院・診療所等や保健所等の医療現場で実習・見学を行い、医師を志す者として地域医療の魅力や特性を理解し、地域医療に従事する医師の役割及び責任についての認識を深めることを目的とする。

○参加者

- 和歌山県立医科大学医学部地域医療枠1～5年生 45名
- 和歌山県立医科大学医学部県民医療枠A 2年生 2名
- 和歌山県立医科大学医学部県民医療枠B、C 1～2年生 10名
- 自治医科大学医学部1～5年生 13名
- 近畿大学医学部和歌山県地域枠学生 1名 計**71**名

○実習日程

〈へき地医療拠点病院・診療所等実習〉

令和6年7月18日(木)～8月28日(水)の2日間もしくは5日間

〈保健所実習〉

令和6年8月2日(金)～8月23日(金)の1日間

〈和歌山県立医科大学附属病院見学〉

令和6年7月16日(火)～9月5日(木)の1日間

○実習報告会・交流会

〈日 程〉 令和6年8月24日(土) 15:30～19:00

〈内 容〉 ①学生による実習報告会

②学生・医師の交流会

〈参加者〉 計**66**名

病院・診療所実習

〈病院・診療所実習〉

令和6年7月18日(木)～8月28日(水)の2日間もしくは5日間、本学地域医療枠2～5年生・県民医療枠B、C 1～2年生・県民医療枠A 2年生（黒潮アクティブラーニング（地域総合診療コース）参加者）（計47名）及び自治医科大学1～5年生（13名）が県内19か所の病院・診療所に分かれて実習を行いました。主に本学地域医療枠、自治医科大学及び近畿大学医学部和歌山県地域枠出身の先輩医師のご協力の下、1対1～2でご指導をいただきながら、卒業後勤務する予定であるべき地医療拠点病院等での仕事内容について学び、地域医療についての理解を深めることができました。

〈和歌山県立医科大学附属病院見学〉

令和6年9月に近畿大学医学部和歌山県地域枠学生1名が本学附属病院にて、希望する診療科を見学しました。実際の医療現場に触れるとともに、研修制度についての説明なども受ける機会を得ました。



参加者名簿

▼和歌山県立医科大学医学部 地域医療枠・県民医療枠 A、B、C

実習先	枠	学年	学生氏名	対応医師名	実習日
橋本市民病院	地域医療枠	2	粉川ひなの	堀谷 亮介先生	8月 5日(月)～8月 9日(金)
	県民医療枠B	2	鶴見 愛海	池島 美和先生	7月25日(木)～7月26日(金)
	県民医療枠B	2	中川 隼平		
	県民医療枠C	2	木内 大樹	大橋 豪先生	8月21日(水)～8月22日(木)
	県民医療枠C	1	辻道 弘和		
和歌山県立医科大学 附属病院紀北分院	県民医療枠A	2	上山 双葉	河井伸太郎先生	8月 5日(月)～8月 9日(金)
公立那賀病院	地域医療枠	5	橋爪 智大	永井 早紀先生	8月19日(月)～8月20日(火)
国保野上厚生総合病院	地域医療枠	5	三住 晃士	北 綾子先生	7月29日(月)～7月30日(火)
	地域医療枠	4	吉益 実咲	桐村 直樹先生	7月22日(月)～7月23日(火)
有田市立病院	地域医療枠	4	植村 香怜	串 雅紀先生	7月24日(水)～7月25日(木)
	地域医療枠	3	前北 萌瑛	小林 真生先生	7月30日(火)～7月31日(水)
県立こころの医療センター	地域医療枠	3	須藤 大喜	長沖柊一朗先生	7月25日(木)～7月26日(金)
	県民医療枠C	2	今西 悠登	平田真之将先生	7月24日(水)～7月25日(木)
ひだか病院	地域医療枠	5	谷上 大典	濱 裕也先生	8月19日(月)～8月20日(火)
	地域医療枠	5	冷水 詩音		
	地域医療枠	3	野中 逸希	森下 晃先生	8月 6日(火)～8月 7日(水)
	地域医療枠	2	鯨 千洋	出崎 祐気先生	7月24日(水)～7月25日(木)
	地域医療枠	2	楠山 博也		
	県民医療枠B	1	安井 悠人	西森 敬司先生	8月 7日(水)～8月 8日(木)
	県民医療枠B	1	山本 玲		
紀南病院	地域医療枠	5	榊原 夏葉	谷河 育朗先生	7月30日(火)～7月31日(水)
	地域医療枠	5	中平 悠馬		
	地域医療枠	4	樋上 和真	森 佑熙先生	7月24日(水)～7月25日(木)
	地域医療枠	4	吉岡 咲季		
	地域医療枠	2	笠間 心琴	谷河 育朗先生	8月22日(木)
	地域医療枠	2	松尾 美海		
	県民医療枠C	2	美馬 知波	林 子耕先生	8月21日(水)～8月22日(木)
	県民医療枠B	1	伊藤 愛	林 子耕先生	7月31日(水)～8月 1日(木)
	県民医療枠C	1	石井 南帆	林 子耕先生	8月 7日(水)～8月 8日(木)
国保すさみ病院	地域医療枠	4	中西晴奈加	川端 公貴先生	7月22日(月)～7月23日(火)
	地域医療枠	2	田尻 鈴夏	井上 育美先生	8月26日(月)～8月28日(水)
くしもと町立病院	地域医療枠	4	小林 太基	貝持 裕太先生	7月18日(木)～7月19日(金)
	地域医療枠	2	山本 晏	仁木 龍登先生	8月22日(木)～8月23日(金)

実習先	枠	学年	学生氏名	対応医師名	実習日
那智勝浦町立温泉病院	地域医療枠	5	榎本 真太	山田 裕規先生	7月31日(水)～8月 1日(木)
	地域医療枠	5	土山 徳季		
	地域医療枠	4	奥村 麗	山本 章先生	7月25日(木)～7月26日(金)
	地域医療枠	3	吉野 真登	武内 菜摘先生	7月23日(火)～7月24日(水)
	県民医療枠A	2	平林 和樹	神田 真美先生	7月29日(月)～8月 2日(金)
新宮市立医療センター	地域医療枠	5	福井 凜	井上 慎吾先生	7月30日(火)～7月31日(水)
	地域医療枠	4	石田 聖葉	鴻谷 浩武先生	8月 6日(火)～8月 7日(水)
	地域医療枠	4	東本 胡桃	塩谷 一樹先生	7月25日(木)～7月26日(金)
	地域医療枠	3	万谷 瑞姫	中 暁洋先生	7月24日(水)～7月25日(木)
	地域医療枠	2	小山 貴士	小畑 智彦先生	8月 1日(木)～8月 2日(金)
	地域医療枠	2	松田 篤彦		
	地域医療枠	2	濱 颯汰	師玉 拓季先生	7月24日(水)～7月25日(木)
国保北山村診療所	地域医療枠	4	中西 歩登	内川 宗大先生	7月23日(火)～7月24日(水)
	地域医療枠	4	山本有美恵		

▼ 自治医科大学医学部

実習先	学年	学生氏名	対応医師名	実習日
橋本市民病院	5	南方 紀香	福井 智也先生	
	3	虎地 美侑		
高野山総合診療所	1	西 哲希	福井亜理沙先生	
	1	林 凜太郎		
	1	米田 翼		
有田市立病院	4	住 茜音	額田 洋平先生	
日高川町国保川上診療所			平林 直樹先生	
国立病院機構 和歌山病院	4	八木 博己	園田 健留先生	8月22日(木)～8月23日(金)
国立病院機構 南和歌山医療センター	2	井邊 礼子	小山 史恭先生	
	2	中野 智遥		
白浜町国保川添診療所 白浜はまゆう病院	5	崎山 晟旺	竹井 陽先生 玉置 佑麻先生	
国保すさみ病院	2	中森 蓮	岡本恵里花先生	
国保北山村診療所	3	小濱 颯汰	内川 宗大先生	
	3	古久保仁紅		

▼ 近畿大学医学部

見学先	学年	学生氏名	見学診療科	見学日
和歌山県立医科大学附属病院	5	佐原 未玲	小児科・血液内科	9月4日(水)

1 橋本市民病院



位置 和歌山県橋本市小峰台2丁目8-1

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

2年生 粉川 ひなの

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

橋本市民病院は和歌山県橋本市にある医療機関で、和歌山県の災害拠点病院、臨床研修病院、へき地医療拠点病院などの指定を受けている病院です。橋本市の人口は約60,000人です。高齢化率は43.7%のため、人口の約半分が高齢者となります。また、全体の人口はだんだん減少してきています。



2. 実習内容

今回の実習では橋本市民病院の強みの一つである総合内科でお世話になりました。橋本市民病院の総合内科は主にA、B、Cの3チームに分かれていて、外来や新しい入院患者の担当をこの3チームで分担しています。私は実習の5日間で、Aチームで2日、Bチームで1日、Cチームで2日お世話になりました。

実習の内容は、各チームの研修医の先生の後について回るというものでした。全日とも朝は8:30に集合して最初に全体カンファレンスをしました。そこでは、全体で共有しておかなければいけないことを共有していました。そして全体カンファレンスが終わると、各チームに分かれてチームカンファレンスをしました。そこではそのチームが担当している入院患者の前日の夕方から当日の朝にかけて何かイベントがなかったかを情報共有していました。主に研修医が入院患者に対してその日何をするかを発表して、それに対して上の先生方がアドバイスをするというものでした。そのアドバイスを受けた後に患者さんの回診をして、チームカンファレンスで決めたことを実行します。その後はそれぞれの医師がカルテを書いていた。そして16:00から再びチームカンファレンスがあり、その日あった出来事を共有して1日が終了しました。

3. 考 察

病棟を回った時に、一部使用されていない場所がありました。それに関して先生に聞いてみると、橋本市の人口が年々減少していることが関係しているのだと教えてくださいました。私は高齢化が進んでいけば自然と入院患者数は増加するものだと思い込んでいました。しかし、病床数が減少していることを知って初めて、一部だけ見えても全体像はわからないのだということに気がつきました。

また、新しく入院する患者さんやそのご家族との面談が印象的でした。入院する時点で主治医から寝たきりになるかもしれないことを説明するのだということに非常に驚きました。そして、先生方が患者さんやそのご家族の希望を引き出すのがとても上手だと思いました。患者さんたちの希望は、できるだけそのまま引き出したいが、先生の方からある程度誘導しないと希望を伝えにくいため、どれくらい誘導するのか、その程度を調整するのが難しいと思いました。患者さんやその周りの人たちからたくさん話を聞いたり、観察したりして病気の原因を追求していくこともすごく難しいと思いました。

もうすぐ亡くなりそうな患者さんのご家族にそのことを電話で伝える場面を見学させていただいたときに、言葉選びが非常に大事だと思いました。電話で、直接的な言葉を使わずにある程度覚悟をしておいてもらうのはすごく難しいことだと思いました。

4. 謝 辞

5日間、お忙しい中たくさんの方の事を教えていただき、本当にありがとうございました。みなさんお忙しいながらも私と仲良くしてくださり、非常に楽しい5日間を過ごすことができました。私も医師になったら、みなさんのように、どんなに余裕がなくてもミスなく仕事をこなし、周りに優しくできるようになりたいです。そのような医師になるために残りの学生生活で目一杯のことを吸収していきたいと思います。

最後になりましたが、先生方のこれからの益々のご活躍を心よりお祈りしています。本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部県民医療枠B

2年生 鶴見 愛海

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

私は7/25、7/26の2日間、橋本市民病院の産婦人科で実習をさせていただきました。橋本市民病院が位置する橋本市は人口58,947人（2024年7月31日現在）の市で、高齢化率は33.3%（2020年）となっています。全国の平均高齢化率は28.7%であることから、全国的にみても高齢化が進行している市であります。立地的には、大阪府や奈良県、和歌山市のどの方面にもアクセスしやすいところにあり、また世界遺産高野山の麓にあり、市の中央には紀の川も流れる、山河の自然が豊かな市です。橋本市の特産品としては柿、卵、ブドウ、紀州へら竿やパイル織物などがあげられます。このよう



ダヴィンチ使用中の様子

な橋本市に地域中核病院としてあるのが橋本市民病院です。橋本市民病院は病院の敷地内にバス停があるため、高齢の方でもアクセスしやすくなっています。橋本市民病院の病室構成は個室75室、4床室54室、特別個室3室、感染個室6室で計300床の病床があります。また、総合内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、腫瘍内科、代謝内科、小児科、外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、脳血管内治療科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、リウマチ・膠原病科、病理診断科、救急科、健診センターの26の診療科があります。職員数は計458名で、うち医師49名、看護師204名、助産師12名、薬剤師12名のような構成になっています。

2. 実習内容

私は2日間、産婦人科医の池島美和先生に担当していただいて、実際の産婦人科の現場を見

学させていただきました。1日目はまず病棟に行き、産後の方の経過観察に付き添わせていただきました。産後は高血圧や貧血になることが多いためその部分を特に気を付けて回診していました。また午前には腹腔鏡手術などで用いられる医療器具の試用に立ち合わせていただき、実際に鶏肉を焼いて切除するという経験をさせていただきました。午後はドライBOXという腹腔鏡機械を用いた縫合練習の道具を借りて縫合の練習をし、池島先生に手縫いの方法も教えていただきました。またダヴィンチという機械に搭載されたミニゲームでダヴィンチの機械の操作を練習させていただきました。また実際に手術室に入り、ダヴィンチを使った手術のシミュレーションを見学させていただきました。

2日目の午前は外来を見学させていただき、妊娠初期の妊婦さんから出産間近の妊婦さんの妊婦検診や子宮・子宮頸がん検診を見ることができました。午後は1日目にも体験させていただいたドライBOXや手縫い、ダヴィンチを再度練習させていただきました。



ドライBOX使用中の様子

3. 考 察

私は今回初めて医療器具を使うという経験をさせていただいたのですが、想像以上に扱うのが難しいと感じました。先生方が使っているところを見るとすごく滑らかに使いこなしていて、その理由を尋ねると「何回も練習したからね」とおっしゃっていて、改めて繰り返し練習することの大切さに気付きました。ダヴィンチの機械も実際に使ってみて、繊細な作業が、機械のおかげでとてもやりやすくなっているなと感じました。妊婦検診では、当たり前ですが妊娠週数が多いほど赤ちゃんもより明確に見え、3Dエコーで見る赤ちゃんは表情などや、「今手で顔隠してるね」といった様子もわかり、すごく感動的で興味深かったです。私が立ち合わせてもらった定期健診で妊娠確定となった妊婦さんもいて、その方がすごくうれしそうに泣いているのを見て、生命が宿るのは本当に素晴らしいもので奇跡なんだと改めて感じることができました。

4. 謝 辞

池島先生はじめ関わってくださった方々には非常に多くのことを教えていただきました。本当に貴重な2日間を過ごすことができました。今回の実習で学んだことを今後の勉強にも生かしていきたいと思います。この度は本当にありがとうございました。

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

橋本市は、和歌山県の北東端の県境付近に位置し、面積約130平方キロメートルであり、県内の9市のうち5番目の広さである。人口は約6万人である。世界遺産高野山の麓にあり、中央には、紀の川が流れ、山河の自然も豊かである。市内の主な特産品として、巨峰や鶏卵がある。また、パイル織物、紀州へら竿は日本一である。

橋本市民病院は和歌山県橋本市小峰台に位置し、医療を介して地域の発展に尽くすこと、こころの通う医療で、地域住民の健康の保持、増進に尽くすこと、中核医院としての機能の向上に尽くすことを理念としている病院である。総合内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、代謝内科、小児科、外科、乳腺外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、脳血管内治療科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、救急科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、病理診断科、腫瘍内科、リウマチ・膠原病科の診療科があり、一般病床数は300床である。また、産婦人科では、県内で最初にメッシュを使用した性器脱手術を導入し、良好な成績を収めているのが特徴である。



2. 実習内容

1日目は、午前中に腹腔鏡手術で使う機械の試用、午後からは手縫い、ドライボックスで腹腔鏡の練習、da Vinci SimNow シミュレーターをさせていただいた後に実際に先生がシミュレーションを行う所を見学させていただいた。2日目は、まず午前中に外来見学をし、午後から手縫い、ドライボックスで腹腔鏡の練習、da Vinci SimNow シミュレーターをした。腹腔鏡手術で使う機械の試用では、機械の使い方を教えてもらい、鶏肉を用いて、機械を使いながら切断した。機械によってさまざまな長所と短所があるのだとわかった。手縫いでは、手術の結紮で使う、外科結びと男結びを教えてもらった。ドライボックスでの腹腔鏡の練習では、縫合結紮の練習をさせてもらった。手元が写った画面を見ながら縫合するときに、右手と左手で持つものの距離感がわからず、とても難しかった。Da Vinci SimNow シミュレーターでは、da Vinci手術での機器の操作方法を学んだ。両手両足全てを利用して操作するので慣れるまで凄く時間がかかるのだらうなと思った。2日目の午前の外来見学では、産婦人科医が普段どのように外来患者を診ているのかを見学させてもらった。

3. 考 察

腹腔鏡手術で利用する機械には、振動で切断する機械や熱で切断する機械などがあり、それ

それに長所と短所があるので、切断部位の近くに傷つけたらいけないものがあるのかなどを踏まえて、どの機械を利用するのか考える必要があると思った。手縫いには、外科結びや男結びなど、いくつかの種類があり、それぞれにほどけにくさや結ぶのにかかる時間などの違いがあるため、どこを縫合するのか、どれくらいの強度が必要なのかなどを踏まえて使い分けているのだと考えられた。また、腹腔鏡手術では、直接ではなく画面を見ながら縫合を行う必要があるため、ドライボックスで練習を重ねて、素早く出来るようにする必要があると考えられる。da Vinci手術のメリットとして、従来の開腹手術と比較して、傷口が小さいこと、痛みが少ないことから、術後の回復がはやいことがあげられると考えられる。デメリットとしては術者が直接臓器に触れられないため、触覚がないことが挙げられると考えられる。また、導入コストの高さや術者が機器を使いこなせるようになるまでに時間がかかることも挙げられる。また、外来を見学していると、見学させていただいた先生の患者を捌くはやさが1番印象的だった。1日に何人もの患者を診る必要があるため、短い時間で必要な情報を素早く聞き出す必要があり、逆に、わかりやすく素早く説明する技術が必要だと考えられる。また、内診では、素早く行いながら痛みなどないかを常に声をかけながら診察を行う必要があるのだと考えた。

4. 謝 辞

この実習を遂行するにあたり、池島美和先生をはじめ、橋本市民病院、産婦人科の先生方に感謝の意を表します。実習の実施にあたり、地域医療支援センターの方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。また同じ実習の中で鶴見愛海さんには刺激的な意見をいただきました。ありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部県民医療科

2年生 木内 大樹

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

1市3町（橋本市・かつらぎ町・九度山町・高野町）により構成される橋本保健医療圏内の総人口は、県人口の1割弱にあたる。圏域の総人口については、令和12年頃に向けて減少の一途を辿ると推計される一方で、75歳以上人口に関しては増加していく見込みである。このような高齢化の進展や疾病構造の変化等に対応するための医療連携体制の構築が必要となる。また、圏域内には5病院が所在し、高度急性期・急性期・回復期を中心とした医療が提供されているが、慢性期医療については他圏域への依存が大きい現状があることから、高齢化が進む将来に向けての体制構築が課題となっている。患者の受療動向に関しては、大阪府、和歌山・那賀保健医療圏への流出が多く、その



一方で、那賀保健医療圏、奈良県からの患者が流入しており、圏域を超えた患者流出入が多い地域となっている。疾病別では、慢性期患者やがん・糖尿病等の患者流出が多い特徴がある。

このような橋本保健医療圏にある橋本市民病院は、2004年に橋本市小峰台に移転した。また、総合内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、代謝内科、小児科、外科、乳腺外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、脳血管内治療科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、救急科、耳鼻いんこう科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、病理診断科、健診センター、腫瘍内科、リウマチ・膠原病科の26の診療科を標榜し、地域中核病院として圏内の人の健康を支えている。

2. 実習内容

8月21日、22日の二日間、小児科の大橋豪先生の下で実習をさせていただいた。実習の時間割は以下の通りであった。

1日目 午前 小児科の外来の見学をした。
午後 再び外来の見学をした。

2日目 午前 病棟の見学をしたのち、外来の見学をした。

外来の見学をしていると、手足口病やヘルパンギーナの疑いで受診する患者さんが多く、親御さんの不安を取り除くために、丁寧に説明する姿に感銘を受けた。先生が小児科医として勤務するうちに、赤ちゃんに慣れて、自分の子どもの時には、落ち着いて育てることができたというエピソードもお聞きすることができた。

3. 考 察

今回、県民医療枠Cとして小児科で実習させていただいた。実習を通して市中病院における小児科診療を身近に感じることができた。小児科では、治療にあまり協力的でない患者さんが多く、その様な状態で処置を行うのに根気強さが必要であると感じた。また、親御さんはお子さんの状況に不安を持ちがちであるため、それを和らげるために、適切なコミュニケーションをとることの重要性を痛感した。

4. 謝 辞

この度はお忙しい中、私たちのために夏季病院実習を計画していただいた地域医療支援センターのスタッフの皆様、病院実習を引き受けていただいた橋本市民病院のスタッフの皆様、特に大橋先生をはじめとする橋本市民病院小児科の皆様にご心より感謝申し上げます。この度の研修を通して小児科医になりたい思いが強まりました。この度の経験を活かして、今後の勉学に精進していくとともに、コミュニケーション能力や根気強さを高めていきたいと思っております。ありがとうございました。

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

橋本市は和歌山県の北東部に位置する市である。人口は58,947人である。特産品は平核無柿、富有柿や巨峰や鶏卵である。中でも鶏卵は県内の生産量の50%以上を占めている。橋本市内の日本一はパイル織物、紀州へら竿などがある。高野口地方のパイル織（編）物は、基布に毛（パイル糸）が織り（編み）込まれている特殊な有毛布地で、日本一の生産高を誇っている。パイル織（編）物の製品は高級毛布をはじめ、シート生地、インテリア用品、衣料用品、寝装用品など、あらゆる分野にわたり国内外で広く愛用されている。100年以上の伝統を受け継ぐ紀州へら竿は、全国シェアの大半を占め、さらに平成25年に国の伝統的工芸品に指定された。橋本市は「紀州へら竿の里」と呼ばれ、へらブナ釣り愛好者羨望の竿はここから生まれている。（橋本市ホームページから）

橋本市民病院は橋本市に位置し、HCU6床を含む一般病床300床がある。平均医師数は71.7人である。診療科は総合内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、代謝内科、小児科、外科、乳腺外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、脳血管内治療科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、救急科、耳鼻いんこう科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、病理診断科、健診センター、腫瘍内科、リウマチ・膠原病科がある。周辺の医療機関としては、山本病院、紀和病院がある。いずれも橋本市内にあり、救急指定病院である。



2. 実習内容

実習内容は1日目、2日目ともに小児科外来の見学がメインであった。ご指導いただいた先生は小児科の大橋豪先生（卒後6年目）であった。1日目は8時半頃に橋本市民病院集合し、院内案内をしていただいた。生まれて数日の乳児を見せていただき、抱っこもさせていただいた。分娩室も見学した。その後、小児外来の見学をさせてもらった。数多くの患者さんが来院し、とても忙しそうだった。風邪や手足口病の患者さんが多い印象を受けた。手足口病の症状に伴う喉の痛みにより飲んだり食べたりすることが困難となり脱水症状のある患者さんに対して採血と点滴を行っていた。その様子も見学できた。昼休憩を挟み午後からは一か月検診の様子も見学した。その後、小児外来を見学し、15時頃解散となった。

2日目は8時に橋本市民病院に集合し、病棟の回診を見学した。マイコプラズマ肺炎で入院していた患者さんの入院を継続するかの判断をしていた。その後、1日目と同じように外来の見学をして、12時頃実習が終了した。

3. 考 察

病院実習に行くのは早期体験実習を含め2回目であり、小児科を特に重視して実習に行ったのは初めてだったので、小児科の医師の働き方を知ることのできるいい機会となった。1か月検診を見学して、小児科が診る年齢層が広く、病気を治すだけでなく病気を発見することも大事であると感じた。診察の際に、保育園や幼稚園に通っているのかや周りの子供がどんな病気に罹っているのかなど患者である子供の置かれている状況について、保護者などに聞き取りをしていた。治療に有効な情報を得るためにも、患者さんの保護者との会話が病気を診断する上で大事であると実感した。また、保護者との会話だけではなく患者さん本人の意思もきいていた。

手足口病など食事のとりにくい感染症には点滴での治療が有効であるようだった。子供の細い腕に点滴のために針を入れるのは、非常に難しいと思った。また、子供が腕を動かさないように固定するのも大変そうだった。この実習を通じて医学の知識や手技を身に着けたいと思った。

4. 謝 辞

2日間にわたり夏季病院実習に参加させていただき、誠にありがとうございました。このたびの病院実習では、実際の現場を拝見させていただき、貴院の皆様の熱意溢れる様子や、患者様に丁寧に対応されていた姿を見て大変感動いたしました。貴院の医師の皆様のような患者様思いの医師になれるよう、より一層学業に励んで参ります。

〈自治医科大学学生実習風景〉



2 和歌山県立医科大学附属病院紀北分院



位置 和歌山県伊都郡かつらぎ町妙寺219

和歌山県立医科大学医学部県民医療枠A

2年生 上山 双葉

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

私が実習にうかがわせていただいたのは、和歌山県かつらぎ町にある和歌山県立医科大学附属病院紀北分院です。紀北分院は、地域に密着した安心・安全な医療を提供し、地域の保健医療の発展に貢献するという基本理念をかかげる、総合診療科を含む内科をはじめとした12科の診療科をもつ病院です。医療圏は橋本保健医療圏で、主にかつらぎ町、加えて橋本市や高野町、九度山町に住む人が通う病院となっています。かつらぎ町の人口は約15,000人、人口密度は約100人/km²です。また、かつらぎ町の人口は一貫して減少を続けています。内訳としては、64歳以下の人口は減少を、65歳以上の人口は増加を続けており、結果として少子高齢化が進

んでいると言えます。このように、かつらぎ町では高齢化が和歌山市などに比べて顕著に進んでいるため、紀北分院に来院される患者さんは基本的に50代以上の方が大半です。紀北分院では、こういったかつらぎ町の特色に応じて、地域医療連携室の病院内の設置、訪問診療の実施、リハビリテーション科の増設など地域に密着した取り組みを行っています。また、紀北分院の4階の病棟エリアは、新型コロナウイルスなどといった感染症のパンデミックが起こった際に用いるために、現在は使用されていないが残されているとのことです。

2. 実習内容

私は、5日間実習を行わせていただきました。5日間毎日、朝8:30からの内科カンファレンスに参加させていただきました。1日目の午前中は、梶本先生に案内していただきながら病院全体を見学させていただきました。また、川口先生の指導のもと、エコー検査を実習生間で体験しました。午後は、中央検査室と放射線室にうかがい、それぞれ機器や検査の内容を教えてくださいました。2日目の午前中は、河井先生の糖尿病外来を見学させていただきました。また、研修医の松下先生の、病棟での新規入院患者さんに話を聞く様子を見学させていただきました。午後は、訪問診療にご一緒させていただき、野田先生の診察を見学させていただきました。3日目の午前中は、リハビリテーションの様子を見学させていただき、石田先生の診察を見学させていただきました。その中で、石田先生にリハビリテーション科の目標や内容についての説明もさせていただきました。4日目の午前中は、河井先生にご一緒して病棟の見学をさせていただきました。その中で、内科カンファレンスで話していた内容を2年生の知識でも分かるようにと、かみ砕いて説明してくださいました。4日目の午前中は、研修医の星本先生の皮膚科の予診を見学させていただきました。その後は、皮膚科の野田先生の外来・処置を見学させていただきました。5日目は午前のみの実習で、午前中は外来の処置室で採血の様子などを見学させていただきました。

3. 考 察

まず、この5日間の実習を通して最も感じたことは、2年生になり解剖学や生理学の知識を得ることで内科カンファレンスの話の内容や、画像データの見方など分かる部分が多くなったという点です。普段大学で勉強しているときは、骨や筋肉の名称、神経回路や内臓の機能など断片的な知識を頭に入れるので精一杯でしたが、内科カンファレンスなどで「この神経が傷害されているからこの部位に障害が出る」「このイオンが減少しているからこのような症状・検査結果が出る」と実際の診察に活用されている場面を目の当たりにし、自分が今勉強していることと実際の診察の関連を実感できました。このように、基礎医学の重要性を自身で体験・実感することができるという点、そして関連を実感することでより勉強へのモチベーションが高まるという点にも、早い学年のうちから病院実習に参加することの意義があるのではないかと考

えました。

また、今回の実習では、研修医の先生方と一緒に行動させていただく機会が多かったため、研修医の仕事内容などを実際に知ることができました。研修医の先生方に、県民医療枠医師の働き方、診療科ごとの特色や専門医取得についてなど、講義ではなかなか聞くことのできない話をたくさんお話していただいたため、自分の将来なりたい医師像や働き方について、より考えを深めることができました。このように、地域の病院に実習に行くことで私と同じ地域枠の先生方と交流する機会が得られ、自分の将来について早い段階から考えられるという点もこの実習の利点であると改めて感じました。

そして、昨年度と同様に中央検査室、薬局、放射線室そしてリハビリテーション室などの医師以外の方々が中心となって働く現場を見て、病院は医師だけではなく多くの医療従事者の方々によって回っている施設であるということを実感しました。そのような医療従事者の方々に感謝の気持ちを忘れない医師になりたいなと強く感じました。

今回の実習は、昨年度と同じ施設に行ったため、より自身の成長を実感できた実習でした。このように、同じ施設に行くことで自分の成長をより明確に実感できるという点もこの黒潮医療人養成プロジェクトの利点であると思います。また、内科カンファレンスでは英語や略語が飛び交うことが多く、日本語でだけ覚えれば良いというわけではないのだと学びました。そこで、実習中に廣西先生からアドバイスしていただいた「わからない単語はすべてメモに書き出して、その日の終わりに調べる」というのを次の実習から実践してみたいなと考えています。そこで、略語やよく使われる英語などを学んでいきたいなと思います。

4. 謝 辞

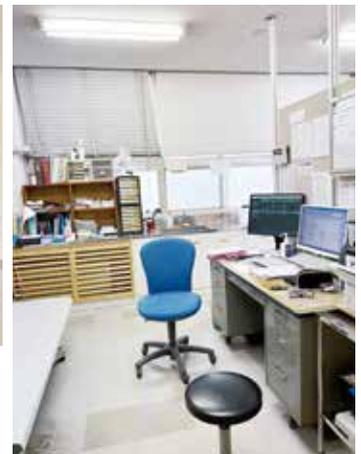
廣西先生は、地域枠の医師としてどのように生きていけばいいのか、そして実習のアドバイスなどを教えてくださいました。梶本先生は、病院内の案内や説明を細かい部分までしてくださいました。川口先生は、エコー検査での各臓器の映り方やエコーの当て方などを丁寧に教えてくださいました。河井先生は、昨年度に引き続き外来の見学をさせてくださり、また病棟見学では私にも分かるように症状などを説明してくださいました。野田先生の診療からは、訪問診療で地域に寄り添い、地域の人に愛される医師像を学ぶことができました。研修医の星本先生・松下先生は、研修医について様々なことを教えてください、見学についても快く承諾してくださいました。また、事務の森中さんは、お忙しい中にもかかわらず、昨年度と被らないようにと実習の予定を立ててくださいました。そして、何もできない私の見学を受け入れてくださった看護師や検査技師、放射線技師その他多くの医療スタッフの方々、本当にありがとうございました。本実習にご協力いただいた多くの方々に、感謝の意を表します。

3 高野山総合診療所



位置 和歌山県伊都郡高野町高野山631

〈自治医科大学学生実習風景〉



4 公立那賀病院



位置 和歌山県紀の川市打田1282

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

5年生 橋爪 智大

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

今回、私は紀の川市にある公立那賀病院に受け入れていただき、地域実習を行った。

本レポートでは、地方の中核病院における医療の実態、診察内容を学習することを目的とし、その実習の内容について記載する。

公立那賀病院は和歌山県紀の川市に位置する病院であり、紀の川市と岩出市の医療の中心となっている。診療科目は



一般内科、呼吸器内科、腎臓内科、血液内科、循環器内科、リウマチ科、神経内科、一般外科、乳腺外科、呼吸器外科・胸部外科、脳神経外科、整形外科、リハビリテーション科、小児科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、麻酔科、放射線科、臨床腫瘍科、救急科、精神科、検診科、病理診断科、臨床検査科があり、大学病院に近い数の診療科がある。循環器内科や乳腺外科・呼吸器外科は医大からの外勤医師が担当している。

病床数は300床であり、常勤の医師は2024年現在で61名であり、地域医療卒の医師も在籍している。

次に施設の構造について記載する。1階には受け付け、外来があり、奥には内視鏡室、放射線治療室があり、X線透視下治療を行っている。2階には手術室があり、エレベーターを昇ると病棟に至る。病棟では急性期、回復期などにわけて患者を管理している。放射線治療室で胆管結石などの治療を鎮静下のもとで行っている。

2. 実習内容

設備を一通りみせていただき、医大以外の病院でも設備投資が行われており、医療水準が保たれていると感じた。内視鏡設備については医大とほぼ同等であり、内視鏡操作ができる医師も多く技術の高さを確認した。地方の病院では救急医療が逼迫していることは常々から聞かすが、当直の時は忙しく座る暇もないと聞き驚いた。当直体制の違いもあるがこれは人員の問題もあり、難しい問題であると感じた。外来ではいろいろな疾患の患者が来院し、のちの治療について話し合う場面を見せていただいた。患者のADLが低く、親族による送迎ができなくなると来院が難しくなる場合には転院も考えるなど、医療者側と患者側の両方から治療を考える必要があり、実臨床の難しさを学んだ。

3. 考 察

地域の中核病院でも科でも診療科が充実していることがあり、医療水準の向上に貢献していることを学んだ一方で、人員、施設規模の関係から常勤医師がいない科があること知った。これは単に増やせばいいと言う問題ではなく、他の病院との連携によって足りない部分を補うことが現在の対処となっていると思われる。県全体で見れば医大中心の医療であるのは確かだが、市や町基準で考えた場合にその考えは必ずしも正しくなく、地方に即した医療提供が重要であると学んだ。また、地域医療卒の医師は配属後すぐに外来患者などが割当てられるため、研修医時代に問診スキル、手技を磨いておく必要があると感じた。

4. 謝 辞

実習の手配をしていただいた地域医療支援センターの方々、実習を担当していただいた永井先生に深く感謝申し上げます。

5 国保野上厚生総合病院



位置 和歌山県海草郡紀美野町小畑198

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

5年生 三住 晃士

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

今回の実習でお世話になった国保野上厚生総合病院は、和歌山県海草郡紀美野町に位置している。紀美野町の人口は8,256人で、和歌山県の人口の約0.89%を占めている。また、65歳以上の高齢化比率は48.6%と全国平均の28.0%と比較して高くなっている。面積は128.34km²で、生石高原やみさと天文台などの観光スポットもあり、自然に恵まれた地域である。本病院は紀美野町の西端に位置し、県立医科大学附属病院や日赤和歌山医療センター等とともに、和歌山保健医療圏の一端を担っている。診療科に関して、内科、整形外科、眼科、泌尿器科、神経精神科は常勤医師により診療している。循環器内科、外科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、婦人

科も標榜しており、医大派遣の医師により診療が行われている現状である。病床数は、一般病床（地域包括ケア病床）99床、精神病床100床となっている。

2. 実習内容

【実習の時間割】

1日目

8:30 ~ 9:00	病棟回診
9:00 ~ 12:00	外来見学
12:00 ~ 13:00	昼休み
13:00 ~ 15:00	外来見学



2日目

9:00 ~ 10:00	病院施設見学
10:00 ~ 11:30	病棟回診&腹腔穿刺見学
11:30 ~ 13:30	昼休み
13:30 ~ 14:00	嚥下造影検査見学
14:00 ~ 14:30	胸腔穿刺見学

2日間通して、卒後9年目、腎臓内科医の北綾子先生にお世話になった。病棟回診では北先生の受け持ち患者さん計9人（誤嚥性肺炎、慢性腎不全、ネフローゼ症候群、膵臓がん、認知症などの疾患）の回診を行った。また外来では、機能性ディスペプシア、甲状腺機能低下症、バセドウ病、パーキンソン病、高血圧、心不全などの疾患で来院されている方がいた。回診、外来ともに特定の診療科とは限らず、幅広い内科疾患の診療を行う必要があると感じた。さらに、医大に来院されている患者さんより年齢層が高齢だと感じた。外来見学の最後には、救急外来や内視鏡検査を見学した。内視鏡検査は本病院では基本的に消化器内科医が行い、検査だけでなくEMRやESDまで行うとのことであった。しかし、他院では北先生も内視鏡を行ったことがあり、へき地では他の専門領域の手技を行う必要があることも知った。

2日目の病院施設見学では手術室、一般病床、精神科病棟、栄養管理棟、ホームぬくもりなどの見学を行った。手術を実際に行っている診療科は整形外科、眼科、泌尿器科など常勤の医師がいる科に限られるとのことであった。精神科病棟に関しては、精神病床が100床と医大と比較しても多く、病棟内も明るい様子だった。精神科患者さんの共同住居であるホームぬくもりがあることや、多職種と連携した精神科リハビリテーションを行っていることから、非常に精神科疾患の治療に力を入れた病院だと感じた。

腹腔穿刺や胸腔穿刺、嚥下造影検査の見学では、実際に北先生が処置を行っているのを見学

した。病棟の患者さんのお腹が張ってきたという要望に即座に答え、処置を行うのも地域医療ならではの感覚を感じた。

3. 考 察

本実習では、一般内科が診る疾患の幅広さを感じた。地域では自分が専門としている診療科以外の知識が、より必要になるということを実感することができた。また手技に関して、オペや内視鏡などの機会はある程度限られてしまうが、腹腔穿刺などの手技は行いうると知った。以上のような診療能力を備えるということ意識して、今後の実習等を行っていく必要があると感じた。

4. 謝 辞

本実習を通して、地域での医師のあり方を再確認できたと思います。今後の臨床実習、研修医での取り組み方について改めるいい機会になりました。最後になりますが、お世話になりました北綾子先生をはじめ、国保野上厚生総合病院の皆様、地域医療支援センターの皆様、本当にありがとうございました。今後も一層努力させていただくので、何卒よろしく願いいたします。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

4年生 吉益 実咲

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

国保野上厚生総合病院は、和歌山県の紀美野町に位置するへき地中核病院である。診療科は、内科、整形外科、神経精神科、眼科の各科に常勤医師を配置し、病床は一般病床が99床、精神病床が100床ある。また、各種介護保険事業などにも取り組み、地域住民の医療・保健・福祉に貢献している。今回の実習では、精神科の桐村先生のもとで、精神科医としての働き方や精神科病棟などを見学した。

2. 実習内容

- | | | |
|-----|----|-------------------|
| 1日目 | 午前 | 訪問看護 |
| | 午後 | 精神科病棟の見学（慢性期・急性期） |
| 2日目 | 午前 | 外来の見学 |
| | 午後 | デイケアの見学 |



3. 考 察

1日目の午前中は、訪問看護を見学することができた。訪問看護では、以前精神病を発症し、現在は自宅で療養している慢性期患者さんが対象で、訪問先の患者さんは統合失調症の慢性期であった。看護師さんは日頃の生活の様子や、薬の服用状況などを尋ねるだけでなく、趣味の話なども行っており、患者さんが楽しそうに話している様子が印象的であった。午後からは、慢性期病棟と急性期病棟を見学することができた。慢性期病棟には、主に、認知症、慢性期の統合失調症、アルコール中毒の患者さんが入院しており、急性期病棟では、比較的若い方が多く、急性期の統合失調症、自閉症スペクトラム、うつ病の患者さんが入院していた。私は、今回の実習を担当して頂いた桐村先生が入院患者さんと接する様子などを見学した。その中で、先生の患者さんとの接し方が印象的であった。先生は患者さんと以前話した内容などを覚えており、優しく、丁寧に話しかけることで、患者さんは先生を信頼し、安心して先生と会話ができていると感じた。また、統合失調症の患者さんなどでは、被害妄想などがあり、いきなり怒りっぽくなる場面などもあったが先生は冷静に対処し、感心した。また、今回の実習で精神科の保護室を見学することもできた。保護室とは、精神症状のために、患者さん本人あるいは周囲に危険が及ぶ可能性が非常に高い場合に隔離する部屋である。実際に、ここに入院している患者さんと先生が接している様子を見学することができた。

今回の実習を通して、患者さんとの関わり方についてたくさん学ぶことができた。やはり、患者さんをサポートするためにも、まず、患者さんに信頼され、安心してもらえることが重要であると感じた。そのために、患者さんの気持ちを理解し、患者さんとのコミュニケーションが大切であると思った。また、どんな事態が発生しても、冷静に対処することが重要であると学んだ。これらのことを活かし、将来より良い医師になりたいと感じた。

4. 謝 辞

今回の実習を通して、実際に精神科の現場を見ることで、精神科について深く知り、学ぶことができました。また、国保野上厚生総合病院の精神科病棟は非常に明るく、綺麗で、とてもあたたかい空間でした。今回実習でお世話になった桐村先生、看護師の皆様、また、このような実習を設けて下さった地域医療支援センターの皆様、この実習に関わって頂いたスタッフの皆様、心より感謝申し上げます。

6 有田市立病院



位置 和歌山県有田市宮崎町6

和歌山県立医科大学医学部地域医療科

4年生 植村 香怜

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

私が実習に伺ったのは有田市立病院です。有田市立病院は、和歌山県を北部・中部・南部で分けると中部に該当する有田市にある病院で、今回訪問させていただいた内科を含む12の診療科からなります。この病院の産婦人科で私は24年前誕生し、地元でもあるこの病院、地域には特別な思いがあります。小学校の合併化も近年進み、少子高齢化の進むこの場所では、みかんの生産、太刀魚の漁獲を含む多くの産業が営まれています。



2. 実習内容

実習の1日目は10時に今回担当していただいた串雅紀先生と合流しました。まず午前中は外来と病棟の見学をさせていただきました。医師不足ということもあたり昨年フロア一帯の病棟をしめきり、2階分の病棟のみ現在は運営しているそうです。こちらの病院は尿路感染症と誤嚥性肺炎の患者が主だそうです。患者さん1人ずつに「～さん。どうですか。」と大きな声で様子を確認しに行きました。午後からは、院長先生と共に、訪問診療の付き添いをさせていただきました。2軒まわりました。2日目も外来見学をさせていただきました。

3. 考 察

過去2回夏季実習として病院を訪問させていただきましたが、今回はじめて訪問診療の付き添いをしました。まず、家に向かう車内には院長先生と看護師さんの明るい雰囲気があり、また患者さんが変わりなく元気に過ごしているか気になる様子もうかがうことができ、単なる仕事として医療に向き合っているわけではなく、そこには人と人との繋がりを垣間見ることができました。家に到着してお家に上がってからも、医療行為だけにとどまらず、体感したものを患者さんに提案する、例えば少し肌寒いので毛布かけますか？や暑いですが好きな食べ物はありますか？などコミュニケーションを楽しむ姿がそこにはありました。医師の業務としては身体を良くすることが第一ではあると思いますが、1人の人間との対話というものが医師と患者さんはたまた、医療者と家族との信頼関係を育むのではないだろうかとは私は結論付けました。

4. 謝 辞

今回、お世話になった有田市立病院の皆さん本当にありがとうございました。また、快く実習を受け入れてくださった患者さん達にも感謝の思いでいっぱいです。たくさんの笑顔をもらい、病院という場所への捉え方が私にとって変わった気がします。多くの学びを享受できたことを嬉しく思います。

和歌山県立医科大学医学部地域医療科

3年生 前北 萌瑛

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

今回実習させていただいた有田市立病院は、昭和25年10月、有田市の前身である箕島町の国民健康保険直営病院として開設され、有田医療圏に属する。開設以降昭和29年の町村合併、昭和31年の市制施行という開設団体の発展に伴い増大する地域医療の幅広い医療需要に応えるため、施設・設備の充実と診療機能の向上を図りつつ地域住民の健康の保持と増進に大きな役割を果たしている。また、令和5年4月1日より公益社団法人地域医療振興協会を指定管理者

とし、新たな体制で運営を開始している。

有田医療圏は、有田市・湯浅町・広川町・有田川町からなり、面積は474.85km²、総人口69,699人の二次保健医療圏である。この医療圏内には有田市立病院を含め5つの病院が存在している。県内二次保健医療圏の入院患者の動向は、総じて、医療施設が集中している和歌山保健医療圏に入院患者が集中する傾向にあるが、とりわけ有田保健医療圏から和歌山保健医療圏への患者流出が見られる。



2. 実習内容

7月30日 午前

外来診察見学

副鼻腔炎の患者さんの診察を見させていただいた。小林先生は私に、質問を交えつつCT画像の見方やどこが異常な数値なのか、なおすためにどの薬を処方するのかを教えてくださいました。今回の副鼻腔炎は、上顎の歯茎の膿が上方に到達してしまったことが原因のため外部の歯科医と連携して診察に当たっていた。また有田市立病院では医師が少なく、本来なら耳鼻科の診察になるところを内科で診察していた。地域医療枠では自分の専門ではない科の対応もできるようにすることの大切さを学んだ。

病棟見学をする予定だったが、新型コロナウイルスによるクラスターがあるため中止になった。見学はできなかったが、先生にどのような感じになっているか説明していただいた。4階は急性期の患者さんが入院され、5階はリハビリされている患者さんが中心になっているとおっしゃっていた。

午後

薬剤説明会に出席させていただいた。2024年からCKD（慢性腎臓病）のガイドラインが改訂されたことを受け改めたのフォシーガについてと、高カリウム血症改善剤のロケルマについての説明会だった。内容は難しかったが、特定の薬について治験データをもとに説明を受けることができた初めての経験だった。

7月31日 午前

外来診察見学

妊娠糖尿病の患者さんの診察を見せていただいた。よく糖尿病は生活習慣が悪いせいだと思われているが遺伝的な問題もあり、同じ生活をしていてもなりやすい人、なりにくい人がいる。患者さんにはきつく制限をかけるのではなく、美味しいものを食べながら治療できるように心

がけていると小林先生はおっしゃっていた。

B型肝炎の患者さんの診察を見せていただいた。患者さんと呼ぶ前に先生から採血の結果こういう数値だから今こういう状態でまだ薬を処方する時期ではないと説明していただいた。B型肝炎について、微生物の授業で学習したばかりだったので先生のおっしゃっていることを理解することができ、学ぶことの大切さ、楽しさを改めて感じる事ができた。

最後に、糖尿病を持っているコロナウイルス陽性の患者さんを見せていただいた。この患者さんは町医者のところでもコロナウイルス陽性と診断され、マクロライド系の抗生物質であるクラリスロマイシンとセレスタミンとロキソプロフェンを処方されていた。小林先生はウイルス感染に対する薬なのに抗生物質を処方するのはおかしいとおっしゃっていた。微生物の授業で、抗生物質をウイルス感染者に出す医師になってはいけないと言われていたので、実際に処方されている現場をみて驚いた。また、むやみにステロイドがはいったセレスタミンを出すと臓器に負担をかけてしまうため、重症でない限りはステロイドがないものを使用した方がいいとおっしゃっていた。はじめ、小林先生は私になにがおかしいか質問されたが、答えることができなかった。しかし先生のお話をきいて、これまで習った知識が実践でこう使われるのかということを知り、きちんとした知識を持つ医師になろうと思った。

午後

薬剤説明会に出席させていただいた。降圧剤であるエレンストの臨床実績について学ぶことができた。

3. 考 察

今回の病院実習を通して、医師が患者さんのお話をどう聞き出し、検査のどのような項目に着目して診察を行っているかを間近で見ることができた。地域医療枠では自分の専門の科以外の対応もしなければならず、いろいろな科について診察できることが大切だと教えていただいた。また、今回の実習では地域医療枠出身の先生に専門科の選び方における考え方や卒後の具体的な流れなどについての貴重なお話を聞くことができ、自分の今後の進路について考えるとても良い経験になった。

4. 謝 辞

最後になりましたが、お忙しい中時間を作って実習を受け入れてくださった小林真生先生をはじめ、有田市立病院の皆様はこの場を借りて御礼申し上げます。実習を通して、去年より知識を持った状態で実際の医療現場を見ることができ、勉強のモチベーションの向上となりました。また地域医療についてもお話を聞くことができ、地域医療を支える医師に必要なことを理解できました。今後の学業に活かしていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

7 県立こころの医療センター



位置 和歌山県有田郡有田川町庄31

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

3年生 須藤 大喜

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

1952年に和歌山県立五稜病院という名前で開院し、2002年に病院の建て替えを行い、和歌山県立こころの医療センターと改名された。和歌山県立こころの医療センターは、和歌山県有田郡有田川町にある県立の精神科病院である。有田川町は、和歌山県の中央部、有田郡に属する町であり、有田みかんや山椒などの栽培地として知られる。和歌山県立こころの医療センターは和歌山県南部地域で唯一の公立精神科病院であり、和歌山県精神科救急医療システム整備事業による精神科救急医療施設および、精神科応急入院指定病院、医療観察法指定通院医療機関として機能している。交通アクセスは、JRきのくに線の藤並駅から有田鉄道バスで約10分、こ

こころの医療センター前バス停で下車する。

2. 実習内容

①時間割

7月25日（木）

- 9:00-10:30 病棟見学
- 10:30-12:00 レポート作成、昼食
- 12:00-13:30 カンファレンス見学
- 14:00-15:30 精神科について
- 15:30-17:00 レポート作成



7月26日（金）

- 9:00-10:00 OT（作業療法）見学
- 10:00-11:00 デイケア見学
- 11:00-12:00 患者との会話
- 12:00-13:00 昼食
- 13:00-15:30 病棟見学
- 15:30-17:00 レポート作成

②実習の内容

以下は、卒後8年目の平田真之将先生、卒後3年目の長沖柊一郎先生に教えて頂いた。県立こころの医療センターは、1階東病棟、西病棟、2階西病棟、3階東病棟、西病棟があり、1日目は2階西病棟を見学した。2階西病棟は急性病棟であり、廊下を自由に歩いている患者も複数いたが、常時施錠と観察がなされている部屋で過ごす患者も多くいた。2日目は、1階東病棟、西病棟、3階東病棟、西病棟について見学した。1階、3階は慢性病棟であり、依存症患者の病棟、認知症患者の病棟、男性病棟などそれぞれ特色があった。

カンファレンスでは平田先生、長沖先生含む4名の医師が、患者への投薬スケジュールや措置入院された患者などについて話し合っており、患者の入院歴や検査結果、薬への反応、家族の協力が得られるか、断薬したかどうかなどさまざまな事を考慮されているのだとわかった。

OTでは、患者が一人ひとり編み物や折り紙などの個人作業をしていた。デイケアは、メディア鑑賞を行っているところを見学した。デイケアは毎月予定表が組まれ、頭の体操や創作活動、モルックなどのグループワークが行われていることを教えて頂いた。

3. 考 察

県立こころの医療センターの病棟では他の科で見られないような患者が大半である。特に私が精神科で難しいと感じた部分は、患者との意思疎通が難しい場合が多いことである。薬をどうしても飲まない患者に関して理由を聞くと薬を飲まない理由はないが注射はしているからいいだろう、など医療に非積極的な患者や、ある程度話は通じるが脈絡がなかったり突然怒ったりされる患者が見受けられた。また、患者が話していることが本当のことであるかについても常に考慮する必要があり、事前に患者のことを調べよく知る必要がある。医療従事者から見て最善だと考えていることが患者には伝わらない、受け入れてくれないことについての問題が、治療するにあたりとても難しいと感じた。このことについて私は、勧めた治療方法を一度拒否された場合でも、何度も日を変えて繰り返し相手に伝える努力をすること、会話が通じない場合でも話しかけないようにするのではなく会話をしようとする努力を日々続けること、が重要であると考えた。症例にもよるが多くの患者は症状が良くなったり悪くなったりするため、そのタイミングを見計らいながら治療を行なっていくことが、患者にとって1番よいとわかったからである。退院された後に断薬してしまう患者も非常に多いため、退院後に患者を補助できる人を探すなど医療の面以外にも社会的な面も多く持ち合わせているのだとわかった。

県立こころの医療センターは県内で唯一の救急に対応している精神科であり、自殺未遂などで救急搬送されてくる患者がしばしば見られると伺った。自殺企図を事前に食い止めることは非常に難しいが、ポスターやパンフレットなどで病院に相談ができることを多くの人に知ってもらうこと、急性患者は病院で治療して自分の家に帰れるようにしてあげること、帰宅後患者の面倒を見られる人を探すことが大事だとわかった。多くの患者は長期的な治療を受けており、数十年単位で入院されている患者もいると伺ったが、治療方法が確立されていない場合には病院で経過を観察しながら患者を守ることが重要だと感じた。

4. 謝 辞

今回の実習で、県立こころの医療センターの公立病院としての役割や、県内唯一の救急患者を受け入れている精神科病院としての働き、患者への関わり方など、様々なことを学ぶことが出来ました。今回の実習で見て学び、考えたことを忘れずに今後の勉学に励みます。最後になりましたが、ご指導してくださった平田真之将先生、長沖柊一朗先生、実習を受け入れてくださった県立こころの医療センターの医療従事者やスタッフの皆様、大変お世話になりました。

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

県立こころの医療センターは和歌山県有田郡有田川町に位置し、精神病床300床を有する精神科病院である。この病院は1952年に開設され、平成11年度から14年度にかけて施設の全面的な建て替えが行われ、現代的な設備と快適な環境を整えている。精神科医は常勤医9名が在籍しており、専門的な医療を提供している。

次に有田川町は人口約2万4千人の町で、和歌山市の南部に位置しており、大阪市や和歌山市といった大都市へのアクセスが比較的良好である。これによって、住民の方は都市部の利便性を利用しつつ落ち着いた暮らしをしている。また、有田川町は特徴的な地理と、農業に富んだ地域が魅力でもある。まず、地理的には山が多く、豊かな自然環境が広がっている。この地形を活かして、農業が盛んに行われている。

特に有田川町は、ハッサクの栽培が盛んである。ハッサクは柑橘類の一種で、その生産量は紀の川市に次ぐほどである。このため、有田川町はハッサクの重要な産地として知られている。

また、この町では「ブドウ山椒」と呼ばれる山椒の栽培も行われている。山椒は独特の香りと辛味が特徴で、和食の調味料として広く使われている。ブドウ山椒はその中でも特に有名な品種である。

さらに、有田川では漁業も営まれており、清流を利用した漁が地域の生活と文化の一部となっている。このように、有田川町は農業と漁業を基盤にした地域であり、その自然環境を活かした産業が地域の特色を形成している。

2. 実習内容

7/25

- 9:00-10:30 病棟見学
- 10:30-12:00 レポート作成、昼食
- 12:00-13:30 カンファレンス見学
- 14:00-15:30 精神科について説明
- 15:30-17:00 レポート作成



7/26

- 9:00-10:00 OT見学
- 10:00-11:00 デイケア見学
- 11:00-12:00 患者の方と対話
- 12:00-13:00 昼食

13:00-15:30 病棟見学
15:30-17:00 レポート作成

病棟見学では普段、患者の方が生活している病棟だけではなく、より重大な疾患を患っている人のための部屋や体育館も見せてもらった。病棟も統合失調症や躁鬱病などの人とアルコール依存症などの人では分けられていた。精神科についての説明では、精神科を選ぶ利点や精神科を志すうえでこれから心がけておきたいことを聞くことができた。患者の方と対話する時間では、県立こころの医療センターの中でも珍しい疾患である解離同一性障害を持つ方と話した。

3. 考 察

患者の方の自立度や症状によって病棟を変えることで自傷しないように工夫していた。特に、隔離病棟は自傷する術を極限までなくすために特殊なつくりをしていた。また、患者の方がいる病棟は医者や看護師がいる部屋を通過してしか外に出ることができず、部屋への扉には鍵をかけていた。心の医療センター自体も丘の上に立っていて周辺は畑が広がっているのも万が一院の外に出たとしても、すぐに連れ戻せるつくりであった。

4. 謝 辞

病院実習の機会をくださり、心より感謝を申し上げます。特に、2日間私たちの質問に丁寧に答えて下さった長沖先生ならびに平田先生には感謝しきれないです。2日間の経験ではありましたが、今後の学びに活かすように励みます。

8 ひだか病院



位置 和歌山県御坊市藪116-2

和歌山県立医科大学医学部地域医療科

5年生 谷上 大典

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

私が今回実習させていただいた病院はひだか病院です。ひだか病院は御坊保健医療圏の医療を支える地域中核病院で精神科病棟を県内で唯一有しており、ひだか病院だけで五疾病六事業を網羅することができます。また、ひだか病院は第2種感染症指定医療機関に指定されています。診療科は第1内科（消化器）、第2内科（糖尿病、内分泌）、循環器内科、小児科、産婦人科、外科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科、整形外科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、形成外科、リハビリテーション科・救急科の19科があります。病床数は一般病床が173床、HCUが8床、精神病床が100床、地域包括ケア病棟が52床、回復期リ

ハビリ病棟が30床、感染症病床が4床あり、急性期から回復期にかけてのシームレスな医療の提供が可能になっています。

ひだか病院のある御坊保健医療圏は御坊市、美浜町、日高町、由良町、印南町、日高川町から構成されており、面積が579.02km²、人口が2020年時点で60,324人です。人口増減率、高齢化率は2020年時点でそれぞれ-5.16%（全国平均-0.75%）、34.20%（全国平均28.60%）であり全国平均と比較して高くなっています。医療施設の中で病院はひだか病院、国立和歌山病院、北出病院、北裏病院の4施設があり、診療所は54施設あります。和歌山駅から御坊駅までは電車で約70分かかり、ひだか病院は御坊駅から徒歩30分（約2km）、紀州鉄道紀伊御坊駅から徒歩3分（約0.3km）かかります。



2. 実習内容

私は8月19日と20日の2日間、医師8年目の脳神経外科の医局に所属されている濱裕也先生にご指導いただきました。実習の時間割として1日目は13時よりオリエンテーションや院内見学、病棟回診の見学を行いました。2日目は8時30分より地域医療枠の働き方についてのお話をいただき、9時30分より新患外来の見学、昼休憩を挟んで13時20分より検査結果判明後の診察の見学を行い、16時より内科カンファレンスに参加させていただきました。

私が実習に参加した2日間は濱先生が病棟医とCPAの当番で、午後からの患者さんの問い合わせに対応されていました。院内見学では各階の設備や病棟の説明をしていただきました。ひだか病院は2階に消化器外科や脳神経外科などの病棟とHCUがあり、3階に回復期リハビリテーション病棟、4階に内科や整形外科の病棟、5階に内分泌内科や循環器内科、消化器内科の病棟とHCUがあります。6階には退院に向けたリハビリの調整や介護保険の調整など帰宅に向けた準備を行う地域包括ケア病棟があり、7階には小児科や産婦人科の病棟があります。2日目はまず地域医療枠の医師の働き方や専攻する科の選ぶポイントを教えていただきました。濱先生は月曜日と火曜日に病棟医、水曜日に脳神経外科の研修、木曜日に内科外来、金曜日午後に救急の担当であり、CPA当番は月に1～2回、当直は月に2～3回あるそうで、午後5時から朝まで1人で当直することを教えていただきました。またひだか病院は時間外の診療に対して待機制度をとっており、当番で時間外の患者さんを診察しており、脳神経外科の先生は内科の待機の際に脳神経外科の待機を兼ねていることを学びました。専攻する科を選ぶポイントは研修医の内に様々な科をまわり実際の雰囲気や仕事をみて最終的に興味のある科を選ぶことと教えていただきました。

新患外来では両側下腿に著名な浮腫があり他院から紹介された患者さんの外来を見学しまし

た。問診→触診→検査をオーダー→検査結果を基に診断の流れで行っていました。浮腫の鑑別は大きく心臓、腎臓、甲状腺、肝臓、薬剤性に分類され、心臓疾患の鑑別にBNP、レントゲンや心電図が腎臓疾患の鑑別に尿検査や血中アルブミンが甲状腺疾患の鑑別にTSH、T4が有効であることを教えていただきました。薬剤性の鑑別に服用されている薬をきき、肝臓疾患の鑑別に検診で肝酵素の高値が指摘されていなかったかをきかれています。問診で患者さんとその家族が言ったことを繰り返して確認していることと患者さんの話をきいてあげながらスムーズに鑑別に必要な情報（内服薬、体重増加の程度、健診歴）をきかれていたことが印象的でした。浮腫の原因が問診と検査結果だけでは分からず、診療部長の松野先生に相談され、実際に診察していただき次回追加の検査をされることが決まりました。内科カンファレンスではそれぞれの先生の担当患者さんについてプレゼンを行い今後の方針を決定共有していました。

3. 考 察

この実習を通して地域枠の3年目から5年目までは地域の病院で内科医として勤務し担当の患者さんをもつことになったり週に1回外来を担当したり1人で当直したりすることになるので、研修医の間に内科や救急の知識や手技を学んでおく必要があると感じました。

また新患外来を担当すると検査結果を待っている間に次の患者さんを診察するため手際よくかつ重篤な疾患を見落とさないようにする必要があります。そのために予め主訴ごとに行う診察、検査を決めておき鑑別疾患を挙げられるように勉強する必要があると考えました。

濱先生が患者さんを診察する上で意識していることとして患者さんのニーズを生活状況などからくみ取りこたえてあげられることを挙げられており、急性期から回復期の患者さんをみる地域中核病院で働く上で重要であると思いました。

大学病院での実習では診断が大方決定している患者さんの診察を見学することがほとんどでしたが、今回の実習では患者さんの疾患を検査結果などに基づいて考えることを見学できて症状から疾患を結びつけることも大切であると感じました。

4. 謝 辞

最後になりましたが、2日間の実習で指導していただいた濱先生、その他先生方をはじめとするひだか病院の職員の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。今回の実習を通して地域医療枠の先生の働き方や新患外来の流れについて知ることができました。ありがとうございました。

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

【実習施設】 ひだか病院

【御坊市の概要・特徴】

ひだか病院が位置する御坊市は、和歌山県中部に位置する市であり、和歌山県紀中・日高地域での中核の都市です。温暖な気候と豊かな自然に恵まれていることから、花卉栽培が盛んで、特にスターチスや宿根かすみそうは全国屈指の出荷量を誇っています。また、今回私たちが実習へ行くために利用させていただいた市内を走る紀州鉄道は「西日本一短い鉄道」として全国の鉄道ファンにも人気だそうです。



【ひだか病院の特徴】

ひだか病院は御坊保健医療圏を支える地域中核病院の1つです。基本理念である「皆様に親しまれ、信頼される病院」を目指し、地域の急性期医療・周産期医療・精神科医療等を担っています。24時間受付の救急件数は小児科、内科、脳外科など多数で、年間約6,000件、分娩数は約400件。平成26年に循環器内科を開設し、救急患者は増加傾向にあります。全体の病床数367床のうち、和歌山県内の地域中核病院の中で唯一、精神科病棟を100床有していることも特徴です。また、7階病棟には、産科、婦人科、小児科、内科など、小児や女性患者の混合病棟があり、新生児から高齢者まで幅広い年齢層に対応しています。その他にも回復期に対応するため地域包括ケア病棟（52床）と整形外科疾患、脳梗塞などのリハビリを行う回復期リハビリ病棟（30床）を有しており、急性期病床だけでなく回復期病床もあるため、急性期から回復期にかけて切れ目のない医療を提供することが可能です。

2. 実習内容

【ご指導いただいた先生】

第2内科 瀨 裕也先生

【実習の時間割】

- 2024年8月19日（月）
13:00～17:00 オリエンテーション・病棟見学・回診
- 2024年8月20日（火）
8:30～ 9:30 地域医療枠の医師の働き方について
9:30～10:30 新患外来見学・症例についての解説
13:00～14:00 外来見学



15:30～16:00 内科カンファレンス

【内容】

病棟見学・回診：院内を案内していただきながら、各階の病棟の特徴や、急性期に対応するHCUや一般病床の他に、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟といった病棟があることを教えていただきました。また各検査室や、救急外来の様子もを見せていただきました。

地域医療枠の医師の働き方について：事前にかけていたアンケートをもとに、地域医療枠の医師のキャリアや進路についてお話していただきました。濱先生が脳神経外科を選ばれた理由や、学生・研修医時代に身に付けておくべきこと、地域での内科の勤務形態や研修日の様子など幅広くお話していただき、質疑応答や進路相談にも乗っていただく良い機会でした。

新患外来見学・症例解説：濱先生が新患外来で診察されている様子を見学させていただきました。限られた時間の中で必要な情報を問診し、あらゆる鑑別疾患を挙げ、必要な検査をオーダーする様子を見学し、豊富な知識と広い視点、またそれらを活用できる経験値が求められることを学びました。また、検査結果からじっくり病因を考え経過を見てもいいのか、今すぐに処置を施す必要があるのか、緊急性の度合いを判断しておられる様子も印象的でした。

内科カンファレンス：内科のカンファレンスに出席させていただきました。熱中症から糖尿病、肺炎など幅広い疾患について検討されているのが印象的でした。

3. 考 察

今回の実習を通し、地域医療を担う人材の役割や期待されることをたくさん学ぶことができました。その中でも特に印象的だったことは、「自分の専門外の疾患を診ることができる必要がある」ということです。今回お世話になった濱先生も、第2内科（糖尿病・内分泌内科）医として勤務される傍ら、救急当番、CPA対応、不明熱などの総合内科的な疾患も多く診ておられ、その業務内容の幅広さを目の当たりにしました。また外来を見学させていただく中で、症状から病態を推測できることの大切さを身にしみて感じました。これまでは疾患名から、症状や治療を列挙する勉強をしてきましたが、症状を見て鑑別疾患を挙げられるようになる必要があると感じました。今後の実習では、はじめからカルテに書かれている診断名をみるのではなく、症状から自分で病態を考え鑑別疾患を挙げる練習をしていきたいと思います。

4. 謝 辞

最後になりましたが、大変お忙しい中で、地域医療枠の学生を受け入れ温かくご指導くださっ

た濱裕也先生はじめお世話になりました先生方に心より感謝申し上げます。この実習で学ばせていただいたことを胸に勉学に励んで参ります。この度はお世話になり本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療科

3年生 野中 逸希

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

ひだか病院は御坊市に位置する、昭和24年9月に開設された病院である。もとは国保日高総合病院という名称であったが、令和元年9月1日から現在の名称に変更された。『皆様に親しまれ、信頼される病院をめざします』という基本理念を掲げている。管理団体は、御坊保険医療圏に含まれる御坊市・美浜町・日高町・由良町・印南町・日高川町から構成され、ひだか病院は御坊保険医療圏の中核的な役割を担っている。病床数は、一般263床、精神100床、感染症4床であり、診療科は18科存在する。

令和3年1月1日現在において、御坊保険医療圏の人口は60,967人であり、基準病床数が566床に対し既存病床数は713床と、147床過多となっている。図1は、将来推計人口を示している。これによると、若年～中年層を中心に減少していき、高齢者層は現在より少し増加すると考えられている。図2は、医療介護需要予測を示している。見ると、医療需要はあまり変化しないが、これは人口減少により減少するはずのところを、高齢者層の微増が大きく影響した結果である。そして、この高齢者層の微増の影響が見られるのが介護需要曲線である。御坊医療圏の介護需要が全国平均よりも低いのは、すでに高齢化が進んでいるためかと考えられる。これらの計算方法は以下の通りであり、2020年の国勢調査に基づく需要量＝100として指数化されている。

- 各年の医療需要量＝～14歳×0.6＋15～39歳×0.4＋40～64歳×1.0＋65～74歳×2.3＋75歳～×3.9
- 各年の介護需要量＝40～64歳×1.0＋65～74歳×9.7＋75歳～×87.3



図1 将来推計人口

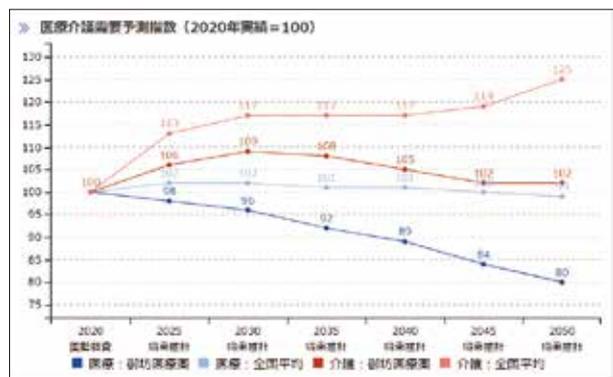


図2 医療介護需要予測指数

(日本医師会、地域医療情報システム 和歌山県御坊医療圏、https://jmap.jp/cities/detail/medical_area/3005、より)

2. 実習内容

私は、8月6日(火)と7日(水)の2日間、第2内科の森下晃先生のもとで実習させていただいた。時間割は下表の通りである。

	8/6(火)	8/7(水)
9:00～12:00	外来見学	外来見学
13:00～17:00	入院患者管理／カンファレンスの見学	回診見学

外来見学では、森下先生が新患や予約患者の診察をする様子を見せていただいた。第2内科では、糖尿病・内分泌を担当しており、新患でそれらに該当すると考えられた方や、定期的にかかっている方が診察を受けにいらっしやった。診察の流れとしては、まず診察する方の病状と検査値や、これまでに処方した薬を確認し、今後の処方を大まかに決定した後、診察室に入ってもらって生活の状況や薬の確認、検査値の説明を行い、最後に次回診察の日程を決定する、というものであった。糖尿病・内分泌は、私が最近学習した分野であり、知識をそれなりに持っていたため、診察の内容は非常に興味深いものだった。当然、薬の商品名や、検査値と病気の関係など、分からないことが多く存在したが、森下先生がその都度教えてくださったため、終始楽しく実習させていただいた。特に、糖尿病とバセドウ病の治療が多く、臨床的な知識が得られた。

外来が終了すると、午後からは入院患者の対応を見せていただいた。8/6(火)は第2内科が担当している入院患者の情報共有のためのカンファレンスが15:30からあり、森下先生はそれまでプレゼンのために入院患者の情報を整理していらっしやった。新患が多く、外来が13:20まで長引いたこともあり、十分な準備はできないと仰っていたが、カンファでは非常に分かりやすく伝えていた。8/7(水)は回診の様子を見せていただいた。入院されている方はほとんど



カンファレンスに使用した部屋

がご高齢であり、元々こちらのクリニックに通っていた方もいたため、意思疎通が難しい場合がしばしばあった。その際は、ご家族に連絡することもあったが、日中の連絡は忙しいとのことで、翌日の朝方に改めて電話するようにメモを取っていた。

3. 考 察

2日間、地域の中核を担うといえるひだか病院の第2内科で実習させていただいて、実感したことは、地域医療に従事する医師の多忙さである。2年生時に行った実習ではあまり感じなかったが、その分、ひだか病院の内科の医療スタッフのタスクの多さを間近で見て、中核を担

う病院の重要性の一端が理解できた。図2を見ると、この先も需要に大きな変化はないため、この状況が続くと考えるのが妥当だろう。将来このように多忙な地域で少しでも役に立ちたいという思いを改めて持つことが出来た。

また、今回の実習を通して、目標とする医師像を具体的に描くことが出来た。森下先生の、多くのタスクを整理して的確に対処し、その上で患者一人ひとりと丁寧に向き合う姿は、私がぼんやりと想像していた地域の医師の姿にかなり近いものだと感じた。

4. 謝 辞

ひだか病院の事務・第2内科の医療スタッフの方々には、お忙しい中、学生の私に丁寧に対応してくださり、おかげで臨床的な知識や地域医療についての理解が深まりました。ここに厚く感謝の意を表しますとともに、重ねて貴院のますますのご発展と皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

参考資料

- ひだか病院、施設概要 (hidakagh.gobo.wakayama.jp/introduction/outline.html)
- ひだか病院、公立病院経営強化プラン (hidakagh.gobo.wakayama.jp/introduction/keieikyokuplan.html)
- 日本医師会、地域医療情報システム (jmap.jp)

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

2年生 鯨 千洋

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

ひだか病院は和歌山県の紀中地域に属する御坊市に位置している。ひだか病院は災害拠点病院やへき地医療拠点病院としての役割を担っているが、ほかの地域中核病院と異なり精神科病棟があり、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病及び精神疾患の5疾病、救急医療や災害時における医療、へき地の医療、周産期医療、小児医療及び新興感染症対策の6事業を行うことができる病院となっている。診療科は内科、外科、小児科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、放射線科、精神科、整形外科、脳神経外科、麻酔科、循環器内科、救急科、歯科口腔外科、形成外科、リハビリテーション科がある。病床数は、一般病床が263床、精神病床が100床、感染症病床が4床となっている。



御坊保健医療圏は、御坊市、美浜町、日高町、由良町、印南町、日高川町で構成され、面積は579.02平方キロメートル、人口は2020年時点では60,324人となっている。この地域では

全国平均と比較すると人口の減少が激しく、高齢化率も高くなっている。医療施設はひだか病院のほか、国立病院機構和歌山病院、北出病院、北裏病院があり、そのほか54施設の一般診療所がある。

2. 実習内容

- 1日目午前 外来見学
- 1日目午後 内視鏡検査、胸水穿刺など
- 2日目 内視鏡検査など

1日目の午前中は外来見学をさせていただいた。内容としては、検査の結果などから見た現在の体の状態と、これからどのような方針で治療を進めていくか、あるいは生活していく上で何に気を付けるべきかなどについて話されている様子だった。体の状態や治療方法を説明するうえで、医療の専門用語を用いるのはできるだけ避けて、使う場合はわかりやすい説明を加えたうえで患者さんに伝えられており、身体について情報の共有を図っておられる様子だった。実際に来られた患者さんの症状としては、かつてアルコールの影響で静脈瘤の形成につながり入院された方などがおり、体の状態についてのことや、患者さんの現在の生活について触れたうえで、生活習慣を見直すことなどについて説明されていた。

外来見学を終えた後は、内視鏡を用いた検査などを見学させていただいた。検査されていた部位は胃や結腸などの消化器であり、また、胃にできた病変の切除なども行われていた。特に結腸の内視鏡検査については、S状結腸など後腹膜に固定されていない腹腔内臓器があるため内視鏡を入れにくくなっており、検査するだけでも一苦労されている様子だった。さらに、それら内視鏡検査などを終えた後、胸水の患者さんに対して胸水穿刺を行うことで胸水の採取が行われていた。胸水穿刺を行う際は、肋骨などの骨を避けて通す必要があるという点に難しさを感じた。こうした検査、あるいは手術においては、解剖学的知識が要求されるのはもちろんのこと、それを実際の臨床の場でいかせるような経験を積まなければ、容易にできることではないと思った。

2日目は1日目の午後に引き続き内視鏡検査をされていた。検査をする際は複数人で取り掛かっており、1日目と同様に消化器を主とした検査をされていた。

3. 考 察

今回の実習における外来において大切だと感じたことは、必ず相手に伝わるように説明し、相手の生活、価値観などを理解、尊重し、病気の治療を行っていく上で何に気を付けるべきかを医療従事者として忠告したうえで、どうしたいかを患者さん自身にゆだねることだ。当然、医療にはそれ独自の専門用語というものがあり、医療従事者としては医療の現場においてそれ

を使うことも多いが、それを患者さん自身に説明するときにはできるだけ避けなければならない。しかしながら、患者さんがこれからの生活をどう送っていくかについて考えるためには、自分の体について知ってもらうことが必要不可欠である。そのために、専門用語を避けるだけでなく、なるべくわかりやすく、かつ正確に伝えるということが大切であるとともに、自分の体について知ってもらう過程における難しさなのだと感じた。

さらに、内視鏡検査において用いられた解剖学的知識は、医学部二年生である私たちにとって学習したばかりの知識であり記憶に新しく、医学部での学びが将来臨床の場においてきちんと役に立っていることが改めて分かった。しかしながら、今回の実習で見学させていただいた検査、治療においては、学んだ知識と合致していて理解できる部分もあればそうでない部分もあり、S状結腸など後腹膜に固定されておらず動いてしまう消化器の間に内視鏡を通すときなど、知識があっても技量がないとできないことがあることが改めて分かった。こうしたことから、知識があるのと、それを実際にいかせるのは別の話であり、知識を持っているのはもちろんのこと、それをしっかりと生かしていくための経験を積むことも同時に非常に大切なことなのだと今回の実習を通して改めて実感することができた。

4. 謝 辞

最後に、この度は大変お忙しい中、夏季病院実習を引き受け、ご協力いただいた出崎先生をはじめとするひだか病院の先生方、夏季病院実習を計画してくださった和歌山県立医科大学地域医療支援センターの皆様にご心より感謝申し上げます。私たちが将来携わるであろう地域医療についてその現場に実際に訪問させていただき、そこで行われている医療を見学させていただくことで、これからの勉学により一層励みたいと思いました。特に基礎医学を学び始めたこの医学部二年生のうちに、本物の医療にふれることができたのは非常に有意義な経験でした。将来、実際の医療の現場に赴いたときに、今回の経験を活かしていけるよう、努力してまいります。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

2年生 楠山 博也

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

ひだか病院は御坊医療圏の中核病院である。御坊医療圏は御坊市、日高町、日高川町、由良町、美浜町、印南町の一市五町からなる。人口は合計57,619人（2024年4月1日）で県全体の約6.3%、高齢化率は約35%、面積は約580km²で県全体の約12%である。和歌山県のほぼ中央に位置し、和歌山市内まで自動車で一時間弱で行くことができる、比較的便利な地域である。また、御坊市内には飲食店や娯楽施設なども多くあり、周囲の地域から人が集まりやすい。自然も豊富で魚釣りやキャンプができる施設もある。

地域にはひだか病院、和歌山病院、北出病院、北裏病院の4つの病院と診療所がある。ひだか病院には急性期に対応するHCU8床、一般病床173床と回復期に対応する地域包括ケア病棟52床、回復期リハビリ病棟30床があり、急性期だけでなく回復期にも対応した医療を行うことができる。また、和歌山県内の地域中核病院の中で唯一、精神科100床を有し、五疾患（がん、脳卒中、心筋梗塞、糖尿病、精神疾患）、六事業（周産期、救急、小児救急、災害、へき地医療、新興感染症対策）をひだか病院だけで遂行することができる。診療科は、消化器内科、糖尿病・内分泌内科、循環器内科、小児科、産婦人科、外科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科、整形外科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、形成外科、リハビリテーション科、救急科がある。

2. 実習内容

- 一日目午前：外来見学
- 一日目午後：内視鏡検査見学
- 二日目午前：内視鏡検査見学
- 二日目午後：内視鏡検査見学



今回の実習では、消化器内科の出崎祐気先生のもとで見学させていただいた。一日目の午前は外来の見学をさせていただいた。アルコールが原因の疾患で来院されている方が多いように感じた。通院のしやすさから、他の病院から紹介を受けて来院された方もいた。一日目の午後以降は内視鏡検査の見学をさせていただいた。異常がないか確かめるための検査から病変を切り取る検査など様々な検査を見学させていただいた。一口に内視鏡検査と言ってもたくさんの方ができていることを実感した。

3. 考 察

外来で診察に来られた方は中年から高齢の方が多かった。自動車で来院されている方が多く、家族の送迎で来院される方は、次回の来院予約の際に家族の予定も考慮しなければならなかった。自動車が主要な交通手段となっており、バスなどの公共交通機関が少なく、不便であることが改めて感じられた。また、診察の際には、高齢の方でも聞き取りやすいように大きな声でゆっくりと話していたりと、患者さんに応じて適切な対応を使い分けているように感じた。昨年の実習で見学させていただいた整形外科の外来とは患者さんの年齢層や話す内容、処置の内容、検査の予約など同じ外来診察でも診療科が違くと全然違うことを実感した。

内視鏡検査の見学では、内視鏡を用いた様々な検査の方法を教えていただき、実際に見せていただくこともできた。先生方は内視鏡の映像から、大腸のどのあたりまで内視鏡が入ってい

るかわかるとおっしゃっており、ずっと同じような映像にしか見えなかった私には驚きだった。部分ごとの名前を覚えるだけでなく特徴もしっかりと記憶し、さらにそれを見て判別できる能力が必要なのだと感じた。

地域医療の現場では、高齢の方の診療を行うことが多く、地域の方と深くかかわるので、適切にコミュニケーションをとることが重要であることを実感した。知識や技能だけでなく人とかかわりも大事にしてこれからも精進していきたいと思った。

4. 謝 辞

この度は、お忙しい中、二日間の実習を受け入れてくださり、本当にありがとうございました。実習を通して実際の地域医療の現場を見学し、普段は見ることのできない検査を見学させていただいたことで、将来の働き方について具体的なイメージを持つことができました。また、地域医療卒の先輩から実際の地域医療卒の卒業生としてのお話を聞かせていただくことができ、とても参考になりました。改めて、出崎先生をはじめとするひだか病院の皆様、この実習を企画してくださった地域医療支援センターの皆様に深く感謝申し上げます。

和歌山県立医科大学医学部県民医療卒B

1年生 安井 悠人

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

実習場所であるひだか病院は和歌山県御坊市にあり、紀伊御坊駅から徒歩約3分の病院で、和歌山県内の地域中核病院の中で唯一精神科を有している病院である。また、自然分娩及び帝王切開を行うことができ、良性卵巣嚢腫に対しては腹腔鏡下手術を主に行っている病院でもある。

和歌山県御坊市は令和6年現在人口数21175人の市で2024年の住みよさランキングで全国63位の市である。さらに気候が温暖であり、花卉栽培が盛んで、中でもかすみ草という白く小さな花卉を持つ花の栽培が盛んで全国屈指の出荷量を誇っている。

2. 実習内容

今回の実習では西森敬司先生をはじめ、山本円先生、高橋京香先生などにご指導いただいた。1日目はひだか病院の産婦人科病棟の構造の見学や手術を行う予定の方のCT画像のレクチャー、帝王切開による出産の見学、腹腔鏡下手術の見学などを行った。中でも帝王切開の手術は今まで名前だけは知っていたが、実際はどのような雰囲気かで、どれくらいの時間をかけて行うのかを知らなかったので手術室の空気感を体



験できたというだけでかなり良い経験だったと思う。お腹を切り開いてから赤ちゃんを取り出すまでに15分ほどしかかかっておらず驚いたのに、場合によってはさらにはやく取り出すこともあるらしく先生方の腕前に圧倒された。また腹腔鏡下手術は想像していた手術よりもよりコンパクトで、手際の良さが求められる手術だと感じた。2日目は婦人科の診察はどのようなものかを見学させていただき、その後腫瘍を切除する手術を見学させていただいた。婦人科の診察は山本先生のコミュニケーションの上手さが際立っていて、患者さんの安心している様子が見て取れた。また、手術に関してはどうやら腫瘍が小腸などと一体化している部分が大きく、無理に全て切除してしまうと傷が付いてしまうため途中で断念したようだ。患者さんの出血が多く、緊迫した状況がひしひしと伝わってきた。あのような中で冷静に中断の判断をとれる先生方の経験値の高さをいつか身につけたいと思えた。また腹腔鏡下手術で使う器具の練習を実際に行わせていただいた。映像を見ながら手元を動かすというのは本当に難しく、難なくそれをやってのける先生の腕の良さを改めて実感した。その時の様子が上の写真である。

3. 考 察

ひだか病院の和歌山県の中央付近に存在するという地理的な特性上、緊急を要する可能性の高い産科はここに絶対に必要だと思った。また御坊市付近のご高齢の方は多いため、彼彼女らと上手く付き合うため、地域の風土を知ることは重要だと考える。そしてリスクの高い産婦人科医だからこそその医療テクニックは磨き続けなくてはならないと思う。

4. 謝 辞

最後になりましたが、ひだか病院の実習を行わせていただいております。先生方の良い腕前を肌身に感じる良い機会でした。いつか先生方のような高い医療技術と知識を身につけられるように頑張ります。2日間ありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部県民医療科B

1年生 山本 玲

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

ひだか病院は和歌山県の日高地域の中核都市である御坊市に位置し、御坊保健医療圏の地域中核病院である。この病院の特色は、精神科病棟を有し、和歌山県内の地域中核病院の中で唯一5疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患）と6事業（救急医療、災害時における医療、僻地の医療、周産期医療、小児医療、新興感染症対策）を提供することができる病院であるということである。

御坊保健医療圏は、御坊市、美浜町、日高町、由良町、印南町、日高川町から構成され、人

口は57,355人である（令和6年現在）。また、高齢化率は34.2%であり、この値は全国平均の28.6%を大きく上回り、県平均の33.4%と同じくらいであるといえる（令和2年現在）。

2. 実習内容

• 実習の時間割

8月7日（水）

午前 産婦人科病棟見学

内診台体験

緊急帝王切開見学

午後 手術見学

8月8日（木）

午前 外来見学

腹腔鏡手技体験

午後 手術見学

実習の振り返り



• 実習の内容

[1日目]

はじめに山本先生の案内で産婦人科病棟を見学させてもらった。その中で内診台にあがる体験をした。次に、当日に入った緊急の帝王切開を見学させていただいた。自分にとっては初めての手術見学であり、かつはじめて生命の誕生に立ち会う瞬間であった。

昼食後、腹腔鏡を用いた手術を見学させていただいた。手術前には先生方に手術の詳細な説明を受け、またオペ中にも解説していただいたため、しっかりと理解しながら見学することができた。

[2日目]

まず西森先生の外来を見学させていただいた。妊婦健診、子宮頸がん健診、手術後の患者さんの経過観察などを行っており、特定妊婦の方を含め、多様な方が来られていると感じた。次に、腹腔鏡手術の練習用器具を用いてその体験をさせていただいた。高橋先生に丁寧に教えていただいたおかげで、ダンシングニードルが形だけとはいえできるようになった。

その後昼食を挟み、手術を見学させていただいた。この手術は開腹による悪性腫瘍除去術であり、腫瘍の腸への癒着が激しく、外科の先生が途中から参加して手術が進められた。途中出血が多くショックになる場面があり慌ただしくなる場面もあったものの、手術を終えることはできた。この手術でも先生方に多く解説していただいたおかげで、現在の状況や術式を詳しく

理解することができた。この手術の後、西森先生と2日間の振り返りを行い、実習は終了した。

3. 考 察

初めて産婦人科の見学をさせていただいた中で感じたことは、産婦人科は特に「チーム医療」を意識しているということだ。診察室の中では、診察をする産婦人科医師、その横でサポートをする助産師や看護師、記録をとる事務員と3つの職種の方が関わっており、手術となると関わる人はさらに増えることになる。将来産婦人科医として働く上で、そのように多くの職種の方とともに働くことになる意識し、日頃からいろいろな人とコミュニケーションをとっていくことが大事だと実感できた。

4. 謝 辞

最後に、西森先生、山本先生、高橋先生をはじめとする産婦人科の方々、またこの実習を企画していただいた地域医療支援センターの方にこの場を借りてお礼申し上げたいと思います。この2日間は自分の中でも特別な2日間でした。外来でも手術でも常に横で説明をしていただいたおかげで、医療の知識がない中でも産婦人科のことを詳しく学ぶことができました。皆さんがチームで診療にあたる姿を見て、自分も早くそのチームの輪に加わりたいと感じるとともに、そのためにも日々より一層勉強に励んでいきたいと思いました。

お忙しいところに時間を割いて自分の指導をしていただき、本当にありがとうございました。

9 国立病院機構 和歌山病院



位置 和歌山県日高郡美浜町和田 1138

〈自治医科大学学生実習風景〉



機能訓練室



言語聴覚室

10 日高川町国保川上診療所



位置 和歌山県日高郡日高川町川原河264

〈自治医科大学学生実習風景〉



11 紀南病院



位置 和歌山県田辺市新庄町46番地の70

和歌山県立医科大学医学医学部地域医療科

5年生 榊原 夏葉

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

紀南病院は1945年に開業以来、田辺市及び周辺地域は言うまでもなく和歌山県南部の中核病院としてプライマリ・ケアから高度専門的医療までを担っている。救急も一部を除いて三次救急まで対応している。循環器科、心臓血管外科、小児科、精神科に特徴があり、2005年5月の新病院移転後は電子カルテを導入、無菌室も設置され、がんをはじめとする成人病の治療に力を入れている。また、同病院は和歌山県災害拠点病院、へき地医療拠点病院、新医師臨床研修指定病院、第2種感染症指定医療機関、地域がん診療拠点病院、和歌山県地域周産期母子医療センターでもある。さらに、経営母体を同じとする紀南こころの医療センター（精神198床）

を有している。

和歌山県田辺市は、人口・経済の点で和歌山県第二の都市であり、和歌山県南部の経済・産業の中心地でもある。熊野古道の中辺路ルートと大辺路ルートの分岐点であり、「口熊野」と称され、最近では熊野古道歩きの外国人の来訪が大変多くなっている。面積は1,000km²を超え、近畿地方の市では面積が最大である。また、美しい海・山・川の大自然を有し、龍神温泉や湯の峰温泉など有名な温泉資源にも恵まれている。



2. 実習内容

【1日目】

午前中は上部消化管内視鏡の見学をした。貧血の精査のため、消化管からの出血の有無を確認した。また、偶然に見つかった十二指腸腺腫の生検を行っていた。その方は抗血小板薬を服用していたが、現在では抗血小板薬を服用していても生検が可能になっていることを学んだ。また、総合医として働くためには、消化器内科専門医でなくても内視鏡やエコーなどの手技を習得しておいた方が良いと学んだ。その後は院内案内をしていただいた。医大とは異なり、ナースステーションの作りが開放的で誰でも行き来可能なことが印象的だった。午後からは血液内科外来の見学をした。貧血の精査に来られた方、再生不良性貧血の方、くすぶり型の多発性骨髄腫の方、特発性血小板減少性紫斑病の方、血友病Aの方などの診察を拝見した。血友病Aの方は2週間に1回第Ⅷ製剤を自己注射する必要があるが、その費用が月360万円程すると知り、医療費の高さに驚いた。また、貧血の鑑別も教えていただいたのだが、実際の現場では大球性貧血と小球性貧血を合併してMCV正球性になっていることもあると聞き、教科書のように一筋縄ではいかないなと思った。

【2日目】

午前中は予診の見学をした。初診ではない患者さんにも再度家族歴や内服歴、既往歴などの情報の確認を行い、情報把握のミスがないようにしていた。予診では、患者さんの主訴をもとに各科に振り分ける作業を行っていた。午後からは気管支鏡2件の見学をした。肺癌疑いの患者さんに対して、気管支鏡を進め生検を行っていた。消化管内視鏡に比べてさらに侵襲の高い検査であるので、医療者の方々が患者さんに常に声掛けをしながら進めているのが印象的だった。

3. 考 察

今回の実習を通して、総合医として勤務するためには専門としてどの科を選ぶかに関わらず、

内視鏡やエコーなどの手技や幅広い分野の知識が必要であると学んだ。特に南の地域の病院においては地域医療枠の若手医師が医療を担っていることも多く、自ら手技をする必要のある場面も多くあると知り、そのような手技や知識はできるだけ早めに身につけておきたいと思った。また、谷河先生が過去に新たな病院に赴任になった際の引き継ぎのタイミングで、これまで原因が分からず治療に難航していた患者さんの病気が自分の専門分野であったことで、病名を突き止めてあげられたというお話を聞き、将来私も総合医として働きながらも自分の強みと言える分野を増やしていきたいと思った。さらに外来では、谷河先生の以前の勤務病院の患者さんで、先生の異動に伴って紀南病院まで遠方から来られている方もいらっやって、先生と患者さんの信頼関係がとても感じられた。地域医療枠の制度上数年で勤務地が変わることになるが、先生のように私も将来それぞれの土地での人とのつながりを大切にできる医師でありたいと思った。

4. 謝 辞

先日はお忙しい中、夏季実習にお時間を割いてくださり本当にありがとうございました。今回の実習で実際に総合医として勤務される先生の姿を拝見させていただき、さらにキャリアプランについても色々教えてくださいました。地域医療に従事する医師としての将来像がより明確なものになりました。今回の経験を忘れず、これからも勉学に励んでいこうと思います。有難うございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

5年生 中平 悠馬

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

紀南病院は、田辺市の市街地を見下ろす高台に位置する。田辺市は、和歌山県の南西部に位置し、人口約6万5千人、面積約1,000km²の市である。人口・経済的に和歌山県第二の都市で、紀南地方の経済・産業の中心地である。観光資源が多く、世界遺産の熊野古道や熊野本宮大社、ナショナルトラスト運動で有名な天神崎がある。

本院は、田辺市および紀南地域における中核医療機関であり、がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、和歌山県災害拠点病院に指定されている。1945年に創設され、現在の建物は2005年に新設された。内科、循環器科、消化器科、呼吸器科、脳神経内科、外科、呼吸器外科、小児外科、心臓血管外科、整形外科、産婦人科、小児科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、リハビリ科、放射線科、歯科口腔外科、皮膚科、麻酔科、病理診断科、形成外科があり、病床数は、一般病床：334床、感染症病床：4床、ICU：8床、NICU：10床である。

2. 実習内容

1日目

- 午前 内視鏡見学
病院見学
- 午後 血液内科外来見学
病棟見学

2日目

- 午前 予診見学
- 午後 気管支鏡見学
総括



2日間、同期の榊原と一緒に、谷河育朗先生のもとで実習をさせていただいた。

病院に到着すると、先生が内視鏡を行っていたので、そちらを見学した。本院では、地域枠で派遣された医師は、消化器内科の上級医に教えていただきながら、主に内視鏡検査を行うそう。この日は、近くで開業されている先生が週に1日、内視鏡を行いに来っていたので、その先生から内視鏡検査や消化器内科の特徴について説明を受けた。私たちが見学した患者さんは、貧血があるため消化器に出血源があるかを検査するのが目的だった。まずは事前チェックを行い、麻酔後、カメラを挿入して検査を行った。途中で十二指腸腺腫があったため、生検を行った。検査後はすぐに画像所見を見直しながらレポートを書いていた。その後、午前の内視鏡が終了したため、先生が病院を案内してくださった。病院は和歌山県南部の中核医療機関ということもあり、各診療科、ICU、NICUが充実していた。また、木材を多く使った建築で、開放感があるエントランスとなっていた。食堂はコロナ禍に閉店してしまったようだが、地下1階の売店には地元の弁当が多く並んでいた。午後からは、谷河先生が専攻されている血液内科の外来を見学した。地域医療枠の医師は週に1日、自分が専攻する診療科の研修日があり、先生は本院で毎週火曜日に午後の外来の枠を使って研修をしていると伺った。外来患者さんの中に、先生が那智勝浦町立温泉病院に赴任されていた時に確定診断された患者さんがいた。その方は、先生が本院に異動された後も、時間をかけて田辺まで通われており、先生がいかに地域の方々に慕われていたのかを感じた。外来が終わると、病棟を紹介していただいた。

2日目は、先生が午前中に予診の担当であったため、その様子を見学した。職場健診で異常を指摘された患者さんが多く来院されていた。貧血を訴える患者さんが何人かおられたため、貧血の原因や鑑別についてレクチャーしていただいた。午後からは、上級医が気管支鏡を行っていたので、近くで見学し、先生から模型を用いてカメラの進め方などを教えていただいた。気管支鏡は消化管内視鏡よりも患者さんが苦しうにされていたが、先生方が優しく適切な声掛けを行っており、検査はスムーズに進んだ。2件見学したのち、総括を行って実習は終了した。

3. 考 察

今回は、これまでの夏季実習と違って臨床実習を半年ほど経験した中での実習であり、自分の医学的知識を確認するとともに、大学病院と地域の中核病院との違いを知る良い機会となった。本院は、派遣先の中でも大きな病院で、上級医が充実しており、地域医療枠の医師は主に病棟管理と外来の初診を任されることを知った。一方で、規模の小さい病院には、そこでしか出来ない貴重な経験があり、先生は、那智勝浦町立温泉病院では、主治医として外来を受け持ったり、病院運営の委員会に属したりしていたそうだ。

患者さんにとって、地域医療枠の医師が主治医だと、毎年のように主治医が変わることになり、不安が大きいなどのデメリットがある。一方で、今まで原因不明のまま対症療法のようなことを行っていた患者さんが、別の地域医療枠の医師に引き継いだことで、偶然その新たな医師が専攻している診療科の領域の疾患だとわかり、治療に繋がることもあることを知り、大きなメリットもあるのだと思った。先生が、患者さんから、先生に異動して欲しくないと言っていた時に、一年間この病院で働いてきてよかったなと思える瞬間だとおっしゃっていたのが、とても印象に残った。

4. 謝 辞

お忙しい中実習を受け入れてくださった、紀南病院の皆様、実習にご協力いただいた患者様にお礼申し上げます。紀南病院の先生方は特に優しく話やすく、私たちが田辺高校出身であることから、地元の話などをとても楽しい2日間を過ごすことができました。今回担当してくださった谷河育朗先生には大変お世話になりました。先生は、貴重な血液内科の研修の時でも、一人一人の患者さんの疾患や経過について私たちに説明して下さり、ミニレクチャーもたくさんして下さりました。さらには、キャリアの話や他の派遣先の病院の話、先生の今後のご展望なども伺うことができたことは、自身の進路を決めるうえでとても大きな経験となりました。本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

4年生 樋上 和真

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

紀南病院は和歌山県田辺市新庄町にある中核病院であり、田辺市を中心に白浜町、上富田町、みなべ町の公立紀南病院組合によって運営されている。紀南病院はこの地域において、救急医療、災害医療、周産期医療などの重要な機能を持ち、23診療科、一般病床334床、感染病床4床、ICU8床、NICU10床の体制で診療を行っている。

紀南病院は、地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、第二種感染症指定

医療機関、救急告示病院、和歌山県災害拠点病院、へき地医療拠点病院、洋上救急協力医療機関に指定されている。また、心疾患治療に特化した心臓センターを設置し、循環器内科と心臓血管外科が24時間体制で診療にあたっている。医療従事者の教育研修にも力を入れており、基幹型臨床研修指定病院（医科）や単独型臨床研修指定病院（歯科）など、複数の学会認定施設としても機能している。

紀南病院が所在する田辺市を含む田辺医療圏は、和歌山県内で最も広い医療圏であり、面積は1,579.98km²、人口は128,161人である。この地域の高齢化率は31.90%と全国平均の26.60%を上回り、県平均の30.90%よりも高くなっている。



2. 実習内容

(時間割)

【1日目】

- 8:30 紀南病院に到着
- 9:00-11:00 森先生から病院の特徴、地域医療卒医師のキャリアについてのお話等
- 11:15-12:30 救急外来を見学
- 12:30-13:30 院内見学・昼食
- 14:30-17:00 ICU、救急外来を見学

【2日目】

- 9:00 紀南病院に到着
- 9:00- 9:45 7階病棟を見学
- 9:45-11:00 内科外来を見学
- 11:15-12:30 救急外来を見学
- 12:30-13:00 昼食
- 13:00-14:30 実習の振り返り・総括



外来の待合の様子

(実習内容)

1日目は病院に到着後、担当していただいた内科の森先生から紀南病院についての説明と、紀南病院の位置する田辺医療圏についての説明をしていただいた。紀南病院は後期研修医を指導する医師が多く所属しており地域医療卒の医師の派遣先として良い環境であることや、森先生

のこれまでの派遣先での経験談などを伺うことができた。また、救急外来に関しては、脳神経疾患は脳神経外科のある近隣の南和歌山医療センターに搬送されることが多い一方で、心疾患は循環器内科および心臓血管外科がそろっている紀南病院に搬送されることが多いことについて理解が深まった。森先生からのお話の後には救急外来やICUを見学させていただいた。この日は救急車の受け入れ件数が比較的多く、心不全や急性冠症候群疑いの症例に触れることができたほか、ICUではST上昇型心筋梗塞やStanford B型急性大動脈解離を目にすることができた。

2日目はまず病棟に上がり、森先生が管理されている患者さんのカルテを見ながら非結核性抗酸菌症や結核、糖尿病、肺炎について理解を深めた。患者さんは高齢であり、食事もとることが難しく、栄養を与えすぎると肝障害を起こす恐れがあるなど、治療に耐えられない状態であった。教科書に書かれている治療法が全てではなく、患者さんの状態に合わせて最適な治療をしていく重要性を、身を以って感じた。病棟見学の後は内科外来で早川先生の診察を見学させていただいた。患者さんは糖尿病や高血圧などの生活習慣病のみならず、腎嚢胞、COPD、肺炎、膿胸の治療後など、疾患は多岐にわたっていた。その後地域医療枠医師の谷河先生の救急外来を見学し、良性発作性頭位めまい症疑いや、高齢女性の突然の下血で搬送されてきた症例を見学した。めまいを訴える患者さんの診察では、指鼻指試験や踵膝試験など神経学的検査を実際に見学することができた。

3. 考 察

今回の実習で印象的だったことは2つある。1つ目は、地域の病院においてどれだけ多くの高齢者が来院するか目の当たりにしたことである。内科外来・救急外来を訪れる患者さんの中には老々介護の状態にある患者さんもいれば、介護施設から病院に搬送されてくる患者さんもいた。また、夫婦ともに高齢で自分の処方された薬を管理しきれず、薬を服用しすぎてしまうというケースもみられた。将来、私も地域医療枠医師として幅広い疾患に対応する力のみならず、高齢患者さんの生活状況などまで気を配りながら診療にあたる力を養う必要があると感じた。

2つ目は外来での患者さんへの接し方である。内科外来で早川先生の診察を見学させていただいた際、先生は患者さんの方を向いて、目を見て明るくハキハキとした声で話し、名前を呼び、極力専門用語を使わずに平易な言葉で話されていた（例えば血液検査の結果を示して、クレアチンキナーゼを筋肉が壊れた時に出てくる物質と呼ぶなど）。私は他の内科外来を見学した際に、担当医師が患者さんのことを「あなた」と呼び、説明に酵素の名前など専門用語を多用し、患者さんではなくPCの画面を見ながら話している光景を目にしたことがある。そのような外来に来ていた患者さんに比べると、早川先生の外来受診をした患者さんは元気で生き生きとしているように感じられた。ただ教科書通りに病気を診断して、薬を処方するのではなく、患者さんは何を求めて病院に来ているのかを把握し、診療に活かせる力が必要だと感じた。

4. 謝 辞

最後になりましたが、2日間つきっきりでご指導いただきました紀南病院内科の森先生をはじめ、外来見学などでお世話になりました早川先生、谷河先生、実習をご準備頂いた地域医療支援センターの皆様には厚く御礼申し上げます。非常に密度の濃い時間を過ごすことができ、私が将来地域医療枠医師としてどのような仕事をするのか、そのためにはどのような力をつけないといけないのかを考える良いきっかけとなりました。また、地域医療枠の先輩にキャリアの話から日々の勉強のことに至るまで幅広い話を伺うことができ、大変有意義でした。将来和歌山の医療に貢献できるよう、今後よい一層勉学に精進していきます。本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

4年生 吉岡 咲季

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

田辺保健医療圏は、田辺市、みなべ町、白浜町、上富田町、すさみ町の1市4町で構成されている。2020年の国勢調査によると、人口は120,871人であり、高齢化率は34.50%と全国平均の28.60%を上回っている。

紀南病院は、田辺市及びその周辺における中核医療機関である。1945年に、近隣の農業会と国民健康保険組合の共同出資により、地域住民の病院として開設された。現在は、23診療科356床（感染症病床4床）の体制で診療を行っている。また、地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院、へき地医療拠点病院、地域周産期母子医療センター等に指定されている。

2. 実習内容

[1日目]

- 9:00 先生とのお話
- 10:30 救急外来見学
- 13:00 糖尿病についての説明
- 14:30 内視鏡室見学、ICU見学



内視鏡室見学の様子

実習は森佑熙先生にお世話になった。一日目の最初には、紀南病院と近隣にある南和歌山医療センターの違いや、地域医療の現状について教えていただいた。

救急外来では、心不全の患者や心筋梗塞疑いの患者など複数の患者の対応を見学させていただいた。森先生に心エコーの見方を教えていただき、実際に心エコー検査をしている様子を見せていただいた。

糖尿病の説明については、森先生が担当している入院患者さんを例にして、インスリンの種類やそれを用いてどうやって血糖コントロールしていくかについて説明していただいた。日々の患者さんの体調管理や、それを見てどのような変化があるのかを丁寧に観察する重要さを感じた。

[2日目]

- 9:00 病棟見学
- 10:00 外来見学
- 11:00 救急外来見学
- 15:30 統括

病棟見学では、非結核性抗酸菌症であるご高齢の入院患者さんについて教えていただいた。抗菌薬を投与することで肝障害を繰り返してしまい治療が難しくなってしまったという話を聞いた。また、静脈栄養では、肝障害を引き起こす可能性のある高カロリー輸液ができず、つねに低栄養状態で管理しなければいけないということを聞いて、教科書通りの治療法が必ずしもうまくいくとは限らず、その患者さんの年齢や状態を見て治療を考えていかなければならないことを身に染みて思った。

外来見学では、竹中先生の外来診察を見学させていただいた。患者さんは様々で落ち着いた様子の方もいれば明るく話してくれる方もおり、先生は患者さんによって話すスピードやテンションを合わせて対応しているのが印象的だった。

1日目に引き続き2日目も救急外来を見学させていただいた。下血をきたした患者やめまいを訴える患者、構音障害のある患者など1日目とは違う症例を体験することができ、講義で習った神経学的検査を実際に見ることもできて大変勉強になった。

3. 考 察

今回の実習では、森先生から地域医療の現状やそこで働く医師についてたくさんお話していただき、将来自分がどのようにして働いていくかイメージすることができた。森先生のお話で一番印象に残っているのは、紀南地域の医療は地域医療枠の若手の医師が中心となっており、病院によっては全科当直があるということである。紀南地域の病院は常勤の医師が少なく、地域医療枠の医師によって人員が賄われている。またそのような地域では、患者にとって頼れる病院や医師はそこしかなく、様々な症状や不安をもって訪れるので、自分の専門分野かどうかや経験が浅いかどうかに関わらず対応していかなければならない。そのため、学生や研修医のうちに幅広い分野の知識を身に付け、手技を身に付けていく必要があると思った。

また、入院患者さんのお話や外来見学をしてみて、改めて医師と患者の信頼関係の大切さを

実感した。糖尿病は患者にとって長い期間付き合っていかなければならず、治療のためには生活の改善など患者の協力が必要となる。医師は患者にとってよりよい治療を選択し、一緒に病気に向き合っていくことで、患者の積極的な治療の参加につながるのだと思った。

4. 謝 辞

最後になりましたが、ご指導して下さった森佑熙先生をはじめ紀南病院の皆様、実習を企画して下さった地域医療支援センターの皆様、本当にありがとうございました。今回の実習で学んだことを活かし、今後も勉学に励んでいきたいと思えます。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

2年生 笠間 心琴

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

田辺市は、和歌山県中南部に位置し、人口・経済の点で和歌山県第二の都市であり、和歌山県南部の経済・産業の中心地でもある。田辺保健医療圏は、紀南病院がある田辺市だけでなく、みなべ町、白浜町、上富田町、すさみ町から構成され、面積は1579.98km²を占めており、和歌山県の医療圏の中で最も大きい。紀南病院は、和歌山県田辺市新庄町に位置し、公立紀南病院組合（田辺市、白浜町、上富田町、みなべ町の1市3町で構成する一部事務組合）が設置する紀南の中核病院であり、現在地域基幹病院として23診療科356床（一般病床334床、感染床病床4床、ICU 8床、NICU 10床）の体制で診療を行っており、病棟は急性期病床を担う7棟に加え、在宅復帰を目指す患者を支援する回復期のための地域包括ケア病棟を1病棟設置している。紀南病院は地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、第二種感染症指定医療機関、救急告示病院、和歌山県災害拠点病院、僻地医療拠点病院、洋上救急協力医療機関に指定され、7：1看護体制も整備している。また、医療従事者の教育研修にも力を入れており、基礎型臨床研修指定病院（医科）、単独型臨床研修指定病院（歯科）などに指定されており、多くの学会の認定施設にもなっている。さらにはがん診療、周産期医療、小児医療、救急医療、心疾患治療など充実した医療スタッフと病院機能で地域住民から高い評価を得ている。特に心疾患治療に関しては、心臓センターも開設されており、循環器内科と心臓血管外科が共同して365日24時間体制の循環器診療が行われている。



2. 実習内容

午前中は、先生が救急の担当だったこともあり、救急での外来を見学させていただいた。患者さんへの治療が終わると、その病気がどのようなものなのかを詳しく解説してくださり、大変勉強になった。救急の患者さんがいない時は、病院全体を先生が案内してくださり、見学させていただいた。

午後にも病院の見学をさせていただき、病院内の色々な検査室を細かなところまで見せて頂いた。その中でも、MRIの注意点や仕組みなどは知らなかったため特に印象に残った。

3. 考 察

まず、紀南病院は施設に木を主に用いていて施設に入るとどこか安らぎを感じる工夫があり、とても印象に残った。救急外来の対応を直接見るのは初めてで、救急隊員とのスムーズなやり取りや、看護師さんに素早く指示を出しているのを見て、自分自身学ぶところがたくさんあり、その中でも特に連携して医療を行うことの重要さを認識し、改めてチーム医療の大切さを実感した。また、カルテを書くときも、最近の医療事故について先生が教えてくださり、将来自分が医師になってからも気をつけていかなければならないと強く思い、指示や判断を行う医師の責任の重さを感じた。

医師は一人では何もできず、検査一つを行うのにも多くの人の連携がないとできないのだと病院を見学することでよくわかった。

4. 謝 辞

この度はまず、急な実習先の変更があったのに関わらず、病院実習の機会を与えてくださり、ありがとうございました。地域医療枠として病院実習をさせていただくのは初めてで、実際に地域医療枠として働いている先生からどのような働き方をしているのかや、地域医療枠として働くことの良さなどを先生から伺うことができ、とても貴重な機会でした。将来の自分のビジョンが今までは曖昧で、少し不安に思うこともあったのですが、色々なお話を聞くことで明確になったことも多く、また地域医療枠として医療に従事することへの意欲が今回の実習を通してより一層高まりました。実習を受け入れてくださった谷河先生をはじめ、紀南病院のスタッフの皆様、急な変更があったにもかかわらず、実習を受けられるように御尽力くださった地域医療支援センターの皆様はこの場をお借りして御礼申し上げます。先生方がとても気軽に接して下さったので、楽しみながらも多くのことを学ばせていただきました。実際に地域医療の現場を見ることで得られたものをこれからの自分に活かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

紀南病院は、田辺市新庄町に位置する和歌山県南部の中核病院である。

田辺市は総面積1,026.91平方キロメートルで和歌山県全域の約22%を占めており、県内第1位の大きさの市である。西寄りの海岸部に都市的地域を形成するほかは、森林が大半を占める中山間地域が広がり、主な水系としては日高川水系、富田川水系、日置川水系、熊野川水系の4水系を抱える広大な圏域である。観光地として、紀伊山地や温泉が有名である。

紀南病院は、地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、第二種感染症指定医療機関、救急告示病院、和歌山県災害拠点病院、へき地医療拠点病院、洋上救急協力医療機関に指定されており、7：1看護体制も整備している。23の診療科からなり、一般病床334床、感染症病床4床、ICU8床、NICU10床の合計356床を有する。また、附属看護専門学校や、和歌山県南部地域唯一の公立精神科病院である紀南こころの医療センターを有している。がん診療、周産期医療、小児医療、救急医療、心疾患治療などに対しては地域住民より高い評価を得ており、特に心疾患治療に関しては心臓センターも開設しており、循環器内科と心臓血管外科が共同して365日24時間体制で循環器診療に力を注いでいる。



2. 実習内容

救急病棟をメインに病院見学をさせていただいた。見学中に熱中症の男性が救急車で運ばれて来て、その際の処置の様子や、医療スタッフ間のコミュニケーションの様子を見ることができた。医師が主体となって看護師や救命士と円滑なコミュニケーションを図り、その場の全員がてきぱきと作業を進めていく姿がとても印象的だった。患者の容態が落ち着いてからは、熱中症についての詳細な話を先生から伺うことができた。救急病棟のほかにも、ICUや循環器科など多岐にわたるエリアを見せていただいた。

3. 考 察

1人の先生に付いて回らせていただいたので、その先生がどこでどのような業務内容を行っているのかを具体的に知ることができた。地域医療に従事する医師がどのような仕事をするのかを間近で見ることができたことから、将来のイメージが湧きやすくなった。医師や看護師の患者との接し方や医療スタッフ間の会話を実際に目の当たりにすることで、どのように患者に

話しかけたらいいのかということや、どうすれば患者や看護師に病状や薬についてのわかりやすい説明ができるのかということを知ることができた。また先述したように、医師が主体となって他のスタッフとの作業を進めていたので、医師に求められる判断力や責任感、スタッフ間の連携の大切さを実感した。

4. 謝 辞

最後になりましたが、お忙しい中貴重な学びの機会を設けてくださった谷河先生をはじめとする、紀南病院の皆様には感謝申し上げます。病院内をこのような形で見学させていただくことはそう多くはないので、今回の実習は非常に興味深いものとなりました。また谷河先生には、地域医療に関する他のことも学生生活や今の生活の話など、たくさんのお話を伺うことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。今回の実習を通して、地域医療卒の医師がどのようなキャリアを築いていくのかということや、地域医療の良さについて先生から様々なことを教えていただき、漠然としていた将来像が具体的にできるきっかけとなりました。今回の実習で学んだことを今後の糧にしていきたいと思います。この度は本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部県民医療科C

2年生 美馬 知波

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

田辺市は和歌山県中南部に位置し、人口・経済の面で和歌山市に次ぐ県内第2の都市で、南部の経済・産業の中心地である。市内にある紀南病院は、田辺市新庄町にある公立紀南病院組合（田辺市、白浜町、上富田町、みなべ町の1市3町で構成する一部事務組合）が設置する病院で、平成17年5月1日に和歌山県田辺市新庄町に新築移転し、紀南の中核病院として医療を提供している。23の診療科と356床（感染症病床4床）を持ち、在宅復帰を目指す患者を支援する地域包括ケア病棟を含む7つの急性期病棟を運営している。紀南病院は、地域がん診療連携拠点病院や災害拠点病院としても機能し、特に心疾患治療では365日24時間体制で循環器診療を提供している。田辺保健医療圏は田辺市、みなべ町、白浜町、上富田町、すさみ町を含む広い地域をカバーし、面積は和歌山県内で最大である。人口は和歌山県内では和歌山市に次いで第2位で、高齢化率は県平均を上回っている。この医療圏では紀南病院が中心的役割を果たし、がんや心疾患、小児医療、救急医療など、幅広い医療を提供している。

2. 実習内容

今回は産婦人科の先生方にご指導をいただいて、2日間産婦人科で実習させていただいた。

▶実習の時間割

《1日目》

- 午前 : 子宮頸がん検診の見学
外来診察見学
人工妊娠中絶見学
- 午後 : 外来診察見学
カンファレンス
回診

《2日目》

- 午前 : カンファレンス
帝王切開見学
- 午後 : 腔式子宮全摘術見学
開腹手術による子宮全摘術見学



▶実習内容

まず初めに、子宮頸がん検診の見学をさせていただいた。その後、外来診察を見学させていただいた。外来診察では、婦人科、産科の両方の患者さんが受診されていた。婦人科では、婦人科がんの患者さんに対し、病状の説明をしたり治療の方針を患者さんと話し合ったりしており、産科では、主に超音波検査や子宮底長の測定を行っていた。その後、妊娠8週の妊婦さんの人工妊娠中絶を見学させていただいた。午後は、16時半ごろまで外来診察があり、妊娠38週の妊婦さんのエコー検査も実際にさせていただいた。その後のカンファレンスでは、患者さんの病状や治療法などについて、複数の産婦人科医の方々と話し合われていた。最後に回診をして1日目の実習が終了した。

2日目は、主に手術見学をさせていただいた。まず朝の8時半に、カンファレンスがあり、その後手術室へ移動して帝王切開の見学をした。今回帝王切開を行った妊婦さんは、4度目の帝王切開であり、次回自然妊娠した場合子宮破裂する危険性が高いため、卵管の切除も同時になされていた。午後は、子宮がん患者さんの腔式子宮全摘術と開腹手術による子宮全摘術を見学させていただいた。これで2日間の実習が終了した。

3. 考 察

子宮頸がん検診について、子宮頸がんは20代後半から増加し、若い世代でも発症しやすいがんであるため20歳から検診を受けることが推奨されている。そのため、子宮頸がん検診については以前から興味があった。紀南病院では、検診で患者さんと医師がカーテンによって互いの顔が見えなくなっていたり、患者さんに対する声かけをたくさんしたりすることで、患者さん

の不安を軽減する工夫がみられた。そして外来診察について、昨年、ひだか病院で実習させていただいた際には、外来診察を見学する機会がほとんどなかったため、とても新鮮で多くの学びがあった。まず、1日の診察で対応する患者さんの多さに驚いた。しかし、その忙しい中でも、患者さんの状態をすばやく的確に把握し、理解しやすい言葉で丁寧に説明されている先生の姿がとても勉強になった。また、外国出身の方も多いそうで、そういった患者さんにはわかりやすい英単語やジェスチャーで説明されているのがとても印象的だった。医師としてのコミュニケーション能力の重要性を改めて実感した。また、妊婦検診では、妊婦の方々がエコー検査を非常に楽しみにされている様子を感じ取ることができた。妊婦さんはとても笑顔で、赤ちゃんのエコーの映像を動画で撮影されている方もいた。エコー検査を実際に行わせていただいた際には、以前から憧れていたドラマのシーンを思い出し、とても気持ちが高ぶった。想像以上に赤ちゃんの顔がはっきりとエコーで観察できたことに驚いた。人工妊娠中絶について、今までは胎児の成長や赤ちゃんの誕生をみていたので、中絶の見学は心苦しいものであった。中絶は、身体的にも、精神的にも、そして経済的にも大きな負担になることを知った。帝王切開は、他の婦人科の手術よりも緊張感があった。15分程度で赤ちゃんは生まれ、産声が手術室に響いたときは、とても感動した。その後、卵管の切除が行われ、無事手術は終了した。午後に見た子宮全摘術は、患者さんに合わせた手術が行われていた。このことから患者さんの年齢や体型などを考慮して、患者さんにあった方法で手術を行うことの大切さを学んだ。

また、実習全体を通して紀南病院の産婦人科は地域に根差した産婦人科として、非常に大きな役割を果たし、地域の方々の妊娠、出産、健康をサポートしていることを、強く感じた。

4. 謝 辞

この度はお忙しい中受け入れてくださった紀南病院の皆様、担当してくださった産婦人科の先生方、そして地域医療支援センターの皆様、貴重な機会を設けてくださり心より感謝申し上げます。産婦人科医の方のお話を聞いたり、仕事を実際に見学したりする経験は、この地域実習以外にほとんどなく、とても貴重な経験でした。今後も一層勉学に励み、今回の実習で得た知識と経験を活かして、自分の理想とする医師になれるよう努めたいと思います。本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部県民医療枠B

1年生 伊藤 愛

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

紀伊田辺駅からバスで13分ほどの場所にある紀南病院に伺った。現在常勤の医師は6人、非常勤の医師は3人である。院内は新しく、木を基調として明るい受付と待合室であり、オペ室

も綺麗だった。また、NICUが設備されている。

津波対策として、山際に施設があり、たどり着くまでの道が少しわかりにくいと感じたが、駅からとても遠いというわけではないように感じた。

実習前日に駅周辺～田辺湾まで散策したところ、小学生～高校生の地元住民の方が沢山見受けられた。これは、田辺市が和歌山市に次ぐ人口をもち、和歌山第二の都市であることを感じられる一つの要素である。一軒家やアパート、団地、マンション等多々見られたのも人口規模を感じる要素であった。しかしながら、分娩件数が年々減少傾向にあり、さらなる人口減少につながっていくと考えられる。



木目基調でおしゃれ・安心感がある院内

2. 実習内容

1日目

午前中は外来見学、午後はIC見学や2日目のオペ予習、カルテの見方や書き方について学び、再び外来見学にてエコー体験、コルポスコピー見学を行った。最後に産婦人科内で行われたカンファレンスに参加した。



診察室（左下はエコーの機械）

2日目

オペ日のため、朝カンファレンス後、オペ室にて見学。1人目は腹腔鏡を用いた子宮ポリープの切除、2人目は腹腔鏡を用いた子宮全摘手術、3人目は腹腔鏡を用いた子宮頸がんの腫瘍摘出手術であったが、開腹手術に変更。途中IC見学も行った。

3. 考 察

生まれてくる子どもは待ってくれないといわんばかりに夜間のお産が多いようで、改めて産科医はハードな科なのだなと思った。

しかし、妊婦さんの定期妊婦健診や、子宮頸がんや子宮筋腫、卵巣腫瘍や生理不順などに関する診療や手術も行っており、実習を通して「子供を産むお手伝いをする」というイメージに加え、「子宮・卵巣に関するスペシャリスト」というイメージを得られた。

カルテ記入や確認を隙間時間に行っていた。忙しい。

外来診療では、妊婦さんは2週間に1回定期健診を受けるためか、エコー検査から子宮頸管検査までの流れがスムーズに行われ、エコー検査ではエコー写真を印刷して母子手帳に挟んでお渡ししているのが印象に残った。お腹の子どもの様子をスマホで録画している妊婦さんもいた。エコーを行いながら、「ちゃんと大きくなってますよ」「かわいいですね」といった言葉を

かけているとき、妊婦さんから安心した声やうれしそうな声を聴くことができた。わが子の成長に期待と不安を抱く妊婦さんの様子を窺うことができ、有意義な見学になった。

医師の方に「何か気を付けていることはなんですか？」と聞いてみたところ、「患者さんの名前の確認をしっかりとっている」とのことだった。

腫瘍や子宮の摘出では、腹腔鏡手術が主流なようで、関連器具を扱う技能を高めることも大切であるとわかった。今回の子宮全摘手術で興味深かったのは尿管を探す過程であった。子宮だけでなく、周囲の臓器の位置関係を把握することも大切だと感じた。

ICでは患者さんに図を描いて説明を行い、リスク説明および同意書の記入をお願いしていた。アレルギーによる薬の投与の配慮が必要な妊婦さんのICを見学した。不安を抱えていらっしかったが、術後の痛み止め薬についての説明を聞いたあと、少し安心していったように思える。

あまり記述していないが、すべての場面で看護師の方々が手際よいサポートを行っていた。医師だけでは成り立たないのはどの科もそうなのだと思うが、やはり身をもって看護師の方々の偉大さを実感できたのは良かった。



- 頭・腹・太ももの長さから胎児の重さがわかったり、羊水の量をおおまかに測定できる
- 4Dカラーエコーもある（立体的に表示される）

4. 謝 辞

大学一年生でなんの知識もない、なにもできない身でありましたが、初めての病院実習ということで新鮮に、関心をもって取り組むことができました。エコー体験やカルテを見ながらの予習、そしてオペ見学など、ひとえに、先生方が「どうにか面白いものを体験させてあげたい」と考えてくださったおかげだと思えます。

ある先生の「産婦人科は他の科の方や、看護師さん、助産師さんにお世話になることが多いから、より一層謙虚に取り組むのが大事だよ」という言葉を胸に、謙虚に誠実に学び、生活していきたいです。

また必ず紀南病院を訪れる機会があると思いますので、その際は今よりも一層成長した姿を見せたいと思います。林先生ならびにお世話になった先生方、看護師の方々、この度は本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部県民医療枠C

1年生 石井 南帆

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

私はこの夏、紀南病院産婦人科で実習を行った。紀南病院は和歌山県田辺市及びその周辺に

おける中核医療機関である。病床数356床（一般334床、感染症4床、ICU8床、NICU10床）の病院で、和歌山県災害拠点病院、へき地医療拠点病院、新医師臨床研修指定病院、第2種感染症指定医療機関、地域がん診療拠点病院、和歌山県地域周産期母子医療センターである。がんをはじめとする成人病の治療に力を入れている。紀南病院産婦人科は現在徳島大学より2名、和歌山県立医大より3名、東京大学より1名派遣され6名体制で診療を続けている。分娩件数はここ数年、年間700～800件で推移している。手術件数は年間400件を超え、その中で腹腔鏡下手術は136件である（令和5年）。

紀南病院が位置する和歌山県田辺市は海と山に囲まれた温暖な気候の町で、梅、デラックスケーキなどが有名である。世界遺産である熊野古道や熊野本宮大社など歴史的な文化資源を数多く有する。

2. 実習内容

★ご指導いただいた先生

林子耕先生、新垣亮輔先生、南野有紗先生、福田大晃先生

★実習の時間割と内容

1日目

午前 ・ 子宮頸がんの集団検診の見学

検診の前にもう一度患者自身に自分の名前をフルネームで言ってもらうように徹底していて、検査結果の取り違えの防止に努めていた。

・ 外来見学（主に妊婦検診）

20代前半から70代までの幅広い年齢の女性が受診していた。人数は9時から12時までの間で15名程度。妊婦検診では4D超音波検査を実施しており、妊婦さんもこのエコーで赤ちゃんの様子を見るのは嬉しそうだった。胎児の染色体異常を調べるNIPT検査は紀南病院では実施していないが、その検査を希望する妊婦さんがいた場合、和医大に連絡し予約をとっており地域の病院と大学病院のつながりを感じられた。

午後 ・ ベビー室の見学（写真1）

・ 分娩の見学（写真2）

赤ちゃんが出てくるちょうどその瞬間に立ち会った。赤ちゃんを取り上げた後も医師は母親に寄り添い、母体のケアに努めていた。

2日目

午前 ・ 子宮頸がん異形成による子宮全摘手術の見学（写真3）

午後 ・多発性子宮筋腫による子宮全摘手術の見学

どちらの手術も腹腔鏡手術であり、電気メスを利用していた。産婦人科医のみならず、麻酔科医や看護師、技師などが協力してチームワークがとれていた。

★その他

- ・カルテはSOAP（S：主観的データ O：客観的データ A：アセスメント P：計画）という書式に基づいて書く。
- ・妊婦は通常の人に比べて出血に強い。



写真1 ベビー室



写真2 分娩室



写真3 手術の様子

3. 考 察

産科は当直も多く、婦人科の手術では2、3時間ずっと立ちっぱなしだったりするので、とにかく体力が必要だと感じた。私が分娩に立ち会った妊婦さんは出産後大量出血で緊急処置を要し、ナースステーションにいた看護師たちは急いで患者さんのもとに駆けつけていたが、医師のほうはと目を向けると全員冷静沈着に対応していたことがとても印象的で、私も何が起きても冷静でいられるような精神力をたくさんの経験を積んで身に付けていきたいと考える。また地域の病院は医師の数が少なく一人一人の責任が重いが、その分若いころから手術を任せてもらえるなどたくさんの経験ができることが分かり、地域の病院で働くことのメリットを知ることができた。今回の実習を通して改めて出産は命がけであり、また生命の誕生は奇跡であることを実感し、そのような場面をサポートできる産婦人科医は素晴らしい職業だと思った。

4. 謝 辞

実習を温かく受け入れくださり、様々なことを教えてくださった林先生、新垣先生、南野先生、福田先生、並びに1年生のうちからこのような実習の機会を設けてくださった地域医療支援センターの先生方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

12 国立病院機構 南和歌山医療センター



位 置 和歌山県田辺市たきない町27-1

〈自治医科大学学生実習風景〉



13 白浜はまゆう病院



位置 和歌山県西牟婁郡白浜町1447番地

14 白浜町国保川添診療所



位置 和歌山県西牟婁郡白浜町市鹿野1103

〈自治医科大学学生実習風景〉



川添診療所の診察室



訪問診療に同行した際の風景

15 国保すさみ病院



位置 和歌山県西牟婁郡すさみ町周参見2916番地

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

4年生 中西 晴奈加

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

すさみ町は紀伊半島の南南西部に位置しており、白浜町、古座川町、串本町と隣接し、雄大な太平洋に面している。令和6年2月29日時点で総人口は3,583人であり、そのうち65歳以上の人口は1,710人と約半数を高齢者が占めている。農林漁業と観光を主要産業としており、関西では有数の釣り、ダイビングが行えたり、世界遺産の熊野古道大辺路街道「長井坂」「夕オの峠」は海が見える熊野古道として人気である。また、春から初夏のケンケンかつお、秋から冬にかけて



のイセエビ、名物のイノブタ料理などがある。

国保すさみ病院はすさみ町唯一の病院であり、常勤医師は5人、診療科は内科・外科・リハビリテーション科の3科である。ドクターカーも配備されており、すさみ町の山間地域に開設している佐本診療所、大鎌診療所、大附診療所の3つの診療所への医師派遣や訪問診療も行っている。現在の病院は、南海トラフ地震で想定される津波浸水区域であることや人口減少、建物の老朽化を理由として、令和5年11月1日に高台に新築移転されたものである。すさみ病院の公共施設の高台移転計画は、周参見保育所、すさみ消防署などが入る防災センター、給食センターに続き4例目である。



2. 実習内容

- 1日目 午前：すさみ病院見学、外来見学
午後：佐本診療所見学、すさみ町内見学
- 2日目 午前：外来、検診見学
午後：まとめ

3. 考 察

移転されたすさみ病院は、新築のためきれいなのは言うまでもなく、木がたくさん使われており、天井が高く、外からの光がよく入る設計となっており快適で居心地のよい病院であった。診察や治療、入院などはすべて1階で行われるようになっており、2階には職員の部屋や会議室などがある。2階の会議室からは1階の玄関、待合の様子を確認することができたり、建物は燃えない木を用いられていたり、診察室や検査室などの部屋の配置は移動しやすく分かりやすいように設計されているなど様々な工夫がみられた。また、病院の前には広い屋根が設置されており、これは災害時に病院内に入りきらなかった患者さんも診ることができるように設けられたものである。また県内の病院で唯一、紙カルテも用いられており、災害時などで電子カルテが使えなくなった時の場合に紙カルテだけでも診察できるように対策している。このように災害時に備えて様々な工夫が施されており感心した。

今回見学させていただいた佐本診療所は、国保すさみ病院から車で約20分の位置にある。毎週木曜日の午後に週に1回、診療を行っている。1日の患者数は10人程度、患者の年齢層は80～90代であり、診療所までは巡回バスか徒歩で来る人がほとんどである。診療所では、血液検査、血糖値検査、心電図検査しか行えないため、CTやMRIなどの精密検査を行う場合はすさみ病院まで来院する必要があるそうだ。

外来見学では生活習慣病などの内科的な診察のほかに皮膚のかゆみ、肩の痛みなど幅広い診察をされており、自分の専門とする領域の専門的な知識だけでなく、幅広い知識が必要であることがよくわかった。また、診察では患者さんの体調や病気を診るだけでなく、普段どのよう

な生活をしているのかを聞いたり、家族との状況を確認したりと患者さんの生活背景も考えていることがよく分かった。このように地域の住民と深くかかわっていくことが地域医療の特徴であると感じた。

4. 謝 辞

この度はお忙しい中、2日間実習を受け入れてくださった川端先生をはじめ、すさみ病院の先生方ありがとうございました。普段の勉強では学ぶことのできない貴重な経験をさせていただき、たくさんのことを学ぶことができました。今回の実習で学んだことを生かせるよう、より一層勉学に励みたいと思います。ありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

2年生 田尻 鈴夏

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

すさみ町は紀伊半島の南南西部に位置しており、紀伊山地を背に太平洋に面している。町の93%が林野で平地は少ない。人口は約3,500人程で、減少傾向にある。高齢者比率は47.3%であり、独身高齢者や高齢者夫婦のみの世帯も多い。主な産業は農林漁業と観光業でレタスやケンケン鰹などが有名である。



国保すさみ病院は令和5年11月に高台に新築移転されており、新しい病院となっている。常勤医師は5名、診療科は内科、外科、リハビリテーション科がある。病床数は一般病床25床で、旧病院の72床から数を減らしている。佐本診療所と大鎌診療所への医師の派遣も行っている。

2. 実習内容

1日目 オリエンテーション

訪問看護同行

2日目 リハビリ見学

救命講習

3日目 内科外来見学

佐本・大鎌診療所見学

オリエンテーションではすさみ町の概要や病院についての話を伺ったり、病院の案内をしていただきました。木材が使われ



ていたり、窓から自然光を取り入れていることからとても明るく温かい雰囲気でした。南海トラフ巨大地震などの災害があった時の想定やさらに人口が減って診療所に縮小する時の想定など色々なことを考えて作られていることを学びました。訪問看護に同行させていただき、高速に乗って患者さんの家に行き、人工肛門の取り換えをしているところを見させていただきました。人工肛門を取り替えるだけではなく、患者さんとたくさんお話をしてとても楽しい雰囲気だったことが印象に残りました。

リハビリ見学では患部を温めた後、硬いところをもみほぐしたり、筋肉を動かしたりして痛みをとっていました。動きを見てどこに問題があるのかを見分けることにとても驚きました。治すだけではなく今患者さんの体がどんな状況なのか分かりやすく話すことが大切なことだと学びました。救命講習では人が突然倒れた時の対応を学びました。落ち着けば私にもできることなのだと思感しました。その後消防隊の方とお話をさせていただきました。車がないと病院に行けない地域での救急車の使い方は解決し難い問題があるのだなと思いました。

内科外来見学では井上先生の予約外来診察を見学させていただきました。ご高齢の方が多い印象を受けました。患者さんの体の状態を聞き、検査の結果を分かりやすく簡潔に説明されていたことが印象に残りました。佐本・大鎌診療所の見学では車で山道を通り、診療所に連れて行っていただきました。佐本診療所は週に一度、大鎌診療所は月に一度診察を行うそうです。どちらの診療所も薬をその場で出すことはできないため、一度すさみ病院に帰ってから郵送で送るそうです。

3. 考 察

今回の実習で特に印象に残ったことは人との関係性です。医療関係者同士に関わらず、すさみ町の方はお互いをよく知り信頼しあっていると実習を通して感じました。このような信頼や関係性はすぐにできるものではなくたくさんコミュニケーションをとり、長く関わっていく中で生まれるものだと感じました。患者さんの体調について色々話してもらうために信頼関係は欠かせないと思いました。また、1人では医療を提供できないので医師同士だけでなく他の医療関係者との関係も大切だと感じました。



4. 謝 辞

最後になりましたが、この度お忙しい中病院実習を受け入れてくださった国保すさみ病院の皆様には感謝申し上げます。今回の実習で地域医療に触れ、多くの学びを得ることができました。また、地域医療卒の卒後9年間についても少しイメージをすることができるようになりました。

今回学んだことを活かし、今後とも勉学に励んでいきたいと思います。本当にありがとうございました。

〈自治医科大学学生実習風景〉



佐本診療所の診察室



佐本診療所の待合室

16 くしもと町立病院



位置 和歌山県東牟婁郡串本町サンゴ台691-7

和歌山県立医科大学医学部地域医療科

4年生 小林 太基

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

くしもと町立病院は、地域の中核病院として、また災害発生時には新宮保健医療圏における災害支援病院として、平成23年に国保直営串本病院と国保古座川病院を統合して海拔53mの高台であるサンゴ台に開院された。診療科は、内科、外科、整形リハビリテーション科、婦人科、小児科・小児科専門外来、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、人工透析、外科専門外来（心臓血管外科）、専門外来がある。病床数は



一般病床 90 床、療養病床 20 床の計 110 床である。

串本町は、紀伊山地を背に潮岬が太平洋に突き出した本州最南端の街であり、黒潮の影響で年間平均気温 17℃前後と温暖な気候が特徴である。面積 135.67km²、人口 14,041 人であるが、高齢化率は令和 5 年度で 47.1% であり、和歌山県では 4 番目とかなり高齢化が進んでいる。

2. 実習内容

実習は 2 日間、貝持先生にご指導頂いた。

• 1 日目

午前中は救急外来の見学を行った。救急車で運ばれてきた患者に対して、心電図の 12 誘導や採血を行い、疾患ごとに適切な処置を行っていた。その後は、入院かどうかの判断をして家族への説明を行っていた。午後からは足の脱臼骨折の整復、大腿骨転子部骨折の手術、大腿骨骨幹部骨折の整復を順に見学した。脱臼骨折ではエコーで患部を確認した後足を牽引していた。見学した整形外科疾患の中では大腿骨の骨折が多く、この部位の骨折は何歳でも手術となるため折れた位置を確認して手技を選択していた。実際の手術の見学では、手術時手洗いや滅菌手袋のつけ方、術中の立ち位置や手の位置は胸の前を保っておくことなど、手術時の様々な清潔操作を学んだ。

• 2 日目

午前中に救急外来を見学した。数日前から息苦しいという患者に対してレントゲン検査を行ったところ気胸のような像が見えた。CT のオーダーを出して胸腔ドレーンの準備を行っていたが、CT 画像では胸水が溜まっており気胸ではなかった。結果としては、臥位でレントゲンの撮影を行っていて、コントラスト比が高かったことで気胸のように見えていたとのことだった。

3. 考 察

くしもと町立病院は、私が昨年実習させて頂いた新宮市立医療センターと同様に患者の年齢層がかなり高い印象を受けた。見学させていただいた範囲ではほとんどの患者が 80 歳代であった。くしもと町立病院は高台の上にあるため、徒歩で病院に向かうのはかなり大変だが、串本町では串本駅を中心にコミュニティバスが運営されており車を持たない高齢者も病院を利用できるようになっていた。

今回の実習では、貝持先生が整形外科所属ということもあり整形外科領域の見学も多かった。このような見学は初めてであったのでとても興味深かった。手術の見学では清潔操作を一通り教えて下さり、徹底して無菌の環境で行われていることを知った。手術自体に関しても、術中に X 線画像を見られる C アームなど、専用の機械が多く用いられていて、医師だけでなく看護師や技師の方との連携が重要なのだと思った。

また、救急の見学の際の、レントゲンでは典型的な気胸に見えたものが CT 画像を見ると胸水

であったという症例が印象に残った。X線とCTの2つの像を見比べることで正しい診断へと至っていたので、ひとつの情報から断定せずに複数の情報から正しい診断を行うという柔軟さも必要なのだと感じた。

今回の実習を通じて、患者の主訴やCT、MRIなどの画像から鑑別診断を行うことの難しさを改めて感じた。講義が中心の勉強では疾患から症状や治療を言えるような勉強になってしまっていたが、臨床の現場、特に地域で総合診療科のような仕事をしていく上では症状から疾患を絞っていく知識が必須であると強く感じた。今後のポリクリでは、それを念頭に置いて実習に臨もうと思った。

4. 謝 辞

実習中お世話になった貝持先生をはじめとして、くしもと町立病院の皆様、この度はお忙しい中実習の機会を設けてくださってありがとうございました。地域医療枠であるなら所属する医局も内科になると漠然と考えていましたが、内科の仕事をこなしつつ整形外科も勉強しておられた貝持先生の姿を見て、将来のキャリアについて真剣に考えてみるきっかけとなりました。本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

2年生 山本 晏

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

私が実習させていただいたくしもと町立病院は、病床数110（一般病床90床、療養病床20床）、介護医療院14床を抱える病院であり、診療科は内科、外科、整形リハビリテーション科、婦人科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科の8診療科を有している。串本町は紀伊半島の最南端に位置し、人口は14,003人の、海や山などの自然に恵まれた風光明媚な街である。



2. 実習内容

1日目は病棟の見学をさせていただき、パーキンソン病疑いの患者さんの体を触診し、腰椎穿刺による髄液検査の様子を見学した。その後は透析の様子を見学させていただき、昼食後は小児科の外来と救急外来を見学させていただいた。また実習終了後ソフトボールの練習に参加し、夜は海鮮料理をご馳走していただいた。

2日目は内科外来の見学をさせていただき、その後救急外来を見学し実習を終えた。

3. 考 察

病棟見学では、パーキンソン病には、腕や足の動きが硬くなる初期症状があることを実際に触って学ばせていただいたり、また髄膜炎には細菌、ウイルス、非感染性の種類があり、腰椎穿刺により髄液検査を行うことを学んだ。また透析においては、まず体重を測り前回の体重に戻るまで血を引き、血を引く際は動脈と静脈を繋げたシャントから引くこと、透析には、水を調整する除水の役割と毒素をきれいにする透析の役割の2つがあること、ダイアライザーに血液を通してきれいにすることを学んだ。救急外来では、呼吸困難の患者さんには血液ガス検査を行い血液の酸素濃度を調べること、また血液ガス検査は血液検査と違いすぐに結果が出ることを学んだ。2日目の救急外来では、日本紅斑熱の患者さんが運ばれてきており、日本紅斑熱はマムシやダニに刺されることで全身に紅斑が出来る病気で、刺された箇所を探すのが最も大切だと教わった。また外来では喘息の患者さんに対してアドエアを慢性的に使い、ひどいときにはメプチンエアを使うこと、ステロイドは最強であるが副作用も大きいので慎重に使わなければならないこと、また薬の継続だけの患者さんでも単に薬を出すのみではなく、最低限の確認はしなければならないことを学んだ。

総じて患者さんの診断には多角的所見と本人の訴えを総合的に考えて判断しなければならず、その間に解離があった時は患者さんの精神的な問題なのか他の問題があるのかを精査しなければならないと教わった。また患者さんの症状にあわせてできるだけ少ない検査で考えて診断をつけるのが医師としての実力だが、初期のうちは念のために多くの検査をするべきであると学んだ。

また地域の総合診療をする医師として内科の全般的な知識は最低限身につけなければならない上、目や耳など感覚器の医師がいない病院もあるため、その知識もあった方がいいと教わった。

4. 謝 辞

仁木先生には、2日間とてもわかりやすく色々な事を教えていただき、改めて医師という仕事の大変さや、面白さを感じ取ることができ、今後のビジョンをより明確にすることができました。また院長先生や他の先生方にも、小児科の見学をさせていただいたり、1日目には飲み連れて行っていただき、ご迷惑をおかけしましたが大変楽しい時間を過ごさせていただきました。この場をお借りして改めて今回お世話になった先生方には深く御礼申し上げます。ありがとうございました。



17 那智勝浦町立温泉病院



位置 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町天満1185-4

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

5年生 榎本 真太

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

実習施設: 那智勝浦町立温泉病院

場所: 和歌山県那智勝浦町

今回の実習で参加させていただいた病院は和歌山県那智勝浦町にある那智勝浦町立温泉病院である。最寄りである紀伊勝浦駅までは紀三井寺駅から海南駅まで行き、特急くろしおに乗り換え、電車で約2時間半かかり、海南駅から紀伊勝浦方面（新宮行き）の特急くろしおは平日1日5本であった。紀伊勝浦駅は降りると商店街が広がっており、飲食店やお土産屋もたくさん並んでおり、少し歩くと港や市場もあった。紀伊勝浦駅から那智勝浦町立温泉病院までは徒

歩10分ほどだった。那智勝浦町は漁業や観光業がさかんで漁業ではマグロが有名である。勝浦漁港では延縄漁法による生鮮マグロの水揚げ量が日本一である。また観光では那智の滝があり、温泉も有名で那智勝浦町内には数多くの源泉かけ流しの温泉がある。那智勝浦町立温泉病院は診療科としては循環器科、糖尿病内科、整形外科、リハビリテーション科、眼科があり、人工透析室やX線、CT、MRI、内視鏡検査などの検査機器があり、設備を充実させて医療を提供している。



病院の外観

2. 実習内容

1日目の8時半に病院に到着し、受付の方に挨拶を済ませた後、事務の方に病院内の案内をしてもらい、その後、医局にてカンファレンスに参加した。そして、担当の先生の内科外来見学に移り、午後からは救急外来で間質性肺炎の患者さんが来ていた。

2日目の実習は9時から始まり、この日は主に内科外来の見学を行った。今回担当して頂いた山田先生は医大の医局では消化器内科の医局に所属しているが、外来では消化器系以外の疾患の患者さんも多く存在し、糖尿病の患者、ヘルペス（帯状疱疹）の患者、下腿浮腫を主訴とする患者などさまざまであった。



外来室と山田先生

3. 考 察

私は5年生で臨床実習にていくつかの内科を回った。昨年の地域枠夏季病院実習でも内科を見させてもらったが、臨床実習を経て、大学病院における外来と地域の病院における外来の違いや求められる知識、能力の違いに気づくことができた。大学病院では所属している科の分野の病気に関する主訴の患者さんしか受診しに来ない上、科のなかでもさらに専門がある場合はその分野に関連する患者さんが多いが、地域の病院では専門かは全く関係なく、幅広い疾患や主訴の患者さんがおり、大学病院では専門性の高い知識や技術が求められるのに比べ、地域の病院ではそのような能力があれば申し分ないが、それよりも専門科を超えた幅広い知識や能力が必要となるのだなと感じた。実際に先生が外来で診察しているところを見学させていただいて、自分の専門科だけでなく専門科以外の患者さんが来た時に問診、身体診察、血液検査やX線、CTなどを見て、診断し、治療を行い、また地域の病院での治療が難しい場合は、そのほかの中核病院や医大に紹介できる能力をつけなければならないなと感じた。

4. 謝 辞

この度は、お忙しい中、病院実習に参加させていただき、ありがとうございました。2日間という大変短い時間でしたが、密度の濃い実習にすることができました。今回の実習で学んだことを思い出しながら勉学に励み、臨床実習を行いたいと思います。今回の実習で普段の日常生活、大学での実習では見学できないことをさせていただき、和歌山の地域の中核病院の実態を教えてくださいました那智勝浦町立温泉病院の山田先生をはじめとした先生方、患者様に深くお礼申し上げます。

和歌山県立医科大学医学部地域医療科

5年生 土山 徳季

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

(実習施設) 那智勝浦町立温泉病院

(地域の概要・特徴)

那智勝浦町は面積が183.31km²、人口13,556人、和歌山県の南東部に位置し、東牟婁圏域に属している。東は熊野灘を望み、南東は太地町、西は古座川町、南西は串本町、北は新宮市に接している。那智の滝をはじめとする世界遺産や源泉数県内一の温泉がある観光業中心の街である。国内有数の生マグロの水揚げを誇る勝浦漁港があり、新鮮な海の幸が楽しめる。



院内の足湯

2. 実習内容

1日目 午前 外来見学、午後 救急外来

2日目 午前 外来見学

1日目は8時半に病院に到着し、受付の方に挨拶を済ませた後、事務の方に病院内の案内をしてもらい、その後、医局にてカンファレンスに参加。その後9時から外来見学を行い、昼からは救急外来の見学で間質性肺炎の患者さんが来ていた。

2日目は9時から外来見学を行い、糖尿病の患者、胆石の患者、糖尿病が悪化した患者には思い当たる節を聞いたり、ヘルペス（帯状疱疹）の患者、下腿浮腫を主訴とする患者など様々な症状の患者が来院していた。

3. 考 察

和歌山県立医科大学での臨床実習の外来見学と比べると、患者さんの数は少なく、年齢層も

高齢の方が多いという印象を受けた。また、大学病院と違い、「内科」という幅広い範囲を診ることのできる医師が常勤している。基本的には地域枠の先生方で皆さん、専門科が異なる先生であった。CT検査やMRI検査も行うことができる。実習期間中に消化管内視鏡を見る機会はなかったが、胃カメラなどを行ったりもしているとのことだ。ただ、できることはやはり限られていて、その病院でできないことは新宮市立医療センターや紀南病院、ドクターヘリで医大に送る。大学病院と連携して患者さんにより最適な治療を行える環境で行う。また、医大だけでなく、地元のクリニックや診療所と連携して、そこで行えることはそこでしてもらるようにしていた。

4. 謝 辞

お忙しい中、山田先生には普段の業務の様子を見学させていただき、また那智勝浦町立温泉病院が那智勝浦町でどのような役割を果たしているのか、地域医療での医師の働き方など様々なことを教えて頂き本当にありがとうございました。また、先生には普段聞くことのできないお話を聞けたり、美味しいご飯屋さんを教えてもらったりしてとても充実した実習をできました。臨床実習で消化器内科を回った時にまたよろしく願いいたします。



和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

4年生 奥村 麗

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

那智勝浦町立温泉病院は昭和39年に設立され、数回の増改築工事をしたのち、地震や津波の被害を考慮し平成30年に新病院が開設され現在にいたる。診療科目は内科、循環器内科、糖尿病内科、整形外科、リハビリテーション科、眼科であり、一般病床が120床ある。

那智勝浦町は東側が海に接していていくつかの天然の漁港があり、また世界遺産の「紀伊山地の霊場と参詣道」の熊野エリアにあたっており、国内外から多くの観光客が訪れる。人口は令和6年現在で13,556人。年々減少傾向である。高齢化率は40%を超え今後も増加傾向である。



2. 実習内容

1日目

手術見学

- ・右大腿骨転子部骨折に対するスクリュー挿入
- ・右大腿骨軟部腫瘍摘出

2日目

- 受け持ち患者の回診見学
- 外来見学



3. 考 察

患者のほとんどが高齢者で家族や施設の付き添いの方も同伴されていた。診察の内容については大きな声で伝えるようにされており、イラストなどで説明を簡潔にまとめるよう工夫されていたのが印象的だった。患者に様子を尋ねるだけでなく何か問題が起きていた患者にはエコーやガーゼで処置を行っており、そのような手技も今後身につけていく必要があると感じた。また、診察の合間には同僚の質問対応をされていたり、他の医療スタッフと様々な情報交換をされていてスタッフ間の信頼関係を感じられた。

今回の実習を通して、将来医師として貢献するために医学の知識だけでなく、地域の患者一人一人に柔軟に対応するための工夫も考えていこうと思った。

4. 謝 辞

最後になりましたが、今回の実習でお世話になった山本章先生をはじめ、那智勝浦町立温泉病院の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。お忙しい中大変貴重なお時間をいただき非常に有意義な経験となりました。ありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

3年生 吉野 真登

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

那智勝浦町は、那智山の門前まち那智町と、温泉と漁業のまち勝浦町、さらに宇久井村・色川村の4ヵ町村が合併し、昭和30年4月に誕生した。その後昭和35年1月に下里町、太田村が加わり現在の姿となる。紀伊半島の南東端に位置し、新宮保健医療圏に属している。人口は14,036人（令和5年1月現在）、気候温暖にして、風光明媚、雄大な自然に恵まれた町である。日本三大名瀑である那智の滝や温泉、マグロを求めて国内外から多くの観光客を集めている。

那智勝浦町立温泉病院は昭和39年7月に開設された。そして平成30年4月に新病院が開設

され、現在は一般病床120床、診療科目は内科、循環器内科、糖尿病内科、整形外科、リハビリテーション科、眼科であり、救急告示病院・災害支援病院、地域リハビリテーション広域支援センター、臨床研修病院の認定を受けている。温泉病院という名のとおり玄関近くに足湯「悠久の湯」が設置されており、当地の温泉を有効活用している。また、リハビリテーション・スポーツ・温泉医学研究所が病院内に併設されており、リハビリテーションに力を入れた病院である。

2. 実習内容

- 1日目 病院案内
嚥下造影検査見学
カンファレンス
- 2日目 カンファレンス
外来見学
病院見学



今回の実習では武内菜摘先生に対応していただいた。まず那智勝浦町立温泉病院の概要を説明していただき、その後腸炎で外来に来ていた患者さんのお腹の音を聴診器で聴かせていただいた。腸が動いている音が印象的だった。その後、検査室で嚥下造影検査の見学をさせていただいた。食べ物を飲み込む際にどの筋肉がうまく機能していないのか、またどういった食べ物ならスムーズに飲み込めるのか等を医師や放射線技師の方々が細かく検査しており、リハビリテーション科がどのような仕事をしているのかを学んだ。1日目の最後にカンファレンスがあった。内科の先生全員でどのような治療をしていくか話し合っていた。また、そのカンファレンスでは自分の担当患者さんについて先輩医師にアドバイスをもらっており、1人の医師が1人の患者さんを治療するのではなく、多くの医師が協力して1人の患者さんを治療するのだと感じた。また、先輩医師にアドバイスをもらう機会やもらいやすい環境が整っていた。

2日目は朝のカンファレンスを終えた後、外来を見学した。症状を聞くところから始まり、疾患の鑑別に至るまでの流れを確認できた。2日目の最後は武内先生に同行し病院の案内をしていただいた。温泉病院はリハビリテーションに力を入れており、その設備も充実していた。

3. 考 察

今回の2日間、初めて紀南の病院で実習させていただいたため、卒業後地域医療を実践している自分の将来像をはっきりイメージすることができた。また、実習を通して人との繋がり的重要性を感じた。病院内を見学して、医師だけで医療を担っているのではなく看護師さんや理

学療法士さん、作業療法士さんたちとの連携が医療を支えていると感じた。また外来見学をさせていただいた際、先生は患者さんにとっても気さくに話されていて、患者さんも自身の体調や朝起きた時の様子などを話しやすそうにしている印象を受けた。些細なことでも相談してもらうことで病気の早期発見に繋がるため、患者さんとの繋がりを大切にすることが地域医療において重要なことであると感じた。那智勝浦町立温泉病院で実習を通して、一人ひとりが責任を持って与えられた役割をこなすだけでなく、カンファレンスで医師同士が意見を交換し合ったり、看護師さんと情報共有したりすることで病院というチームでより良い医療を提供できること、また患者さんと良好な関係を築くことで、医療従事者、患者一体となって地域医療を作り上げていくことが重要だと感じた。

4. 謝 辞

大変忙しい時期に病院実習の受け入れをしていただいた那智勝浦町立温泉病院の皆様、本当にありがとうございました。2日間にわたり大変貴重な体験をさせていただくことができました。短い期間でしたが、実習を通して地域医療の大変さとやりがいに触れることができ、医師として働きたいという思いが一層強くなりました。担当してくださった武内先生をはじめ医師の皆様には大変温かく指導していただき、心から感謝しています。本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部県民医療枠A

2年生 平林 和樹

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

私は那智勝浦町立温泉病院で実習を行った。那智勝浦町には約14,000人の方が暮らしており、高齢化率は約44%と高齢化が非常に進んでいる町である。それに伴って、那智勝浦町立温泉病院に入院、もしくは通院する患者さんの多くが高齢者であった。診療科は内科、循環器科、糖尿病内科、整形外科、リハビリテーション科、眼科であった。病床数は内科、整形外科で60床、リハビリテーション科で60床であった。また、身体は退院できる状況にあるが退院後の環境が整っていない患者さんのための地域包括ケア病棟があった。そのほかの退院支援としては多職種間で行われる退院支援カンファレンスや退院後の患者さんに対する訪問看護などがあった。



2. 実習内容

内科病棟の見学では、回診での患者さんの状態の確認や腹水穿刺、看護師によるバイタルの

測定などを見学した。日本紅斑熱の患者さんの話を聞かせていただいたが、那智勝浦町では日本紅斑熱の患者さんが多く、危険性の高い病気であると知った。

整形外科では、骨折治療のために右腓骨に直接固定させていたプレートとスクリューを、皮膚を切開して取り出す手術を見学させていただいた。体内に菌などが入らないようにする衛生対策が印象に残った。身に付ける服装はもちろんだが、使う器具を何度も交換し、切開した手術部位を丁寧に洗うなど、何度も衛生面に注意する場面が見られ、手術に関わる多くの時間が衛生のために使われていることを知った。

内科の外来見学では、多くの患者さんが診察にくるため、相当早いペースで診察を行っていた。外来でも日本紅斑熱のうたがいのある患者さんが来診した。外来では主に食生活に関する医師からのアドバイスが多かった。

リハビリテーションの見学では、様々な日常場面を想定したリハビリテーションが行われていた。那智勝浦町立温泉病院では退院後に自宅で生活をしている患者さんがリハビリテーションのためにもう一度入院できる珍しい病院であり、県外から入院している患者さんもいた。リハビリテーションの外来でも、内科とは違い、家庭でどのような生活をしており、どれくらいの家庭生活ができるようになりたいかなど、より日常生活に即した内容の診察が行われていた。

内科カンファレンスでは、入院している患者さんの病状の確認などが行われ、受け持つ医師だけでなく他の医師とも患者さんの病状を共有し、治療方針をともに吟味することで医療ミスを減らす工夫がされていた。

3. 考 察

昨年1年次に行かせていただいた時よりも、より病状などが理解できたように感じた。どの数値が上がっているために、どの臓器のどのような機能に問題があるのかなどが少し理解できた。

また、昨年より医師の数が減っており、医師が非常に多忙であるように感じた。昨年より1人少なくなったことによって忙しさが大きく変化していたことから、へき地での医師の数は少しでも減ると大きな問題になるのだと分かった。

整形外科での手術では、連携力の高さや衛生への配慮を学んだ。また、手術時間はそこまで長くはなかったが、相当集中力を求められるのだと分かり、体力が必要だと感じた。

4. 謝 辞

大変お忙しい中、5日間ご指導ありがとうございました。将来自分に関わっていく地域医療についての具体的な治療内容や多職種間での連携、患者さんとの接し方などを学ばせていただくことができ、自分の将来像がより明確になりました。実習で学ばせていただいた実際の医療現場での経験を忘れず、今後も医学に励んでまいります。ありがとうございました。

18 新宮市立医療センター



位置 和歌山県新宮市蜂伏18-7

和歌山県立医科大学医学部地域医療科

5年生 福井 凜

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

今回僕は新宮市立医療センターで7月30、31日に実習を行い、そこで井上慎吾先生にお世話になりました。新宮市立医療センターは新宮市・東牟婁郡の新宮保健医療圏に加え、田辺市本宮町・奈良県十津川村・三重県熊野市及び南牟婁郡からの広範な地域の人口約10万人の医療対象者を受け持ち、急性期病床を中心としつつ、地域包括ケア病棟を含む285床を擁しています。

新宮市は、和歌山県、奈良県及び三重県の県境が接する紀伊半島の東南部に位置して太平洋に面し、温暖で高湿多雨な気候風土により豊かな水資源と樹木育成に恵まれた自然環境の中に

あります。世界遺産登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」の熊野古道「大雲取越え」「小雲取越え」「高野坂」や川の参詣道「熊野川」など熊野の海や山や川の織りなす豊かな大自然があり、文化面では、佐藤春夫や中上健次、東くめ、西村伊作などの多くの文化人を輩出し、また秦の始皇帝の命を受け不老不死の霊薬を求めて熊野に渡来した徐福伝説による中国や台湾をはじめとした多種多様な異文化との交流なども活発に行われています。

2. 実習内容

1日目（7月30日）

- 12:00 着
- 12:30～12:45 薬説の参加
- 13:00～16:00 病院内見学
褥瘡の処置、診察の見学

2日目（7月31日）

- 9:00～11:00 手術見学
- 11:30～12:00 まとめ



褥瘡の処置の様子

1日目は主に病院内の施設内の見学と入院患者の褥瘡の処置の見学をさせていただきました。見学の途中で井上先生が喉を詰まらせた急変患者に対しての挿管をされる場面があり、冷静に対応される姿がとても勉強になりました。地域医療ではこのような緊急事態に自分が遭遇し、率先して対応しなければならないことが多いことを実感しました。

2日目は井上先生が救急の当番で、やることに救急が来るまで特になくのことだったので、整形外科の腰部脊柱管狭窄症に対するMEL（内視鏡下腰椎椎弓切除術）の手術見学をしました。医大でも見学したような内視鏡の手術を見学することができ、とても勉強になりました。

その後井上先生には外科専攻医師の地域派遣について色々教えていただきました。井上先生は整形外科を専攻しており、木曜日以外は内科医として勤務し、木曜日の研修日には午前には新宮市立医療センターで手術に入り、午後は那智勝浦町立温泉センターで手術を行っているとのことでした。また研修日以外でも自分の仕事が終わった後に整形外科や他の科の手術の見学などをすることもあるらしく、外科を専攻した場合、内科の仕事もしながら自らの外科の勉強や経験は自主的にどんどんやっていく必要があるのだと感じました。

3. 考 察

井上先生の自らの専攻している整形外科と内科医としての両立やそのメリットについてのお話を聞いて、自分が将来外科を専攻した時の参考になりました。内科をすることで外科のみを

している先生に遅れをとることもありますが、手術の際の糖尿病の血糖コントロールなどを容易に対処できるなど、内科をしているからこそその強みがあることを理解しました。

4. 謝 辞

新宮市立医療センターの内科における地域医療枠の医師の重要性を学び、自分が卒業してここで勤務するとなった時のイメージを少しつかめ、これからのモチベーションになりました。最後になりましたが、井上先生はお忙しい中実習をしてくださり、誠にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

4年生 石田 聖葉

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

今回実習で訪れた新宮市立医療センターは、JRきのくに線の南端である新宮駅からバスで約30分の位置にある総合病院だ。現在の場所には2001年に新築移転し、その際に新宮病院など他院との区別のため改称された。内科をはじめとして産婦人科、リハビリテーション科など19の診療科があり、災害拠点病院や臨床研修病院などの指定を受けている。

医療センターのある新宮市は和歌山県南部、熊野川の河口に位置する。熊野の海、山、川といった自然に加えて世界遺産登録のスポットが点在する、自然と文化が融合したまちである。

2. 実習内容

《1日目》

9:00～11:00 外来見学

13:30～15:00 外来見学

《2日目》

9:00～9:30 病院施設見学

9:30～10:15 内視鏡見学

10:15～11:15 ERCP見学

11:15～ 胃瘻交換見学



1日目は鴻谷先生の外来診察を見学しながら合間に質問させていただいた。見学中は高齢の患者さんが多かったが、周辺の病院に対して医療センターには比較的若い患者さんも来られると先生はおっしゃっていた。医療センターは地域中核病院として本来急性期の役割を担う場であるが、高齢者に向けた医療施設が常に逼迫した状態であるため、終末期の医療も行なっているようだった。現在入院患者が多く、医療センターの病床にも空きが無くて厳しい状況であっ

た。入院患者にはコロナ感染者も多く、その中では高齢者が感染し自宅療養中に肺炎などを引き起こし入院につながったパターンが多いというお話を伺った。また救急医療に関してもお話しして下さった。1次、2次救急医療機関では対応できない重篤な救急患者に24時間体制で対応する3次救急医療機関は和歌山県で3つのみであり、新宮市立医療センターは2次救急医療機関であるが、周りの病院が非常に遠いため3次救急的役割を担っている部分があるようだ。このように1日目は鴻谷先生と外来看護師さんから医療センターの役割や勤めている上での苦勞を伺うことができた。

2日目はまず病院内の施設を見学させていただいた。3階から6階は病棟となっており、3階には血液透析の設備やHCUがあるが、3階の一般病床は看護師不足のため閉鎖されていた。次に外来を見せていただいた。診察室には、2部屋に1人の外来看護師がついているようだ。救急外来の入り口近くにはヘリポートもあった。最後に放射線科の設備を見た後、ここでさまざまな処置を見学した。初めに見たのは上部内視鏡検査だった。処置の前に患者さんが飲んでる薬やペースメーカーの有無を改めて確認し、その後の処置が安全に行えるような対策がされていた。検査中医師は処置に集中しているので、モニターのチェックは看護師が主に行い、必要に応じて患者さんにしっかり呼吸するよう声をかけたり体勢を変えたりしてサポートしていた。消化管壁は部位によって厚さが違うためレーザー出力の調節が必要だとか、処置をするにあたって気をつけることはたくさんあり、国家試験が終わった後も覚えることは多いとおっしゃっていた。次にERCPによる結石除去の様子を見せていただいた。臨床講義で習った側視鏡の映像で最終的に胆石が出てきたところを見た時は少し感動した。ここでは処置室の外にも医師がおり、レントゲンの位置を調節しながら適切なタイミングで写真を撮り、処置を行う医師と連携していた。本来この役割を担うはずの放射線技師が少ないため、内科医が処置もサポートも行っているようだった。

3. 考 察

新宮市を訪れたのは今回の実習が初めての機会であった。市内はスーパーや飲食店も多く交通手段としてバスも走っていて生活するのに不自由は無さそうだが、医療機関にかかるとなると遠出を強いられる人が多い印象であった。医療センターの外来患者さんも遠方から来られている方が多かったり、周辺には医療センターを含め2件しか産科がなかったりする。和歌山市との大きな違いをそこに感じた。また医療センターは大きく設備も整っているが、スタッフが充実しているようには思えなかった。常駐の医師は少なく、毎年大幅な入れ替えが起こったり出張医によって補ったりしているようだ。診察室2部屋を行き来してサポートする看護師や閉鎖された病床を見て、看護師不足も肌で感じた。新宮市を出て和歌山市や大阪府など人が多く集まる場所に行くには時間もお金もかかるため、新宮市で働きたいと思う人が少ないのかもしれない。

また、病床を圧迫しているコロナ患者の数、実習中も増えていくコロナ感染の新規入院患者のお話を聞いていると、まだまだ新型コロナウイルスの影響は大きく、医療現場を苦しめているのだなと実感した。これまで那智勝浦町立温泉病院、くしもと町立病院に実習で訪れ、そこでたびたび新宮市立医療センターへ紹介や搬送する様子を見ていた。医療センターは中核病院としての役割、重大な救急に対応する役割、それに加えて町の病院の役割など多くの役割を担っており、それによるスタッフの負担があるとわかった。

4. 謝 辞

本実習において鴻谷浩武先生をはじめとする新宮市立医療センターの皆様には、お忙しい中お話やお気遣いいただき大変お世話になりました。貴重な学びの機会をいただいたことを心から感謝いたします。また手厚いサポートをしていただいた地域医療支援センターの皆様につきましてもお礼申し上げます。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

4年生 東本 胡桃

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

新宮市立医療センターは新宮市・東牟婁郡の新宮保健医療圏に加え、田辺市、奈良県十津川村、三重県熊野市及び南牟婁郡からの広範な地域の医療対象者を受け持っており、急性期病床を中心としつつ、地域包括ケア病棟を含む285床を有している。現在、新宮市立医療センターでは、和歌山県立医科大学を中心とした他の施設から派遣された医師によって各診療科の業務が担われている。しかし、十分な医療スタッフの充足には至っておらず、呼吸器内科を含め診療の受け入れができない診療科もある。そのため、患者さんが適切な医療を受けて生活できるように、新宮保健医療圏の隣の田辺保健医療圏に位置する中核病院や和歌山県立医科大学などと各診療科をつなぐ役割を担っている。



2. 実習内容

(1日目)

- 8:30 ~ 10:20 麻酔科の業務内容に関する説明、手術室見学
- 11:00 ~ 11:45 整形外科の手術見学
- 13:00 ~ 16:40 子宮筋腫の患者さんの手術見学

(2日目)

8:30～10:30 救急外来、術後回診の見学

今回の実習では、麻酔科の塩谷一樹先生の下で実習を行った。1日目は、麻酔科の術前～術中の業務について見学させていただいた。術前から、患者さんの既往歴や内服薬、術式によるリスクを可能な限り低下させるために、一人一人に合わせて使用する薬剤などを考えていることが分かった。また、術中のあらゆる事態に対応できるように、事前にいくつもの対応策を考えて準備されていることがわかった。また、2日目では前日に手術を受けた患者さんの回診を行うことで、麻酔の効果や影響について評価していることが分かった。

3. 考 察

麻酔科の業務を実際に見学することで、手術前の準備が非常に重要であることが分かった。手術前に患者さんの年齢や身長・体重、既往歴、内服薬、行われる術式などあらゆる情報から一人一人に合わせた計画を立て、使用する薬剤を決定していることが分かった。また、麻酔は超急性期医療を担っており、手術中は刻一刻と状況が変化する中で、患者さんの容態が急変する可能性もあり、あらゆる状態でも冷静に対処する必要がある。そのため、術前の患者さんの情報から手術中に起こりうるあらゆるリスクを想定し、対応策を考えておくことが如何に重要であるかということを感じることができた。しかし、どんなに事前に準備を行っていても、事態が急変することもある。その時でも、短時間で冷静に対処するために、常に広い視野を持つておく必要があることが分かった。さらに、麻酔は単に患者さんの手術中の意識や痛みを取り除くだけでなく、術中の全身管理を行うため、常に多面的な視野を持って手術全体の流れを把握しておく必要があると感じた。

また、麻酔科医というと手術中の患者の全身管理を担っている印象が強かったが、それだけでなく、術後の疼痛管理も担っていることを知った。末梢神経ブロックや術後の鎮痛薬投与により、患者さんの疼痛による影響を可能な限り取り除くことで、早期離床、早期回復につながると知った。術前から術後まであらゆる段階で麻酔科が関わっているとわかり、麻酔科には自分が今まで知る以上に多様な役割があることに驚いた。

また、麻酔科だけでなく、救急科も見学させていただいた。その中で、新宮市立医療センターは他病院からの医師の派遣によって成り立っており、他病院との連携が重要になっていることが分かった。新宮市内だけでなく、奈良県や三重県など他県からの患者も多く、広大な医療圏の急性期医療の中核を担っており、それだけでなく、円滑に他病院との連携を行えるように中継する役割があることが伺えた。

4. 謝 辞

最後になりましたが、この度お忙しい中実習を受け入れてくださった、塩谷先生をはじめ、新宮市立医療センターの皆様には厚くお礼申し上げます。今回の実習で学んだことを今後に生かしていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

3年生 万谷 瑞姫

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

私は今回、和歌山県新宮市に位置する新宮市立医療センターで2日間実習をさせていただいた。新宮市立医療センターは新宮市、東牟婁郡の新宮保健医療圏に加え、田辺市本宮町、奈良県十津川市、三重県熊野市及び南牟婁郡といった広域な地域における医療を支えている。急性期治療を中心とした、新宮医療圏の中で最も規模の大きい病院である。診療科は内科、外科、産婦人科、眼科など19科存在しており、一般病床276床、2類感染病床4床、HCU5床を有している。



続いて、新宮市の概要について述べる。和歌山県の南東部に位置し、和歌山市から向かった場合、電車で約3時間半を要する。太平洋に面しており、高温多雨な気候風土により、水資源や樹木育成に恵まれた自然環境の中に存在する。面積は255.23km²、人口は26,023人（令和6年8月1日時点）である。新宮駅周辺の街並みはとても賑やかで、観光客の方も多く活気に溢れていた。世界遺産登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」の熊野古道や熊野速玉大社が新宮市に位置することから、「海・山・川が輝く 世界遺産のまち」というスローガンが掲げられている。

2. 実習内容

今回の実習では新宮市立医療センターで内科医師をされている中暁洋先生にご指導いただいた。

1日目

- 12時30分～ 新患外来見学
- 15時～ 院内紹介、施設見学
- 17時～ 地域医療枠医師症例カンファレンス見学



2日目

- 9時～ 救急外来見学
- 11時～ 内視鏡見学
- 12時～ 糖尿病治療薬に関する説明会同席
- 13時～ 救急外来見学、まとめ



3. 考 察

新患外来では、診察の際に患者さんの日常やお仕事に関する質問もいくつか交えながら会話されており、機械的に進めていくと聞けなかったようなお話も聞くことができた。治療を決定していく際も患者さんに必ず希望や不安がないかを確認されていたため、まさに患者さんに寄り添った診療が行われていると感じた。

施設見学の際は、血液透析30床を有する血液浄化室や高度急性期の患者さんに対応できるHCUなどを見学して、急性期機能が充実した病院であることを実感した。

内視鏡室では、週に1度新宮市立医療センターに来られている先生が消化管内にできたポリープを切除されているところを見学した。腸管への影響を最小限に抑えながら少しずつ剥離していく必要があるため、操作がとても繊細であった。また、実際に切除したポリープを肉眼で見た際、画面で見ていた大きさとのギャップに驚いた。内視鏡を用いて処置を行っている所を実際に見たのが初めてで、地域の病院でも内視鏡検査だけでなく、処置が可能な病院が存在するということを知ることができた。

救急外来では、私が見学した数時間の間に5人の患者さんが来院されたため、看護師の方が病院への受け入れ要請の電話対応をされている様子や、複数人同時に治療を進める際の連携の取り方など、今まで見たことのない場面をたくさん見学することができた。1番印象的だったのは、受け入れ要請があった患者さんを全員受け入れていた所である。奈良県吉野町から搬送されてきた患者さんや、歯科医院で器具を飲み込んでしまった患者さんなど事前には予想できないような症例が多くあり、設備や病床の関係から他の病院で断られている方もいたようだ。しかし、今回私が見学していた日は基本的に断ることなく全員が搬送されてきており、地域住民の方々にとって緊急時にはとても心強い病院であることが感じられた。感染症の疑いのある患者さんに対しては抗原検査などを行うが、検査結果が出るまで医療従事者全員がN95マスクや手袋、エプロンを必ず着用し、陽性である可能性を考慮して、初めから感染予防策が徹底されていることを学ぶことができた。また、患者さんが到着する前から電話で聞いた所見をもとに、さまざまな疾患の可能性を挙げられていて、このような事前準備があるからこそ、患者さんと対面してから検査項目を決めたり、治療を始めたりするまでの流れがスムーズに進んでいることを実感できた。

今回の実習を通して、地域の病院にも本当にさまざまな症状を呈する患者さんが来院され、

内視鏡などの手技や、迅速に物事を判断する力、コミュニケーション能力など、想像以上に多様な能力を養うことができると知った。その中でも特に地域の病院に必要な能力は、自分の専門分野に限らず、幅広い知識と技術を身につけておくことだと改めて考えた。これから臨床を学んでいくにあたって、一つひとつの診療科について細かい知識を頭に入れることに加え、この所見がみられた時にどんな疾患が考えられるかなど、診療科の区分にとらわれない視点からも考えてみることで、卒業後実践につなげられる勉強ができるように意識していきたい。

4. 謝 辞

最後になりましたが、今回ご指導いただいた中暁洋先生をはじめとする新宮市立医療センターの皆様、このような実習の機会を作ってくださった地域医療支援センターの皆様、お忙しい中本当にありがとうございました。座学では得られない学びや体験がたくさんあり、大変有意義な2日間となりました。この経験を糧に、今後医師としてはたらく責任と自覚を持って、日々勉強に励みたいと考えます。

和歌山県立医科大学医学部地域医療科

2年生 小山 貴士

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

私は、新宮市立医療センターに実習に行かせていただきました。まず実習施設についてですが、新宮市立医療センターは新宮市にある医療機関で、災害拠点病院や臨床研修病院の指定を受けています。診療科は19科で内科、腎臓内科、循環器内科、外科、小児科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、リハビリテーション科、脳神経外科、整形外科、泌尿器科、形成外科、放射線科、皮膚科、歯科口腔外科、脳神経内科、呼吸器外科・心臓血管外科で構成されています。一般病床数は276床、二類感染病床は4床、HCUは5床の構成となっています。



また、紀伊半島の南端に位置する新宮市は、温暖で高温多雨な気候風土により、豊かな水資源と樹林育成に恵まれた素晴らしい自然環境のなかにあり、吉野熊野国立公園に指定されています。四方を深い森と熊野川、そして青く広がる熊野灘など豊かな自然に囲まれ、古くからの自然崇拜に根ざす『熊野信仰』が受け継がれています。しかし、他の街からの交通の便が陸路でも空路でも悪く、南海トラフ地震の影響を大いに受ける街でもあります。

新宮市には美味しいグルメがたくさんあります。以下にいくつかのおすすめスポットを紹介します。一つめは香梅堂です。和菓子が有名なお店で、特に「鈴焼」が人気です。地元の人々

にも愛されている老舗です。二つ目は東宝茶屋です。郷土料理を楽しめるお店で、特に「なれずし」が有名です。新鮮な魚介類を使った料理が楽しめます。三つ目はうなぎ料理 鹿六です。香ばしく焼き上げたうなぎが絶品のお店です。ふっくらとしたうなぎを堪能できます。四つめは仲氷店です。暑い日にぴったりのかき氷が楽しめるお店です。昭和の雰囲気漂う、懐かしい感じのするお店です。五つめは徐福寿司 駅前店です。新宮市の駅前にある寿司店で、新鮮な魚介を使った寿司が楽しめます。リーズナブルな価格も魅力です。六つめは総本家 めはりや 新宮本店です。郷土料理の「めはり寿司」が楽しめるお店です。地元の食材を使った料理が豊富に揃っています。

2. 実習内容

- 1日目：内視鏡の見学を中心に見学
- 2日目：外来見学

3. 考 察

内視鏡検査では、食道から十二指腸までそれぞれの部位の説明をしてくださり、上皮の特徴などの授業で習ったことと重なる部分があり、とてもいい勉強になりました。また常に患者さんを気かけ、胃の幽門部などの狭い部分に胃カメラを通す時、確認をとりながら行っている姿は、とても素敵だと思いました。また上皮にできた出来物をハサミのようなもので切り取っていて、繊細な技術が必要であることも感じました。

外来患者に対しては、以下の4つの工夫が感じられました。まず初対面の印象を良くするために、笑顔、丁寧な言葉遣いを徹底しており、不安でいっぱいな患者さんに安心感を与えていると感じました。二つ目は、患者さんの話をしっかり聞いているということです。決して、患者さんの話を遮らず、共感の姿勢を示しており、患者さんは大切にされているという感覚を抱くだろうと感じました。三つ目はわかりやすい説明を心がけていました。医療用語を避け、高齢の患者さんでも理解しやすいような言葉で説明しており、素晴らしいと感じました。四つ目は、フォローアップです。患者さんとの次の予定などをその場で決めたり、患者さんから電話がかかってきた際、丁寧な対応をしていました。これらの工夫は患者さんに信頼されることにつながると感じました。また小畑先生は1日で20人強診察しなければならないと言っていて、とても大変なんだと感じました。そして理解が難しい患者さんに対しては、何度も噛み砕いた説明を行い、なんとか理解してもらおうとしていたり、とても頑固な患者さんに対しては、治療を行った方が良い理由を提示した上で、判断は任せると言いつつも、少しでも治療の方向に誘導できるような話し方をしており、とても工夫を感じると共に、実践と訓練が必要なんだと感じました。

4. 謝 辞

今回の実習で学んだことを忘れず、これからの勉強にも励み、立派な医師になりたいと思います。今回対応してくれた小畑先生本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療科

2年生 松田 篤彦

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

和歌山県新宮市にある災害拠点病院や臨床研修病院である新宮市立医療センターで実習を行った。新宮市立医療センターは一般病床が276床で2類感染病床が4床あり、19の科に分かれている。

新宮市の人口はおよそ25,000人で、1933年に東牟婁郡新宮町と三輪崎町が合併し、(旧)新宮市が発足し、2005年に東牟婁郡熊野川町と合併し、(新)新宮市が発足した。熊野三山のひとつである熊野速玉大社の鳥居前町として栄えてきた。現在では、和歌山県南部の中心都市として地方支分局などの出先機関が多く置かれている。新宮市は熊野川の舟下りや世界遺産である紀伊山地の霊場と参詣道の登録地が各所に点在している。



2. 実習内容

実習は2日間あり、1日目は内視鏡見学で、内視鏡を用いて食道や胃の粘膜の異常や癌やポリープなど自分たちでは見ても分からないものを瞬時に見つけ、判断していた。また、患者さんの負担を減らすために、手早く検査を行っていた。

2日目は朝から内科のカンファレンスに参加した。内科の先生が集まり、その日の外来診察の患者さんの中で特に注意すべき患者さんについて、どのような経過でどのような治療を行っていくかの方針を決めていた。その後、外来診察を見学させていただいた。ほとんどが80代以上の定期検査であり、診察の前に行った検査の結果をもとに今後の治療の方針を決めたり、患者さんからの経過を聞いたりして治療の方針を決めていた。また、様態が悪化していて、新宮市立医療センターではもう診ることの出来ない患者さんに大学病院などを紹介していた。外来には新宮市の患者さんだけでなく、古座川町などからも患者さんが来ていて、次から次へと患者さんが来ていて忙しかった。外来の見学を通して、患者さんから色々なことを聞くために気さくな会話をしたりして、良い関係を気づくことの大切さが分かった。

3. 考 察

新宮の地域には病院が新宮市立医療センターだけしかなく、新宮の地域の人々の健康はそこで働く医師たちにかかってくるんだなと感じた。また、何人かの先生で内視鏡をしている所を診ていて、色々な意見を話し合っていた姿が印象的で、医師間の協力も必要なのだなと感じた。しかし、医師の人手不足から、1人の先生がたくさんの患者さんを診ているのを見学して、自分1人で色々な症状の人々を診て、自分1人で対処していく力が必要なのだなと感じた。加えて地域医療枠は転勤が多く、その場その場で同じ職場の人々と良好な関係を築くことも大切なのだと感じた。

また、新宮市は和歌山県の山がちな地形により、和歌山市などの都市部との距離が遠いという問題があり、そのために、高度な治療を受けるまでに多くの時間を有するという問題がある。これを解決することが新宮市などの地域における医療をより発展させることに大きく寄与すると考えられる。したがって、今、開発中である高速を繋げる等のインフラの整備を行っていく必要があると考えられる。

地域医療における医師の少なさも地域医療の問題であると考えられた。その改善として、それぞれの医療圏の病院の協力が必要だなと感じた。新宮市立医療センターの先生に話を聞いていると、外来には串本町から来る人もいると聞き、串本の人々が新宮の病院に来ることも医師不足で忙しくなってしまう原因であると感じた。それを改善するためにそれぞれの人がそれぞれの地域でかかりつけの医師をつくることで改善できると考えられる。

4. 謝 辞

お忙しい中2日間ご指導ありがとうございました。自分が将来携わる地域医療について具体的な業務内容や患者さんはもちろん、看護師さんや他の医師の先生との接し方などを実際に見て学ぶ事が出来ました。また、地域医療の実際の業務を自分の目で見ることで、改めてその難しさや忙しさを感じる事が出来ました。この経験を忘れずに、医師になった時にすぐに活躍出来るように学生の間から準備をして行けるように頑張ります。

ありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

2年生 濱 颯汰

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

新宮市立医療センターは和歌山県新宮市に位置し、診療科目は内科、腎臓内科、循環器内科、外科、小児科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、リハビリテーション科、脳神経科、整形外科、泌尿器科、形成外科、放射線科、皮膚科、歯科口腔外科、脳神経内科、呼吸器外科・

心臓血管外科の19科の診療科、276床の一般病床、4床の2類感染病床、5床のHCUがある。新宮市および東牟婁郡（那智勝浦町、太地町、古座川町、串本町、北山村）の新宮保健医療圏、田辺市本宮町、奈良県十津川村、三重県南牟婁郡など和歌山県内に限らず医療施設の少ない周辺の地域からの患者数も多く、重要な役割を担っている。



2. 実習内容

・1日目

新宮市立医療センター内の病棟・診療科などの概要見学
 外来患者の診察の見学
 皮膚軟部組織感染症についての勉強

・2日目

病棟見学、および患者の症状等の説明
 薬剤説明会

3. 考 察

今回の実習では先生と1対1で、実際に先生がどのように働いているかを詳しく知ることができた。まだ2年生の私は専門的な知識を持っておらず分からないことも多かったが、今回の実習は病院を医師の目線で見ると貴重な機会となった。また、現在授業や実習で扱っているような内容が基礎となったり、患者の状態となって現れたりするのを目の当たりにして、自分がこれまで学んできたことを全く活かせていないと感じ、今まで以上に勉学に励み、知識を自分のものにする必要があると強く感じた。また、地域医療枠で外科で働こうとすることへのデメリットなども教えていただき、将来の進路選択への参考になった。

4. 謝 辞

ご指導いただいた師玉先生、新宮市立医療センターの先生方、実習の機会と準備をしていただいたスタッフの皆様、この度は病院実習に協力して下さりありがとうございました。病院実習を通し、地域医療の実情を少し掴むことができたと思います。またご縁がありましたら、よろしく願います。また今回の夏季実習を企画して下さった和歌山県立医科大学地域医療支援センターの方々にもこの場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

19 国保北山村診療所



位 置 和歌山県東牟婁郡北山村大沼312

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

4年生 中西 歩登

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

国保北山村診療所が位置する北山村は、和歌山の南東に位置する人口約400名（令和5年時）の日本唯一の飛び地である。名産品のじゃばらや観光筏下りなどが有名である。

国保北山村診療所は医師1名、看護師4名、理学療法士1名、事務員1名が働く無床診療所である。また北山村社会福祉協議会生活支援ハウスが隣接しており、そこでは現在8名の入居者が生活している。

2. 実習内容

1日目

8:00～8:30 診療所内見学

診療所内を見学をさせていただいた。診療所内は非常に清潔感があり、レントゲン室やリハビリ室も存在していた。およそ30年前に建てられたものだと伺った。

8:30～9:00 外来見学

外来の見学をさせていただいた。基本的に健康であることを確認することが目的であると伺った。慢性疾患の管理が中心であるが、慎重な管理を要する慢性心不全・腎臓病患者もいると伺った。大病院などと異なって数日後に再来院してもらえることで治療の方針の成果を確認できる点が良いことだと伺った。

9:10～9:30 リハビリ見学

理学療法士の方が行うリハビリの見学をさせていただいた。理学療法士の方によるリハビリによって高齢者の方が村でより長く生活できるようにしていると伺った。

9:30～10:00 村長と面会する

当時村長であった山口賢二氏と面会させていただいた。北山村で医療をやるにあたって行政と強く結びつくことが非常に重要であるというお話をいただいた。

10:00～11:00 デイサービス見学

生活支援ハウスで生活する高齢者の方とお話しさせていただいた。90歳代の方が多く生活しており、非常に元気で過ごされていた。

11:00～11:30 往診見学

村内に住む高齢者の往診の見学をさせていただいた。基本的に村内は車がないと移動が厳しく、自力で診療所まで来ることが難しい高齢者が多いため、往診対応は閾値を低くして行っていると伺った。

13:00～13:30 訪問診療見学

通院が困難な患者などに行っていると伺った。こちらも往診同様、閾値を低くして対応されているとのことだった。

14:00～14:30 訪問リハビリ見学

理学療法士の方の訪問リハビリに同行させていただいた。

2日目

9:00～12:00 観光筏下り参加

北山村の有名なイベントである観光筏下りに参加させていただいた。急流での荒々しさと穏やかな流れでのゆったりさとのギャップと筏師の方の力強さを感じた。

13:00～14:00 振り返り

診療所で2日間の振り返りを行った。

3. 考 察

今回の実習で一番印象に残ったことは、先生が話してくださった自分の中の地域医療についてである。目の前の緊急性を要する患者に適切な医療を提供することに+αしてどんな医療を提供するかが「地域医療の面白さ」であり、またその+αを目指す前にまず「地域のことを知る」ことが大切で、その次に「その地域の医療ニーズに応える」ようにし、その次に「地域の隠れたニーズを探す」と言うことが+αなのであると教えていただいた。また北山村のような小さいコミュニティの中では医療は行政や福祉と強い結びつきを持つことが大事であり、医者自身も医療行為としての「医療」だけではなく、生活とともに存在する「医療」を行う必要があると教えていただいた。



図1 国保北山村診療所の内装



図2 山口前村長との面会の様子

4. 謝 辞

お忙しい中、実習に時間を割いていただいた内川宗大先生をはじめとした国保北山村診療所みなさま、また実習受け入れに際して調整を行っていただいた北山村役場みなさまに拝謝いたします。今回の実習で得た経験を基に、今後とも勉学に励んでまいります。どうもありがとうございました。



図3 往診の様子



図4 筏下りの様子

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

○北山村

人口：396名（令和5年時）

和歌山県であるが和歌山県のどの市町村とも隣接しない全国でも唯一の飛地。紀伊半島の中央部に位置し、南は三重県、北は奈良県に囲まれる。村の97%を山林が占め、すぐそばを北山川が流れる自然豊かな村である。



昔から良質の杉に恵まれ林業で栄え、伐採された木材の輸送は川を利用して筏によって木材集積地の新宮まで運ばれた。当時、北山村は人口の大半を筏師が占め、新宮木材業者と筏師は切っても切れない関係で成り立っていた。明治4年、廃藩置県が実施され、新宮が和歌山県に編入された際、地理的に言えば北山は奈良県に属するところを、新宮が和歌山県に入ったことから和歌山への編入を希望した村民の意見を聞き入れ、和歌山県に編入された。明治22年に七色、竹原、大沼、下尾井、小松の5つの村が合併し北山村と改称、施行された。

○国保北山村診療所

医師：1名

看護師：4名

理学療法士：1名

事務員：1名

診療時間：月～木曜日の8:30～17:15

業務：外来診療、往診対応、訪問診療、小児予防接種、学校医/園医、健診業務、書類関連

2. 実習内容

内川宗大先生にご指導いただきました。

1日目

8:00～ 診療所内見学

8:30～ 外来見学

9:00～ リハビリ治療見学

9:30～ 役場訪問、村長さんと挨拶

9:45～ 外来見学



- 11:00～ デイサービス見学
- 12:00～ 昼食
- 13:00～ 訪問診療見学
- 14:00～ 保育園見学

2日目

- 9:00～ 筏下り体験
- 14:00～ 総括



3. 考 察

診療所内は十分な広さがあり、綺麗だった。自動ドア、レントゲン施設、リハビリ施設等も完備されており、小さな部屋一室で診療をしていると考えていた私の診療所のイメージと大きく異なった。

隣接して社会福祉協議会があり、日中に行っているデイサービスの見学もさせていただいた。デイサービスに来ている方々からは、「家に1人でのんびりするのは寂しい。このような施設があるのはありがたい。」という声があり、地域の高齢者にとって心の拠り所になっているように感じられた。他にも、一人暮らしでは料理もしないため隣町までバスで移動し、買い物をしているという話を伺った。北山村は三重県の熊野市と結びつきが強く、北山村に住んでいれば無料で連絡バスに乗ることができる。そのため買い物や外食は隣町まで出て行くそうである。2日間の実習だけでも、北山村に住む上では自動車が必要であることを身にしみて感じた。高齢者にとっては無料バスが主な交通手段となっているだろう。訪問診療時も三重県まで車で訪問することも多いそうだ。小さな村であるため周辺地域との連携が大切である。

保育園の見学もさせていただいたが、来年は一年生が欠員になるそうである。また2歳以下を受け入れる制度が無い間はその間は隣町まで預けに行く必要がある。中学校までは村内にあるが高校からは外部に出る必要があったり、学習塾に通う場合はバスで隣町まで通ったりと、子育ての面では少し大変なこともあるように感じられた。しかし、自然豊かであったり、それを利用したアクティビティが盛んであったりと、家族の時間を大切にできるという点では良い面も沢山あると感じた。今後は若い子育て世代の人々をどのようにして村に呼んでくるかが課題だと先生も仰っていた。

診療所で医師をすることは大変そうだと思っていたが、患者さんに数日後すぐ来てもらうことができるため治療法の修正がしやすかったり、行政との連携を自分がとったりと、大きな病院では経験できない体験をできるメリットがあった。特にこのような小さな村では行政との連携が非常に大切であり、その役を担うのは大変やりがいのある仕事だと感じた。実際役場に挨拶に行った際、内川先生と役場の職員さんの仲は大変良さそうで、普段から交流を大切に

いるのだろう。医療面について、患者さんは多彩な症状で来院されるため広い知識が必要だが、自身の専門医としての知識が活用できる機会も沢山あるそうだ。看護師さんや理学療法士さんとの関係性も良好であり、人との繋がりが働きやすさにも大切であると感じた。

2日目は筏下りを体験させてもらった。大阪やさらに遠くの地域からも来ているくらい有名だそうだ。確かに都会では体験できないほど大自然を体験することができ、とても貴重だった。

2日間を通して、一番の問題は若い人が住みたいと思えるようにすること、また若い人に北山村を訪れるきっかけを与えることが大切だと感じた。特に私が印象的だったのは産婦人科がないため、出産する場合は新宮市まで行かなければならないことである。南の地域で実習をさせていただくとよく聞く話だが、近くの大きな病院まで行かないと出産ができないのは、若い人が住みづらいと思う理由の一つになるのではないかと考える。また北山村を訪れるきっかけについて、内川先生のようにYouTubeを利用したり積極的にイベントを開催したりと、村についての情報をアピールしていく気持ちのある人がいることが必要だと思う。もし診療所で勤める機会があれば、医療だけではなく村の活性化についても考えられる医師でありたい。

4. 謝 辞

2日間ありがとうございました。診療所内だけではなく北山村そのものについて知ることができる大変貴重な実習となりました。私達の小さな質問についても詳しく回答していただき、学びの多い実習でした。また機会があればぜひ訪問させていただきたいです。ありがとうございました。

〈自治医科大学学生実習風景〉



訪問診療の様子



福祉センターでの聴診



筏下り体験の様子

保健所実習

〈保健所実習〉

令和6年8月2日(金)～8月23日(金)の1日間、本学地域医療専1年生(10名)が県内4か所の保健所に分かれて実習を行いました。それぞれの保健所では、所長先生や職員の皆様から保健所の概要について講義を受け、保健所事業の見学をさせていただいたことで、保健行政や公衆衛生の現場を体験することができました。



参加者名簿

▼和歌山県立医科大学医学部 地域医療専

実習先	学年	学生氏名	対応医師名(保健所長名)	実習日
岩出保健所	1	田中結太郎	池田 和功先生	8月 2日(金)
	1	山本 皓太		
御坊保健所	1	津井 琢海	新谷 浩子先生	8月 8日(木)
	1	土屋 力輝		
田辺保健所	1	中本 暖乃	形部 裕昭先生	8月23日(金)
	1	大西金之助		
和歌山市保健所	1	野村 宥拝	笠松 美恵先生	8月22日(木)
	1	熊本奈甫子		
和歌山市保健所	1	小池 芹加	笠松 美恵先生	8月22日(木)
	1	藤本 恵		

1 岩出保健所



位置 和歌山県岩出市高塚209

和歌山県立医科大学医学部地域医療科

1年生 田中 結太郎

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

実習施設：岩出保健所

岩出保健所はJR和歌山線岩出駅から徒歩10分、県立那賀高等学校前に位置し、その管轄区域は紀の川市と岩出市で、開所日と開所時間は月曜日から金曜日の9時から17時45分までです。また岩出市は大阪府や和歌山市のベッドタウンとして人気であり、北部には和泉山脈が連なり、南部には紀の川が流れ、人口増加率が多いことでも知られています。



2. 実習内容

実習日は8月2日で、実習内容は主に午前と午後で分かれています。午前中は主に歩き始めが遅い、または自力で立ち上がることができないといった幼児を診察している様子と、実際に理学療法士によるリハビリの様子を見学させていただきました。また見学中はエプロンとマスクをつけるよう指示されました。そして午後からは紀の川市立池田小学校で、岩出保健所の職員によるアルコール健康障害の予防と薬物乱用の防止についての説明会に参加させていただきました。



リハビリを行っていた部屋

3. 考 察

幼児の診察を見学していた際に、幼児が泣いてしまったケースがありましたが、担当なさっていた先生は「ごめんねー、怖かったよねー。」と手慣れた様子で即座にあやしていました。診察中に幼児が泣いてしまうと、正確な診察をすることが難しくなってしまうため、こういった幼児のあやし方もしっかりと理解し慣れておかななくてはならないのだと考えました。また、岩出保健所は総務福祉課や保健課などで定期相談事業を行っており、日々紀の川市と岩出市の地域住民の健康を支えるために最善をつくしているのだと考えました。

4. 謝 辞

今回の実習では岩出保健所が日々行われている活動の一部を見学させていただきました。担当してくださった先生方、職員の方々からはたくさんのお話を聞かせていただきました。本実習で学ばせていただいたことを将来医師として活かすためにもこれからも勉学に励ませていただきます。今回は私たち学生のためにこのような機会をつくっていただいたことに心より御礼申し上げます。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

1年生 山本 皓太

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

(岩出保健所)

岩出駅から徒歩10分、保健所前に県立那賀高等学校

(その地域の概要・特徴)

岩出市は和歌山県の北部に位置している面積約38km²、総人口約5万人の市であり、大阪府や和歌山



市のベットタウンとしても知られています。また、木や畑といった緑が多く、空気がとても綺麗で過ごしやすいような印象を受けました。

2. 実習内容

午前中は、歩くことなどの発達に遅れのある0～3歳ぐらいの子どもを診療して、最後に理学療法士の方がその母親に対してアドバイスをするという一連の流れを見学させていただきました。動き回っている元気な赤ちゃんもいれば、動き慣れておらず泣いてしまう赤ちゃんもいて、それに応じて医師と理学療法士の方は臨機応変に対応していました。また、赤ちゃんと接するときはどの方も笑顔で接されていました。そして、診療が終わった後カンファレンスに参加させていただきました。

午後からは、小学校の保護者向けのアルコールと薬物に対する注意喚起の講義を受けさせていただきました。この講義を受けることによって、私が今まで知らなかった知識を得ることができて良かったと思いました。また、少しの冗談なども交えながら講義を行ってくださったので、ずっと集中力を切らさずに聴くことができました。

最後に、所長の池田先生に保健所内を案内してもらい、少しお話をさせていただきました。

3. 考 察

小学校に訪問してアルコールや薬物などの注意喚起を行ったり、発達に遅れのある子どもの診療を行ったりしていることから、その地域の人々と根強い関わりがあることが分かりました。このような幅広い活動を通して住民たちと関係を深めていくことは住民自身が住んでいる場所を信頼して頼ろうと思えるきっかけになると思います。ですから、保健所という存在は地域にとって必要不可欠で、なおかつ町と住民間の信頼関係を築いていくためにも重要であると感じました。

4. 謝 辞

この度は、お忙しいところ、保健所実習をさせていただき誠にありがとうございました。池田和功先生をはじめ、職員の皆様には、暑い中でしたが丁寧なご指導をいただき、心から感謝しております。

今回の保健所実習を通して、保健所は住民から必要とされている存在であるということが分かりました。私はまだ1年生であり未熟さを痛感しながらも、大変有意義な時間を過ごすことができました。

末筆ながら、岩出保健所の皆様方のご健勝をお祈り申し上げます。

2 御坊保健所



位置 和歌山県御坊市湯川町財部859-2

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

1年生 津井 琢海

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

(実習施設：御坊保健所)

保健所での業務は、病院での医療提供とは異なる部分が多く、地域全体の健康を守るためにどのような活動が行われているのかを知ることができました。御坊保健所では、感染症の予防や対策、地域住民の健康診断、健康増進活動などが行われており、これらの活動が地域医療にとって欠かせないものであることを理解しました。



2. 実習内容

特に印象に残ったのは、地域の高齢者に対する保健指導です。和歌山県は高齢化が進んでおり、御坊市もその例外ではありません。保健所では、高齢者の健康管理や介護予防のためのプログラムが実施されており、住民がより健康的な生活を送れるように支援していると学びました。

午前中は保健所の職員数や職種などの概要と、御坊保健所がこれまでに取り組んできたことであったり、これからしていく政策について学びました。午後からはチョコレート工場である株式会社たにぐち日高川工場に行き、食品工場等で取り組まれているHACCP（Hazard Analysis and Critical Control Point）について学びました。株式会社たにぐち日高川工場はHACCPの外部認証である、FSSC22000、ISO22000を取得していました。

3. 考 察

保健所のスタッフの方々が、住民一人ひとりの健康状態を把握し、生活習慣の改善を指導したり、健康に関する教育を提供したりする様子を見て、医療は病院の中だけでなく、地域全体で支えられているのだと感じました。

また、感染症対策に関する業務にも触れることができました。特に、新型コロナウイルス感染症に関する対応は、地域医療にとって大きな課題となっており、保健所が果たす役割の重要性を再認識しました。御坊保健所では、感染者の追跡やクラスター対策、ワクチン接種の調整などが行われており、その過程で保健所のスタッフがどれだけ迅速かつ的確に対応しているかを知ることができました。考察として、保健所から発信することのできる感染症対策は、地域住民の健康を守るために非常に重要な業務であり、医療従事者としての迅速な判断と対応が求められることを強く実感しました。

4. 謝 辞

実習を通して、地域医療の現場で働く医療従事者の方々の熱意と献身に感銘を受けました。彼らは、地域住民の健康を第一に考え、日々の業務に取り組んでおり、その姿勢に深く感動しました。保健所での業務は、目に見える成果がすぐに現れるわけではありませんが、長期的な視点で地域の健康を支える非常に重要な役割を果たしていると学びました。私はこの実習を通して、医療は病院での診療だけでなく、地域全体で行われる予防や健康増進活動も非常に重要であることを学びました。

この経験を通じて、私は医師としてどのような役割を果たすべきかについて、より深く考えるようになりました。患者一人ひとりの健康を守るだけでなく、地域全体の健康に貢献できるような医師を目指していきたいと強く感じました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療科

1年生 土屋 力輝

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

御坊保健所は御坊市、美浜町、日高町、由良町、印南町、日高川町の1市5町の衛生環境や人口動態などの地域の健康の増進を図る機関である。この地域には結核専用の病床を持つ和歌山病院があるため、御坊保健所は結核についても注目している。

2. 実習内容

今回は次の内容について学習した。

- ・御坊保健所の役割
- ・感染症について
- ・保健課の仕事
- ・保健所の行っている健康増進の啓発について
- ・衛生環境課について



3. 考 察

保健課には保健グループと健康グループの2つがあり、健康グループは地域医療体制の整備や医事、健康危機管理体制の総括、医事統計・保健統計、結核・感染症体制について扱っており、健康グループは母子保健、健康づくり、難病患者保健福祉対策、原爆被害者対策、栄養指導・栄養改善、精神保健福祉対策について扱っている。衛生環境課は食の安全、動物愛護・管理・狂犬病予防、理・美容・クリーニング・公衆浴場等の衛生管理指導、廃棄物対策、公害対策、鳥獣・自然公園、薬事・毒物・劇物、献血、臓器移植について扱っている。そして、衛生環境について食品工場等はHACCP (Hazard Analysis and Critical Control Point) の取り組みが令和3年から義務化されている。そして、近くにある株式会社たにぐち日高川工場はHACCPの外部認証である、FSSC22000とISO22000を取得し、高度の食品安全性が認められている。

結核は8割が肺で起こる肺結核であるが、そのほかに、結核性髄膜炎・頸部リンパ節結核・結核性胸膜炎・腸結核・皮膚結核などがある。そして結核は空気感染で起こるものであり、感染症において、感染は血液内に病原菌が入ることであり、発病は菌が増殖し、症状が出てくることであることを学んだ。

以上のことから保健所は私たちの生活において欠かせないものだと感じた。御坊区域でいえば和歌山病院が結核を専門的に取り扱っているから御坊保健所も結核に注目しているなど、地域の特性も踏まえた役割をも保健所が担っている。また、基本的な人口変動や人口構成、出生・死亡、結婚・離婚などのデータも収集する役割がある。このようなことから保健所は私たちが日常生活を送るうえで欠かせない存在だと思った。またこの御坊保健所は保健師だけでなく、

医師や獣医、医療技師、環境監視員など多くの役職の人が携わっていることから保健所が担っている役割の重要性は言うまでもないことである。

4. 謝 辞

この度は1日間御坊保健所についてご説明ありがとうございました。私的な話になりますが私はこの保健所実習日の前日まで、和歌山病院で2泊3日の病院実習に参加してきました。そのため病院実習で学んだことと関連させながら保健所の皆様方の話を聞くことができ、より御坊の医療の現状について深く学ぶことができました。大学卒業後はへき地医療に携わるため、この1年の段階で地域に触れることはこれからへき地に目を向けていく中で貴重な経験でありました。今回学んだことを忘れることなく自分が実際病院で働く際の地域特性の理解として心に留めておきたいです。

和歌山県立医科大学医学部地域医療科

1年生 中本 暖乃

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

御坊保健所（和歌山県日高振興局健康福祉部）は御坊市にある。御坊保健所の管内は和歌山県のほぼ中央に位置し、御坊市、美浜町、日高町、由良町、印南町、日高川町の1市5町を有している。面積は579.03km²で、和歌山県の約12%を占めている。東部には紀伊山系に属する山岳地帯が連なり、管内面積の73.2%を森林が占めており、西部の日高川、切目川等の河川の流域に平野がひらけている。気候は黒潮の影響を受け、一般に温暖で雨量も多いが、海岸部と山間部ではかなり異なる気象条件を有している。管内の人口は、令和5年4月1日現在57,923人であり、約三割が65歳以上の高齢者である。



健康福祉部は、総務福祉課、保健課、衛生環境課からなる。総務福祉課は、予算や生活保護・生活困窮者自立支援に関する業務を行う総務・保護グループと、障害福祉、高齢者福祉、児童福祉、介護保険サービス事業、障害福祉サービス事業、御坊保健医療圏域における退院支援ルールなど福祉に関することを行う福祉グループからなる。保健課は、地域医療体制の整備や医事、結核やエイズ、新型コロナウイルスなどの感染症対策などを行う保健グループ、指定難病、小児慢性特定疾病に関すること、母子保健や健康づくり、栄養指導や栄養改善を行う健康グループがある。衛生環境課には、食の安全や動物愛護、水道水の安全・安定供給や廃棄物・公害対策、献血や臓器移植、自然公園、鳥獣保護など生活衛生に関することを行う衛生環境グループ

がある。

職員には、常勤職員として保健師のほか医師、事務吏員、薬剤師、獣医師、診療放射線技師、管理栄養士、臨床検査技師、動物保護指導員、非常勤職員として、手話通訳者、就労支援員、自立支援相談員、環境監視員がいる。事務吏員には児童福祉司と精神保健福祉相談員がおり、常勤職員は36名、非常勤職員4名の計40名が健康福祉部の職員として勤務している。

定期事業には、患者家族、接触者を対象とした接触者健診、治療を終了した結核患者を対象とした管理検診などの結核対策や、地域住民を対象とした精神保健相談（こころの健康相談）といった精神保健、母子保健に関することばの相談や運動発達に課題のある18歳未満の児童を対象とした療育相談、感染症対策としてエイズ・性感染症検査や肝炎検査、その他健康診断や骨髄バンク登録などを行っている。さらに、難病対策も行っており、指定難病の医療費助成や、難病患者医療相談事業なども行っている。

また、御坊保健医療圏域健康増進計画である健康日高21に取り組んでいる。健康日高21は平成14年度と平成25年度に策定されており、令和5年度に三度目の策定がなされ、健康日高21（第3次）となっている。健康日高21（第3次）では、地域の人々が元気にいきいきと生活できるよう健康づくりを地域全体に推進することを目指しており、四つの基本方針と七つの目標分野からなる。

2. 実習内容

御坊保健所にて、御坊保健所の事業内容についての講義を御坊保健所長の新谷浩子先生や職員の方にしていただいた。新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策や、健康日高21、健康福祉部の概要について詳しく説明していただいた。感染症対策や難病対策、公害対策など保健所が行っている業務について説明していただいた。健康日高21については、目標の七つの分野である（1）栄養・食生活、（2）身体活動・運動、（3）休養・こころの健康、（4）アルコール、（5）たばこ、（6）歯・口の健康、（7）生活習慣病について、それぞれの具体的な目標や達成度などを教えていただいた。

また、午後に、HACCPに取り組んでいる株式会社たにぐち日高川工場に見学に行かせていただいた。HACCPとはHazard Analysis and Critical Control Point（危害分析と重要管理点）のことであり、日本では、令和3年からすべての食品事業者で取り組みが義務となっている。従来では出来上がったものを抜き取り検査していたが、HACCP方式では、調理過程、包装過程を継続的に監視・記録することでより安全なものを提供することが出来る。そのHACCPの外部認証であるFSSC22000とISO22000を取得している、チョコレートや焼き菓子の製造を行う日高川町にある工場を見学させていただいた。

3. 考 察

和歌山県における二次保健医療圏が保健所のそれぞれの管内となっていて、地域の特徴にあったことを行っているのだと思う。御坊保健所は、健康日高21や、感染症対策に力を入れているように感じた。健康日高21では、具体的な目標の数値を設定し、計画期間中、中間評価などを行うことで、より目標に到達できるように働いているのだと分かった。また、エイズ検査や肝炎検査などに加え、新型コロナウイルス対策もまだまだ行われているのだとわかった。

病院はなった病気を治すための場所だが、保健所は、地域の人たちが病気にかからないように予防し、健康で安全な生活を安心しておくれるように環境を整備するための場所であり、より地域の方々と密に接し、関わっているのだと学んだ。

4. 謝 辞

御坊保健所長 新谷浩子先生をはじめ、講義して下さった御坊保健所職員の皆様、この実習に関わって下さったすべての方に感謝申し上げます。

3 田辺保健所



位置 和歌山県田辺市朝日ヶ丘23-1

和歌山県立医科大学医学部地域医療科

1年生 大西 金之助

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

実習施設：田辺保健所

田辺市の概要・特徴

気候：海岸部の温暖多雨な太平洋型気候から、山間地における内陸型の気候まで、広範囲にわたる

地形：美しい海・山・川の大自然を有する近畿一広い和歌山県南部の市

産業：田辺市の製造品出荷額のうち、梅加工業などの食料品製



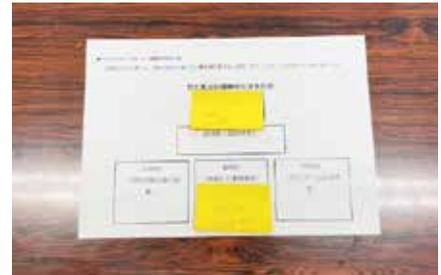
造業が全体の6割を占めている

観光地：龍神温泉や湯の峰温泉など有名な温泉資源に恵まれており、世界遺産「熊野古道」や「熊野本宮大社」など歴史的文化資源を数多く有している

高齢化：高齢者人口の割合は令和5年度で29.1%であり、全国平均の28.4%を上回っている。

2. 実習内容

実習時間は朝9時から夕方4時半までで、1日形部所長が自分たちの実習につきあってくださった。午前中は保健所の方々に挨拶をし、その後1日のスケジュールを教えてもらった。お昼までの2時間は災害が起こった際にどのように行動するかを記した冊子を用いて、それに書かれた手順で災害を想定した訓練を行った。その際、行動手順が分かりやすくなるようにアクションカードというものを用いたのだが、限られた人数の中で役割を決めることで災害時に効率よく行動できるようにされていたのはとても良いアイデアだと思った。お昼には形部所長がお弁当を頼んでくださり、とても健康的で美味しかった。



昼からは形部所長による講義があった。内容は保健所におけるコロナ対応、災害時の保健医療ニーズと活動について、石川県の能登半島地震の現場での話など自分が今まであまり意識していなかった部分を聞かせてもらうことができた。

お昼以降の最も大きなイベントはオンラインで行われる病院間の意見交換会の見学だった。そこでは南和歌山医療センターが中心となり、それぞれの病院がパワーポイントを用いて発表をしていた。そして、この実習の最後は保健所の方々の報告会のリハーサルに参加させていただいた。その後保健所の方々に挨拶をし、実習が終了した。実習はたったの1日だけだったが、とても内容の濃い1日となり、初めて経験することがたくさんあった。

3. 考 察

この1日を通して最も感じたことは田辺保健所の方々が災害に対しての準備を入念にされていたことだ。和歌山県はこれから来ると言われている南海トラフ地震に対する対策をしなければならないが、それについて自分が思っていた以上に細密に対策がされていたことに感銘を受けた。その上、保健所の方々は能登半島地震が起こった際1ヶ月間も援助活動に行かれたという話があったように、和歌山県以外で災害が起こった場合も援助に行かれるという話を聞き、自分も誰かが苦しんでいたらそれが誰だったとしても助けたいという気持ちが強くなった。また、形部所長が医師であると聞いて、医師として保健所に勤務する選択肢があるということも知ることができた。短い時間だったが、新しい経験ができ、新しい発見があったので、有意義な1日になった。

4. 謝 辞

朝から夕方まで長い時間お世話になりました。お邪魔させていただくまでは保健所でどのようなことをするのか見当もついていませんでしたが、実習を通して保健所が地域にとって重要な存在であることを知り、今までのありがたみを感じることができました。1日指導して下さった形部所長、部長、実習に関わってくださった方々、本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療科

1年生 野村 宥拝

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

田辺市の概要・特徴

田辺市は和歌山県の中南部に位置しており、人口・経済の点で和歌山県第二の都市である。市の面積は1,027km²で、近畿地方で一番大きい市である。また、高齢者人口の割合は、29.1%と高い数値となっている。

田辺保健所の概要・特徴

田辺保健所は、人々が安心して暮らせるように保健衛生、福祉・医療関係業務を行い、管轄は田辺市、みなべ町、白浜町、上富田町、すさみ町となっている。また、業務は総務福祉課、保健課、衛生環境課の3つの課に分かれて行われている。

2. 実習内容

ご指導頂いた先生 形部所長

実習は午前の部と午後の部に分けて行われた。

午前の部では、近い将来起こると予測されている南海トラフ巨大地震を想定した防災訓練を体験させて頂いた。この体験から南海トラフ巨大地震が起きたら、保健所がどう動いていくのかが分かった。そこで、衛星電話の使い方や管轄内の病院への連絡の取り方、被害状況の把握の仕方などを学ばせていただいた。

午後の部では、新型コロナウイルスが流行した際に実際に行われた保健所の対応例をいくつか教えていただいた。クラスターが発生した施設やそこにいる人々の特徴に合わせて対応が違っており、面白かった。どの対応策もその施設を利用する人のことを考えられたものであった。また、最後にある職員さんの食中毒に関する学会発表のリハーサルを見学させて頂いた。



3. 考 察

田辺保健所には、田辺市外から通勤してきている職員の方が多いという特徴があり、勤務時間外に南海トラフ巨大地震が発生した場合の対応が重要になってくる。田辺保健所では、南海トラフ巨大地震の発生に備えたマニュアルが製作されており、迅速に対応できるように準備されていた。そのマニュアルでは、災害発生による職員の出勤率が悪い場合も想定されており、この場合では、グループの作成とリーダーが最優先にされており、自分の将来にも役立つ経験となった。また、保健所には衛星電話や予備電力、ヘルメットなどが用意されていた。これまで衛星電話を使ったことがなく、設置から使用までにかかなりの時間がかかるものだと思っていたが、慣れれば3分ほどでできることが分かった。実際に災害が起きても実用的なことが分かったため、貴重な体験となった。また、午後からの新型コロナウイルスのクラスターが発生した場合の対応事例についての学習では、柔軟に対応することの重要性を学んだ。

4. 謝 辞

この度はお忙しい中、僕たちのために貴重な時間を割いていただきありがとうございます。保健所実習で学んだ柔軟な対応力と緊急事態における対応力は今後の学生生活だけでなく、医師になってからも役立つと感じました。また、今まで知らなかった保健所の業務内容について知ることができ、臨床医として働くことだけが将来ではないと思いました。将来の選択肢の幅を増やしていただきありがとうございます。自分はへき地で困っている人々を救うために医者になろうと思い、和歌山県立医科大学に入学しましたが、何も医者だけがへき地の人々を救っているわけではないし、医者だけが存在していてもへき地の人々を救えるわけではないという当たり前のこと再確認する良い機会となりました。本当にありがとうございました。

4 和歌山市保健所



位置 和歌山市吹上5-2-15

和歌山県立医科大学医学部地域医療科

1年生 熊本 奈甫子

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

私は8月22日に和歌山市保健所、和歌山市西保健センター、動物愛護管理センター、衛生研究所で実習をさせていただきました。和歌山市保健所の管轄地域は和歌山市で、周辺の医療機関には日赤医療センターなどがあり、保健対策課、地域保健課、生活保健課、総務企画課の4つの課があり、その中でさらに班にわかれて業務を行っている。保健対策課では、難病や感染予防対策などを、地域保健課では母子保健事業などを、生活保健課では食品衛生の向上や動物愛護に



関する業務などを、総務企画課では保健衛生に関する企画や医療機関などの監視及び指導などを行っている。和歌山市は人口約36万人で和歌山県の中で一番医療が整っているが、少子高齢化が進んでいる。

2. 実習内容

午前：和歌山市保健所

午後：和歌山市西保健センター、動物愛護管理センター、衛生研究所

和歌山市保健所では所長の笠松先生から保健所の役割や業務内容などについてお話を聞いた後、施設内を見学した。

和歌山市西保健センターでは乳幼児の診察室などを見学した。そこには管理栄養士もいて、母親に栄養面でアドバイスをしていた。また、図書館や子供が遊べる施設も併設されており遊びのついでに体重などを測りに行く親子も多いと聞いた。

動物愛護管理センターでは保護された犬猫を抱っこしたり、今は使われていないという殺処分の機械を見た。その日に保護された犬もいてまだまだ野犬や野良猫がいることを実感した。

衛生研究所では実際にそのときに行われていた検査の結果を見せていただいたり、詳しく機械の解説をしていただいたりした。水質や食品だけでなく、ウイルスの検査もされていた。



3. 考 察

今までは保健所と保健センターが区別されていることや仕事内容を認識していなかったが、この実習を通して保健所はその地域にあった方法でいくつかのセンターで分割しながら地域住民の健康を守っていると知ることができた。また保健所には医師や栄養士などもいたことから多職種連携が大切だと実感した。地域医療を支えるのには病院だけではなく保健所も重要になってくるとわかったので将来、地域医療に従事する医師になる者として保健所の役割を理解しておきたいと思った。

4. 謝 辞

笠松所長をはじめ色々な施設の職員の方々、お忙しい中貴重な時間を割いて下さり本当にありがとうございました。実際に働いているの方々からお話を伺うことができとても貴重な経験になりました。さらに保健所のことを知り、将来地域医療に携わる際に活かしたいと思います。

1. 実習施設とその地域の概要と特徴

和歌山市保健所：和歌山市内の中心地に位置する。総務企画課、生活保健課、保健対策課、地域保健課の4つの課があり、それぞれ地域住民の暮らしをサポートするための別々の仕事を担っている。公衆衛生や地域保健の観点から、少子高齢化など時代の変化に対応しながら和歌山市に見合った形で保健技術を提供している。



西保健センター：乳幼児健康診査や育児・発達相談、お母さん同士が親睦をはかることのできる環境が整っている。図書館や遊び広場などを併設しており、気軽に立ち寄りやすく、また小さい子供が走り回っても安全な環境であった。

動物愛護管理センター：和歌山市内の住宅地の中につくられていた。殺処分をさけるために何年も長い間保護されている犬や猫が多くいた。保護されたときの場所や状況はさまざまに野良の犬も多くいた。

和歌山市衛生研究所：動物愛護管理センターのとなりに位置する。食品、飲料水などの安全確保のため成分解析などを行い、また、感染症などの健康危機対策のために、調査研究、公衆衛生情報の収集・解析などを行っており、市民の生命と健康を守っている。

2. 実習内容

まず、和歌山市保健所を見学させていただき、所長の笠松先生から和歌山市保健所の歴史や保健所の存在意義や役割についての講義を受けた。次に、和歌山市西保健センターに移動した。乳児の4か月検診が行われていたため、体重身長測定や医師の診察、その他育児指導などを見学させていただいた。その後、和歌山市動物愛護管理センターに移動し、保護されている猫と犬を見学し、どのような状況で保護されたのか、今後どうなるのかについて教えていただいた。最後に、和歌山市衛生研究所に移動した。施設を見学しながら研究所の方から説明を受けた。

3. 考 察

保健所では和歌山市民の快適な暮らしを支えるためにあらゆる場面からサポートを行っていた。病院だけでなく保健所などでも医師として貢献することができることが興味深かった。動物愛護管理センターが、ふつうは山奥などにあると思っていたため住宅地の中にあり、人が訪れやすいメリットの反面、動物の鳴き声や騒音に十分な注意が必要となるデメリットもあつたと知った。

4. 謝 辞

本実習を行うにあたり、和歌山市保健所所長の笠松先生をはじめとする各施設の職員の方々には大変お世話になりました。この実習では、いままで知らなかったこと、知ろうとしていなかったことを多く学ぶことができ、自分がいかに無知であったかを認識することができました。今回の実習で学んだことを将来にいかせるよう、まずは医師になることを目標にしつつ、もっと幅広く保健福祉や健康についての知識を深められるよう、努力していこうと思います。この度は本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療科

1年生 藤本 恵

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

今回の実習では和歌山市保健所を見学した。

和歌山市保健所は和歌山市のみを管轄している。令和6年8月1日において、和歌山市は総人口が354,213人で面積は208.85km²である。県内の市町村の中で最も人口が多く、子供から高齢者まで幅広い年代の市民が暮らしている。和歌山市保健所は総務企画課、生活保健課、保健対策課、地域保健課の4つの課から成り立っていてそれぞれが分担して業務を行うことで、管轄内の住民の健康を守っている。保健所内では医師、保健師、薬剤師、獣医師、管理栄養士、歯科衛生士などといった専門職員も業務にあたっていて、専門的な対応も行われている。



2. 実習内容

午前中は和歌山市保健所所長笠松先生に和歌山市保健所が行っている事業、各課のことや和歌山市の現状について説明していただいた。その後、所内を見学した。たくさんの職員の方が実際に業務を行っている姿を見学することで、保健所では管轄内の人々の健康の保持増進を支えるために、様々な事業を提供していて、それらによって自分たちの健康が支えられていることを実感した。

次に西保健センターの見学をさせていただいた。和歌山市には4つの保健センターがあり、それぞれが地域住民に密着したサービスを提供している。今回は4か月児健診の様子を見学させていただいた。地域子育て支援拠点施設である西保健センターでは、子どもとその両親を温かく迎えるような明るい雰囲気を感じた。気軽に親子で来てくれる保健センターのために、様々な活動が行われていることが印象的だった。

その後、動物愛護管理センターと衛生研究所を見学させていただいた。

動物愛護管理センターでは保護されている犬や猫、設備の見学を行った。以前に比べて殺処分される頭数は減少しているが、譲渡を1年以上待ち続ける犬や猫がいることがおどろきだった。実際に殺処分に使っていた装置や実習当日に保護された犬を見て、複雑な気持ちになり、殺処分がゼロになる将来が来てほしいと心から感じた。

衛生研究所では食中毒や感染症、水質に関する検査を行う設備を見学させていただいた。感染症が流行したとき、検査を何度も行っていたため、検査せずとも結果がみてわかったと職員の方がおっしゃっていたことが印象的だった。自分たちの暮らしが衛生研究所を含む行政によっても守られていることを実感した。

3. 考 察

今回の実習で、今までどのような事業を保健所が行っているか知らなかったが、母子保健事業や環境に関する検査など、住民の生活や健康について重要な事業を行っていることを知ることができた。また、普段の何気ない暮らしも、保健所の職員の方の事業によって成り立っていることも知ることができた。今まで医師としての勤務先は病院や診療所としか考えたことがなかった。しかし行政においても地域医療に医師が貢献していて、様々な場所で医師は活躍できることを感じた。今回の実習では見学しなかった施設や行われている事業について自主的に調べることで、より深く保健所のことについて知っていきたい。

4. 謝 辞

和歌山市保健所長笠松先生や職員の皆様、お忙しい中貴重な時間を割いていただきありがとうございました。実習で実際の施設を見学させていただき、様々な説明をしていただいたことで、保健所の業務についてとても理解が深まりました。また、それらの業務が住民の健康的な生活に必要な不可欠であることを肌で感じました。今回の実習で学んだことを活かして、将来地域の医療に貢献できるよう、日々努力を重ねていきます。この度は本当にありがとうございました。

地域枠学生及び医師の実習報告会・交流会

令和6年8月24日(土)に地域枠学生及び医師の実習報告会・交流会を開催しました。実習報告会では、代表者12名が各自の実習内容や感想を発表し、参加者はそれぞれの医療機関や地域の特色を知ることができました。

年に一度の開催となる交流会は、学年や医師年数を越えた交流を行う機会となりました。地域枠医師11名にもご参加いただき、地域枠の先輩として、学生からの様々な質問への答えや、将来へのアドバイスをいただきました。

〈実習報告会〉

実習先	学年	発表者氏名
1. 那智勝浦町立温泉病院	5年	榎本真太・土山徳季
2. 紀南病院	5年	榊原夏葉・中平悠馬
3. ひだか病院	5年	谷上大典・冷水詩音
4. 公立那賀病院	5年	橋爪智大
5. 新宮市立医療センター	5年	福井 凜
6. 国保野上厚生総合病院	5年	三住晃士
7. 和歌山市保健所	1年	熊本奈甫子・小池芹加・藤本 恵



〈実習報告会〉



実習報告会・交流会

〈交流会〉





おわりに

和歌山県立医科大学地域医療支援センター 副センター長・講師
和歌山県地域医療支援センター 副センター長

蒸野 寿紀



この夏季実習は、将来地域医療に従事する医学生にとって、モチベーションを維持し、将来像をイメージする貴重な学びの機会です。実習期間中には南海トラフ地震臨時情報が発表され、一部学生が特急の運休などの影響を受けましたが、その他の部分では大きな影響もなく無事に終了することができました。「黒潮医療人養成プロジェクト」では、昨年度に引き続き、アクティブラーニング（地域総合診療コース、災害・救急コース）として、実践的な学びの場を提供しました。また、本年度より開設された「北山村地域医療研修センター」でも実習を行いました。県民医療枠B・Cの学生は、昨年度に引き続き、将来従事することになる産科・小児科・精神科における実習を行いました。保健所実習は、保健所ごとに隔年での実施に変更となり、4か所での実習となりました。実習の成果は、地域枠1～4年生を対象とした地域マインド教育の実習報告会と、8月24日に行われた実習報告会で共有されました。8月24日の報告会後には、ビアテラスで開催されたバーベキューを通じて教員・在学生・卒業生が懇親を深める機会もありました。

この実習は、地域医療枠卒業生が中心となって学生を受け入れてくれています。今回参加した学生には、将来医師となった際に、次世代の学生を受け入れ、この伝統を継承していくことを期待しています。今後もこうした連携を基盤に、実習内容をさらに充実させ、地域医療に積極的に参加する意識を育んでまいりたいと思います。この場をお借りして、実習にご協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。



和歌山県立医科大学地域医療支援センター
地域医療支援コーディネーター・助教
和歌山県地域医療支援センター
地域医療支援コーディネーター

川端 大輝

昨年度に引き続き、今年度も実習前から学生の要望を指導医に共有させていただき、指導医の先生にも実習内容を前もってお伝えいただくようにし、実習期間のお互いの情報共有がスムーズにできるようにご協力をお願いしました。先日行われた実習報告会では、『実際に自分が将来どのように働くのかイメージできた』、『キャリア形成のうえで疑問に思っていたことを指導医の先生に教えてもらうことができた』といった感想をたくさん聞くことができ、以前にも増して本実習が学生にとって意義のあるものになっているのではないかと感じました。それぞれの学年に応じて異なった見方や感じ方があり、毎年の実習で少しずつ自身の成長を感じることができる場面も多かったのではないかと思います。指導医の先生方にはご多忙のところ、学生のニーズに合った実習内容をご提供いただいたことを感謝申し上げます。

さらに近年では、実習報告会などでの学年を超えたつながりの場も増え、地域医療枠がより一層の一体感を持って活動できているように感じます。実際に地域で従事している先生方から学生まで含めて、このようなつながりをもった活動を増やしていければと考えています。



ホームページ・ <http://www.cmssc.jp/>



Facebook・ <https://www.facebook.com/W.CMSC>

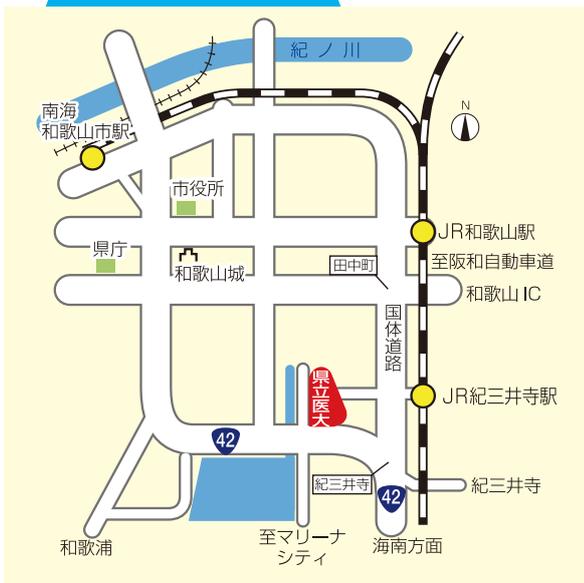
和歌山県地域医療支援センター



和歌山県 地域医療支援センター

〒641-8509
和歌山市紀三井寺811番地1
TEL：073-441-0845
FAX：073-441-0846

アクセス方法



- JR 紀三井寺駅 → 徒歩（約10分）
- JR 和歌山駅 → バス・タクシー
- 南海和歌山市駅 → バス・タクシー



- JR 和歌山駅
 - 1番のりば「医大病院」行 約30分
 - 2番のりば「医大病院」行 約30分
- 南海和歌山市駅
 - 1番のりば「医大病院」行 約50分
 - 2番のりば「医大病院」行 約25分
 - 3番のりば「医大病院」行 約30分

令和6年10月 発行

発行 和歌山県立医科大学地域医療支援センター センター長・教授
和歌山県地域医療センター センター長

上野雅巳